

# 中城御殿跡

一 県営首里城公園 中城御殿跡発掘調査報告書(4)一



平成25(2013)年3月

沖縄県立埋蔵文化財センター

# 中城御殿跡

—県営首里城公園 中城御殿跡発掘調査報告書(4)—

平成25(2013)年3月

沖縄県立埋蔵文化財センター



## 序

本報告書は、首里城公園整備に伴い、沖縄県土木建築部都市計画・モノレール課より予算の分任を受け、沖縄県立埋蔵文化財センターが平成 23（2011）年度に行った中城御殿跡の発掘調査の成果をまとめたものです。

中城御殿は、次期琉球国王となる世子の邸宅として、当初は現在の首里高等学校敷地内に創建されました。1870（明治 3）年に今回の調査対象となった大中町に新たに造営が開始され、1875（明治 8）年に移転します。そして、1879（明治 12）年の王国の崩壊を経て、1945（昭和 20）年の沖縄戦により破壊されるまでの間、当地に存在していました。

発掘調査によって、石畳や石積み・地面・造成層などの遺構が良好な状態で遺されていました。また、これに伴い、中国や日本各地で焼かれた陶磁器が多数出土しているほか、戦後に使用されたガラス瓶なども出土しています。

この成果をまとめた本報告が、本県における琉球王府時代末期から戦後の歴史・文化を理解する資料として、多くの方々に活用されるとともに、埋蔵文化財の保護・活用について関心を持っていただければ幸いです。

最後に、発掘調査ならびに資料整理作業にあたり、ご指導・ご協力を賜った関係者各位に厚く御礼申し上げます。

平成 25（2013）年 3 月

沖縄県立埋蔵文化財センター  
所長 崎浜 文秀





卷頭図版 1 出土遺物



卷頭図版 2 調査区全景 奥は首里城（北から）



卷頭図版3 上：トレンチ1～4 下：トレンチ5～7

## 例　言

1. 本報告書は、県営首里城公園の整備に伴い、平成 23（2011）年度に実施した中城御殿跡の埋蔵文化財発掘調査成果を、平成 24（2012）年度に資料整理作業を行い、まとめたものである。
2. 発掘調査、資料整理作業ともに、沖縄県土木建築部都市計画・モノレール課より予算の分任を受けての実施である。
3. 資料整理作業にあたり、調査体制の項で記した多くの方々に資料の同定・整理指導をいただいた。記して謝意を表したい。
4. 本書に掲載した緯度、経度、平面直角座標は、すべて世界測地系に基づくものである。
5. 本書に掲載した地図は、国土地理院発行の 1 / 25,000 地形図を使用した。
6. 本報告書に掲載した航空写真は、国土地理院の 93OKINAWA49-12 と、沖縄県教育庁文化財課史料編集班が所蔵する、1944 年に米軍により撮影された CV20-103-63 を用いた。
7. 本書に掲載した中城御殿屋根伏図や、板図撮影写真（現資料：海洋博記念公園管理財団所蔵）を起こした翻刻図は、中城御殿跡地整備検討委員会資料〔沖縄県都市計画・モノレール課提供〕を用いた。
8. 本書に掲載した古写真は、沖縄県立博物館・美術館の他に、鎌倉芳太郎資料を沖縄県立芸術大学付属図書・芸術資料館所蔵資料より、坂本万七撮影資料を財団法人日本民藝館の許可を得て掲載した。これらの写真及び、その他所有者不明の写真については出典を明記し、文献は巻末にまとめた。
9. 本書に掲載した調査時の写真撮影は、羽方誠が行い、出土遺物の写真撮影は矢舟章浩、伊佐えりなが行った。
10. 本書に掲載した遺構図は、羽方誠の指示のもと、宮城明恵、宮里知恵のほか、平成 23 年度発掘作業員により作成した。
11. 本報告書の編集は、調査体制の項で記した多くの協力のもと羽方誠が行い、各章の執筆は次のとおり行った。

羽方誠 第 1 ~ 5 章、第 7 章  
株式会社パリノ・サーヴェイ 第 6 章
12. 自然科学分析は株式会社パリノ・サーヴェイに委託した。
13. 各章で参考・引用した文献の一覧は、191 頁にまとめて掲載した。
14. 発掘調査で得られた出土品、図面、写真等の記録は、沖縄県立埋蔵文化財センターに保管している。

## 目 次

序

巻頭図版

例言

第 1 章 調査に至る経緯 .....	1
第 1 節 調査に至る経緯 .....	1
第 2 節 調査体制 .....	1
第 2 章 位置と環境 .....	3
第 1 節 地理的環境 .....	3
第 2 節 歴史的環境 .....	6
第 3 章 調査経過 .....	15
第 1 節 発掘調査 .....	15
第 2 節 資料整理 .....	15
第 4 章 層序・遺構・遺物 .....	23
第 1 節 層序 .....	23
第 2 節 トレンチ 1 の遺構と遺物 .....	23
第 3 節 トレンチ 2 の遺構と遺物 .....	28
第 4 節 トレンチ 3 の遺構と遺物 .....	32
第 5 節 トレンチ 4 の遺構と遺物 .....	40
第 6 節 トレンチ 5 の遺構と遺物 .....	56
第 7 節 トレンチ 6 の遺構と遺物 .....	78
第 8 節 トレンチ 7 の遺構と遺物 .....	88
第 9 節 搅乱層の遺物 .....	103
第 10 節 遺物の概観 .....	138
第 5 章 科学分析 .....	180
第 6 章 結語 .....	190
引用・参考文献 .....	191
報告書抄録	

## 図目次

第1図 沖縄本島の位置	4	第42図 青磁	140
第2図 中城御殿跡の位置及び周辺の遺跡	5	第43図 白磁	140
第3図 中城御殿屋根伏図	8	第44図 染付	140
第4図 中城御殿間取り復元図	8	第45図 色絵	141
第5図 中城御殿御普請板図翻刻図	9	第46図 翡翠釉	141
第6図 中城御殿発掘調査区・建物配置想定図	16	第47図 褐釉染付	141
		第48図 中国産褐釉磁器	141
第7図 遺構配置図と中城御殿御普請板図翻刻図	17	第49図 中国産陶器	141
第8図 トレンチ1	25	第50図 タイ産褐釉陶器	141
第9図 トレンチ2	29	第51図 本土産白磁	141
第10図 トレンチ3	33	第52図 本土産染付	141
第11図 トレンチ3出土遺物	38	第53図 本土産色絵	142
第12図 トレンチ4出土遺物	40	第54図 本土産磁器	142
第13図 トレンチ4	42	第55図 本土産陶器	142
第14図 トレンチ5	58	第56図 沖縄産施釉陶器1	142
第15図 トレンチ5	59	第57図 沖縄産施釉陶器2	143
第16図 トレンチ5	60	第58図 沖縄産無釉陶器	144
第17図 トレンチ5出土遺物1	68	第59図 陶質土器	145
第18図 トレンチ5出土遺物2	70	第60図 瓦質土器	145
第19図 トレンチ5出土遺物3	72	第61図 产地不明陶磁器	145
第20図 トレンチ5出土遺物4	75	第62図 石器	145
第21図 トレンチ6	80	第63図 貝製品	145
第22図 トレンチ6	81	第64図 石製品	145
第23図 トレンチ6出土遺物	87	第65図 円盤状製品	145
第24図 トレンチ7	89	第66図 煙管	146
第25図 トレンチ7	90	第67図 玉	146
第26図 トレンチ7	91	第68図 錢貨	146
第27図 トレンチ7出土遺物1	100	第69図 青銅製品	146
第28図 トレンチ7出土遺物2	102	第70図 鉄製品	147
第29図 揹乱層出土遺物1	110	第71図 金属製品	147
第30図 揹乱層出土遺物2	112	第72図 アルミ製品	147
第31図 揹乱層出土遺物3	114	第73図 ガラス製品	147
第32図 揹乱層出土遺物4	118	第74図 碍子	147
第33図 揹乱層出土遺物5	120	第75図 燃土	148
第34図 揹乱層出土遺物6	124	第76図 瓦1	148
第35図 揹乱層出土遺物7	126	第77図 瓦2	149
第36図 揹乱層出土遺物8	128	第78図 瓦3	150
第37図 揹乱層出土遺物9	130	第79図 瓦4	151
第38図 揹乱層出土遺物10	132	第80図 瓦5	152
第39図 揹乱層出土遺物11	134	第81図 墓誌	152
第40図 揹乱層出土遺物12	136	第82図 塚	152
第41図 出土遺物点数・重量の割合	139		

## 図版目次

卷頭図版 1 出土遺物

卷頭図版 2 調査区全景

卷頭図版 3 上：トレンチ 1～4 下：トレンチ 5～7

図版 1 米軍撮影中城御殿航空写真	7	図版39 トレンチ 4 検出状況⑪	54
図版 2 御番所（南西から）	10	図版40 トレンチ 4 検出状況⑫	55
図版 3 大広間東面と庭園（東から）	10	図版41 トレンチ 5 検出状況①	57
図版 4 大広間の内部	11	図版42 トレンチ 5 検出状況②	61
図版 5 庭園（北西から）	11	図版43 トレンチ 5 検出状況③	62
図版 6 望楼（南東から）	12	図版44 トレンチ 5 検出状況④	63
図版 7 首里市役所と首里バス	12	図版45 トレンチ 5 検出状況⑤	64
図版 8 新館開館式直前の風景	13	図版46 トレンチ 5 検出状況⑥	65
図版 9 閉館した沖縄県立博物館	13	図版47 トレンチ 5 検出状況⑦	66
図版10 現場事務所周辺の除草作業	19	図版48 トレンチ 5 検出状況⑧	67
図版11 表土の除去作業	19	図版49 トレンチ 5 出土遺物 1	69
図版12 磁気探査作業	20	図版50 トレンチ 5 出土遺物 2	71
図版13 トレンチ 5 の発掘作業風景	20	図版51 トレンチ 5 出土遺物 3	73
図版14 遺物洗浄作業	21	図版52 トレンチ 5 出土遺物 4	74
図版15 高校生職場体験	21	図版53 トレンチ 6 検出状況①	78
図版16 現地説明会	22	図版54 トレンチ 6 検出状況②	79
図版17 埋め戻し後の状況	22	図版55 トレンチ 6 検出状況③	82
図版18 トレンチ 1 検出状況①	26	図版56 トレンチ 6 検出状況④	83
図版19 トレンチ 1 検出状況②	27	図版57 トレンチ 6 検出状況⑤	84
図版20 トレンチ 2 検出状況①	28	図版58 トレンチ 6 出土遺物	86
図版21 トレンチ 2 検出状況②	30	図版59 トレンチ 7 検出状況①	88
図版22 トレンチ 2 検出状況③	31	図版60 トレンチ 7 検出状況②	92
図版23 トレンチ 3 検出状況①	32	図版61 トレンチ 7 検出状況③	93
図版24 トレンチ 3 検出状況②	35	図版62 トレンチ 7 検出状況④	94
図版25 トレンチ 3 検出状況③	36	図版63 トレンチ 7 検出状況⑤	95
図版26 トレンチ 3 検出状況④	37	図版64 トレンチ 7 検出状況⑥	96
図版27 トレンチ 3 出土遺物	39	図版65 トレンチ 7 検出状況⑦	97
図版28 トレンチ 4 出土遺物	40	図版66 トレンチ 7 検出状況⑧	98
図版29 トレンチ 4 検出状況①	41	図版67 トレンチ 7 出土遺物 1	101
図版30 トレンチ 4 検出状況②	45	図版68 トレンチ 7 出土遺物 2	102
図版31 トレンチ 4 検出状況③	46	図版69 搅乱層出土遺物 1	111
図版32 トレンチ 4 検出状況④	47	図版70 搅乱層出土遺物 2	113
図版33 トレンチ 4 検出状況⑤	48	図版71 搅乱層出土遺物 3	115
図版34 トレンチ 4 検出状況⑥	49	図版72 搅乱層出土遺物 4	116
図版35 トレンチ 4 検出状況⑦	50	図版73 搅乱層出土遺物 5	117
図版36 トレンチ 4 検出状況⑧	51	図版74 搅乱層出土遺物 6	119
図版37 トレンチ 4 検出状況⑨	52	図版75 搅乱層出土遺物 7	121
図版38 トレンチ 4 検出状況⑩	53	図版76 搅乱層出土遺物 8	122

図版77	搅乱層出土遺物9	123	図版85	貝類遺体1(巻貝1)	153
図版78	搅乱層出土遺物10	125	図版86	貝類遺体2(巻貝2・二枚貝)	154
図版79	搅乱層出土遺物11	127	図版87	脊椎動物遺体	155
図版80	搅乱層出土遺物12	129	図版88	寄生虫卵・花粉化石・種実遺体	187
図版81	搅乱層出土遺物13	131	図版89	玉製品	188
図版82	搅乱層出土遺物14	133	図版90	金箔製品	189
図版83	搅乱層出土遺物15	135			
図版84	搅乱層出土遺物16	137			

## 表目次

第1表	中城御殿跡関連年表	14	第20表	銭貨・煙管・円盤状製品・石製品・玉・貝製品・石器・木製出土状況	168
第2表	遺構一覧表	24	第21表	青銅製品・鉄製品・金属製品・アルミニウム製品・ガラス製品出土状況	169
第3表	トレンチ3出土遺物観察一覧	38	第22表	その他遺物出土状況	170
第4表	トレンチ4出土遺物観察一覧	41	第23表	瓦・埠・煉瓦・漆喰出土状況	171
第5表	トレンチ5出土遺物観察一覧	75	第24表	貝類出土状況(巻貝)	172
第6表	トレンチ6出土遺物観察一覧	85	第25表	貝類出土状況(二枚貝)	174
第7表	トレンチ7出土遺物観察一覧	98	第26表	魚類出土量	177
第8表	搅乱層出土遺物観察一覧	103	第27表	ヒト出土一覧	177
第9表	遺物出土状況	156	第28表	トリ類出土量	177
第10表	青磁出土状況	158	第29表	イヌ出土量	177
第11表	白磁出土状況	158	第30表	ブタ歯出土一覧	177
第12表	染付出土状況	159	第31表	ブタ出土量	178
第13表	その他中国産陶磁器出土状況	160	第32表	ブタ?出土量	178
第14表	中国産褐釉陶器・タイ産褐釉陶器・西洋陶器・産地不明陶磁器出土状況	161	第33表	ウシ出土量	178
第15表	本土産陶器・本土産染付出土状況	162	第34表	ウシかウマ出土量	179
第16表	本土産白磁・本土産色絵・本土産磁器出土状況	163	第35表	ヤギ出土量	179
第17表	沖縄産施釉陶器出土状況	164	第36表	種不明出土量	179
第18表	沖縄産無釉陶器出土状況	166	第37表	寄生虫卵分析結果	182
第19表	土器・陶質土器・瓦質土器・須恵器出土状況	167	第38表	微細物分析結果	183
			第39表	土壤理化学分析結果	184

# 第1章 調査に至る経緯

## 第1節 調査に至る経緯

かつての首里には、国宝を含む多くの文化財が残されていたが、先の沖縄戦によりその殆どが灰燼に帰すことになる。終戦後発足した琉球政府文化財保護委員会は、戦災により破壊された文化財の復元整備として、昭和31（1956）年に園比屋武御嶽を嚆矢として整備を開始する。その後、同委員会は昭和45（1970）年に首里城跡及び周辺の戦災文化財復元計画を策定し、同年、日本政府は第一次沖縄復帰対策要綱を閣議決定した。その中で戦災文化財の復元修理を推進する旨を明らかにし、翌年にはその調査費が計上されている。

そして沖縄は、昭和47（1972）年に本土復帰を果たす。その一環で同年策定された第一次沖縄振興計画に盛り込まれた要項に基づき、総理府外局沖縄開発庁の予算で、沖縄県教育庁文化課による首里城跡の復元整備を目的とした発掘調査が開始されることになる。その調査成果により、今日まで多くの建造物が復元を見ることができ、一般に公開されている。

今回報告する中城御殿跡の遺構確認調査は、昭和63（1988）年度に沖縄県土木建築部が策定した、首里城公園基本設計に基づく公園整備を目的とした調査で、平成19（2007）年度から沖縄県土木建築部より予算の分任を受け、沖縄県立埋蔵文化財センターが実施している。

調査にあたっては、予算分任元である沖縄県土木建築部都市計画・モノレール課に対して予算要求を行い、調査開始後には文化財保護法第99条の規定により、沖縄県教育庁文化課へ着手報告を行った（平成23年8月15日付 埋文第311号）。

また、調査終了後には終了報告を行うとともに（平成24年1月23日付 埋文第547-1号）、発見された埋蔵文化財（出土品）の内訳・数量の報告を行った（平成24年1月23日付 埋文第548-1号）。

## 第2節 調査体制

本報告書に係る発掘調査業務は、平成23（2011）年度に実施し、調査報告書作成に係る資料整理業務は、平成24（2012）年度に実施した。その体制は次のとおりである（職名は当時のもの）。

### 平成23（2011）年度（発掘調査）

事業主体 沖縄県教育委員会

教育長 大城 浩

事業所管 沖縄県教育庁文化課

課長 長堂嘉一郎、副参事 島袋 洋

記念物班 班長 盛本 熱、主任専門員 長嶺 均

事業総括・実施 沖縄県立埋蔵文化財センター

所長 大城 慧

総務班 班長 荻原治邦、主査 西島康二、主事（臨任）玉城飛鳥、砂川めぐみ

調査班 班長 金城亜信、主任専門員 仲座久宜、主任 羽方 誠

発掘調査作業 文化財調査嘱託員 宮城明恵、宮里知恵

発掘調査作業員 安里勝則、川上益子、佐渡山正子、砂辺理恵、玉城初美、

玉寄博紀、中塚末子、中村フサ子、西島本成子、福地佐枝子、

宮國恵子、與儀 清、吉田正志

ボランティア 安次嶺幸太（別府大学文学部文化財学科 4年生）  
谷口佳鈴（筑波大学人文・文化学群人文学類 1年次）

平成24（2012）年度（資料整理）

事業主体 沖縄県教育委員会  
教育長 大城 浩

事業所管 沖縄県教育庁文化課  
課長 長堂嘉一郎、副参事 島袋 洋  
記念物班 班長 盛本 熱、主任専門員 長嶺 均

事業総括・実施 沖縄県立埋蔵文化財センター  
所長 崎濱文秀  
総務班 班長 荻堂治邦、主査 恩河朝子  
調査班 班長 金城亀信、主任専門員 羽方 誠

資料整理作業

文化財調査嘱託員 伊禮頼子、高山厚子、徳嶺里江、波木基真、仲程勝哉、  
宮里知恵

資料整理嘱託員 赤嶺雅子、池原直美、石嶺敏子、伊藤恵美利、上原園子、  
翁長涼子、喜瀬リサ、崎原美智子、瑞慶覧尚美、高良三千代、  
玉寄智恵子、吉村綾子

資料整理作業員 市川里恵、照本史緒里、仲里由利

整理協力者 資料整理嘱託員  
新垣裕子、新垣利律代、喜屋武朋子、平良貴子、玉城実子、譜久村泰子、  
又吉純子

資料整理指導・助言・協力機関

大橋康二（佐賀県立九州陶磁資料館）  
黒住耐二（千葉県立中央博物館 上席研究員）  
樋泉岳二（早稲田大学 非常勤講師）

## 第2章 位置と環境

### 第1節 地理的環境

中城御殿は、次の琉球国王となる世子が暮らした邸宅跡である。名称の由来は、王子が王世子（王位継承者）になると、領地として中城間切及び知行を下賜され、中城王子あるいは中城御殿と称されたことによる。当初その建物は、17世紀前半に現首里高等学校敷地内（現首里真和志町）に創建され、王府の別邸である大美御殿の東面に位置していたことから東宮とも呼ばれた。その後、中城御殿は明治3（1870）年に現在の首里大中町に移転することが決まる。ここでは今回の調査対象となる移転後の環境について記すことにする。

中城御殿跡は、沖縄本島南部の那覇市首里、北緯 $26^{\circ} 13' 15''$ 、東経 $127^{\circ} 43' 05''$ 、標高約100mの台地上に位置し、地番は那覇市首里大中町1丁目1番1～3にあたる（第1図）。

この基盤を構成するのは、地質時代の第四紀更新世（180-160万年前～1万年前）に区分される琉球石灰岩で、敷地西側の上之御殿が存在した地区においては、拝所及び庭園でその露頭が確認できる。またその下位には、鮮新世（500万年前～160万年前）から中新世（2,300万年前～500万年前）に区分される島尻層群が堆積している。この表層を成す琉球石灰岩層は透水性が高く、そこに浸透した雨水は、不透水層である島尻層のクチャ（泥岩・砂岩）の面でとめられ、両者の境界から泉として湧き出すことになる。この湧水を利用した井泉・樋川は、現在も首里の各地に点在するほか、中城御殿の古写真においても確認でき、今日も豊富な湧水量を誇っている。

中城御殿の南は、道路を隔てて龍潭に面し南東側に首里城を望むことができる。地形は首里城に至る南側が高い形状をなすが、敷地の大半はテラス状の比較的平坦な場所に位置しており、この北側に面する儀保町や末吉町の町並みを見渡すことはできない。しかし、上之御殿が建つ西側は石牆で区画され小高くなってしまっており、西方に広がる那覇の街や港をはじめ、遠くは慶良間・粟国諸島の島影を望むことができる。

この立地に関し、中城御殿の南東側に近接する首里城をもとにみることにする。首里城は、北側に虎頭山及び真嘉比川を配し、東に弁ヶ嶽及びナゲーラ川、南に安里川を擁して立地している。1713年、蔡温はこの立地に関し「恭しく玉陵を觀るに、国都の高処に發祖し、最も好し」（球陽688号 球陽研究会編1974）と遺している。なお、この立地を風水地理学的観点から見ると、弁ヶ岳は発粗としてエネルギーの源泉である龍脈として捉えられている。その龍脈は虎頭山や西森、末吉の連続する山並みをとおり、西海岸へ抜けていく。そしてその先に浮かぶ慶良間諸島は錦屏という案山にあてられ、北谷・読谷の丘陵が白虎、小禄・豊見城の丘陵を青龍とする風水空間としている。つまり、龍脈から流れでる気を隅々まで巡らせることにより、国王の安泰を願ったのである（都築昌子2005）。

このように首里城の立地は、軍事・政治・経済的な実利性のみならず、風水思想の上からも藏風得水の地として優れた条件を備えているとされる。

今報告の対象となる中城御殿の造営に際しても、1868年に久米村の地理師である与儀親雲上ら3人を中国福州に派遣して風水を学ばせ、建物の配置が行われたとされ（球陽2206号 球陽研究会編1974）、前記した首里城の例とも調和した思想により、選定立地から設計・施工までが計画的に行われたことが考えられる。



第1図 沖縄本島の位置



第2図 中城御殿跡の位置及び周辺の遺跡

## 第2節 歴史的環境

中城御殿は、国王の世子殿として、当初は尚豊王代（在位1621～1640年）に綾門大道北側、現在の首里高等学校敷地内に創建された（第1表）。その後、明治1（1868）年に尚泰王の王子である尚典の立太子に伴い、龍潭北側に位置する大村按司、摩文仁按司、川平親方、小祿親雲上らの宅地を合わせた敷地に移転することが取り決められた。工事は明治3（1870）年に着工、明治7（1874）年3月に竣工し、尚典は明治8（1875）年に移転した。世子はこの御殿において生活を送るとともに執務を行った。

中城御殿の敷地は3,408坪（11,246m<sup>2</sup>）で、そのエリアは東西に大きく二分することができる。東側は主要な建物が群立する約2,400坪の区域で、20棟以上の建造物が密接して軒を連ねていた（図版1）。これに対し、西側は約1,000坪の区域で、巨木が鬱蒼と茂る中に上之御殿が1棟建ち、周辺は自然の岩盤を利用した庭園や、大岩を取り囲むように石造の螺旋階段を設置した拝所のほか、御射場と称される弓場が存在した。

そして、明治12（1879）年の廃藩置県により琉球王国は終焉を迎えることになる。首里城は明け渡され、熊本鎮台沖縄分遣隊により占拠される。これにより、それまで正殿や大美御殿等で暮らしていた国王をはじめとする王族は退去を余儀なくされ、一時的に中城御殿に移り住むことになるが、明治18（1885）年には華族令により東京に移転することになる。

その後、第二次世界大戦が始まると御殿の一部は陸軍少佐の宿舎として使用される。その際に中城御殿所蔵の宝物を分散させ、敷地内の岩陰に隠すなどの避難措置を執った。しかし、昭和20（1945）年4月、米軍の砲撃により建物は破壊されることになる。避難した宝物類は残されていなかったため、建物とともに焼失したか、米軍により戦利品として持ち去られたことが考えられる（その一部は1947年にフィリピンから、1953年にアメリカから返還）。その後は、陸軍の機関銃陣地として使用されることで尚家職員は退去させられ、終戦を迎えることになる（沖縄県立博物館1996）。それまでの間、御殿は尚家の屋敷（尚侯爵邸）として、王府の伝統的なしきたりが保たれた空間であったとされる。

終戦直後の跡地には、一時引揚者のバラックが建つが、その後、首里市役所、首里バス会社として使用され（図版7）、のちに龍潭東側にあった博物館を移転するため、琉球政府により買い上げられる。そして昭和40（1965）年から翌年にかけ、米国民政府の援助により琉球政府立博物館新館が建設され（図版8）、昭和47（1972）年の本土復帰に伴い沖縄県立博物館に改称される。

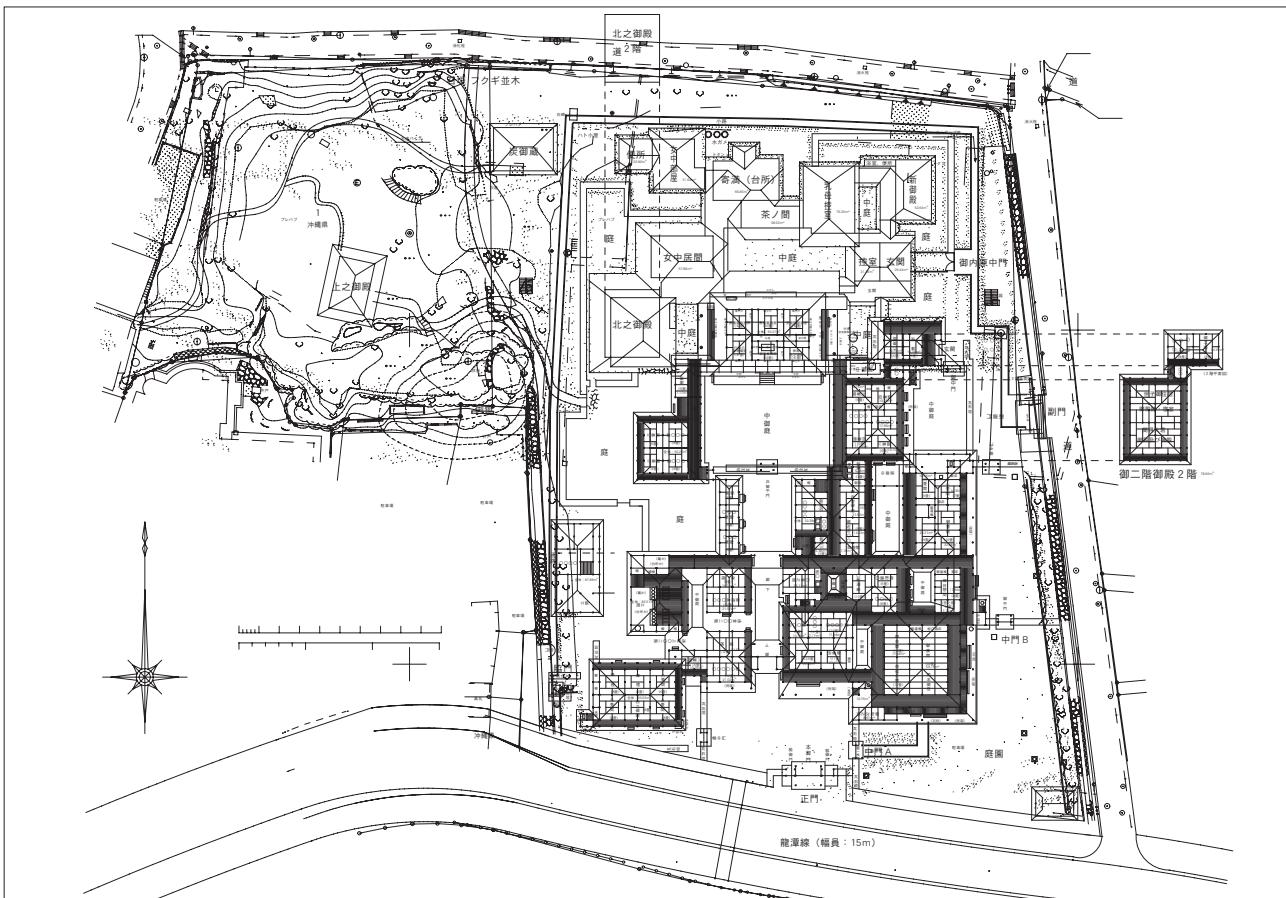
この本土復帰から20年を記念し、首里城正殿を含む周辺一帯が首里城公園として開園するにあたり、その一環として中城御殿の石牆を復元する計画が浮上した。復元に先立ち平成3（1991）年度、平成4（1992）年度、平成6（1994）年度の3次にわたり石牆部分の発掘調査が実施され、石積み根石や石組み遺構、ピット等の遺構を検出し、平成4（1992）年に正面及び東側石牆の復元整備が行われた（沖縄県立博物館1993、1994、1995）。その後、博物館は開館から40年が過ぎ、施設の老朽化及び収蔵機能の低下に伴い新館への移転が計画され、平成18（2006）年3月に休館（図版9）、平成19（2007）年3月に閉館・移転し、同年11月3日、那覇市おもろまちに沖縄県立博物館・美術館が開館する。そしてこの旧館建物は、平成21（2009）年の解体工事により撤去された。博物館移転後は、平成19（2007）年度より跡地利用計画策定に先立ち、埋蔵文化財の基礎資料を得るために遺構確認調査が行われ、現在に至る。



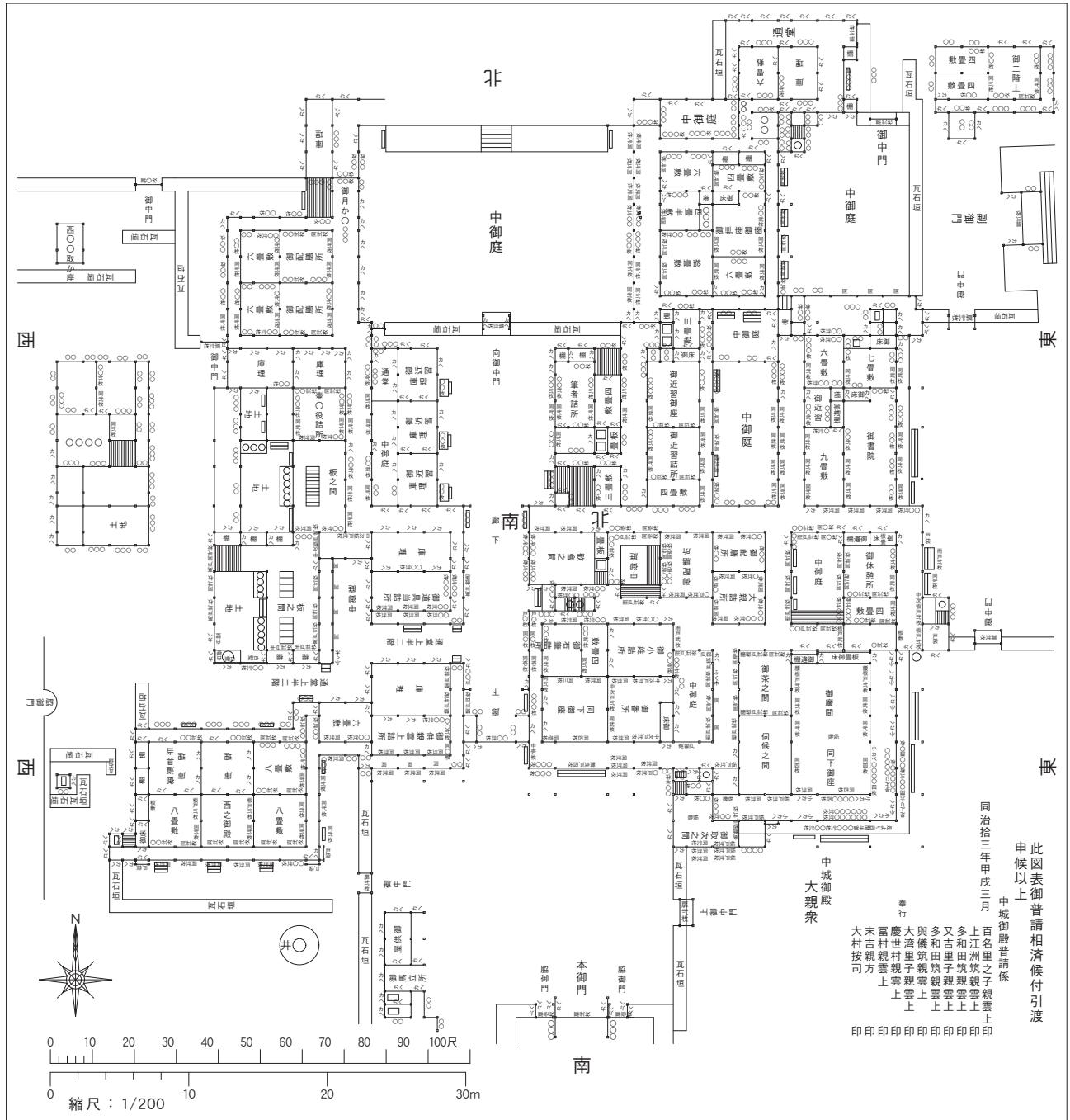
図版1 米軍撮影中御殿航空写真（沖縄県教育庁文化課資料編集班所蔵）



第3図 中城御殿屋根伏図（中城御殿跡地整備検討委員会資料〔沖縄県と市計画・モノレール課提供〕）



第4図 中城御殿間取り復元図（中城御殿跡地整備検討委員会資料〔沖縄県と市計画・モノレール課提供〕）



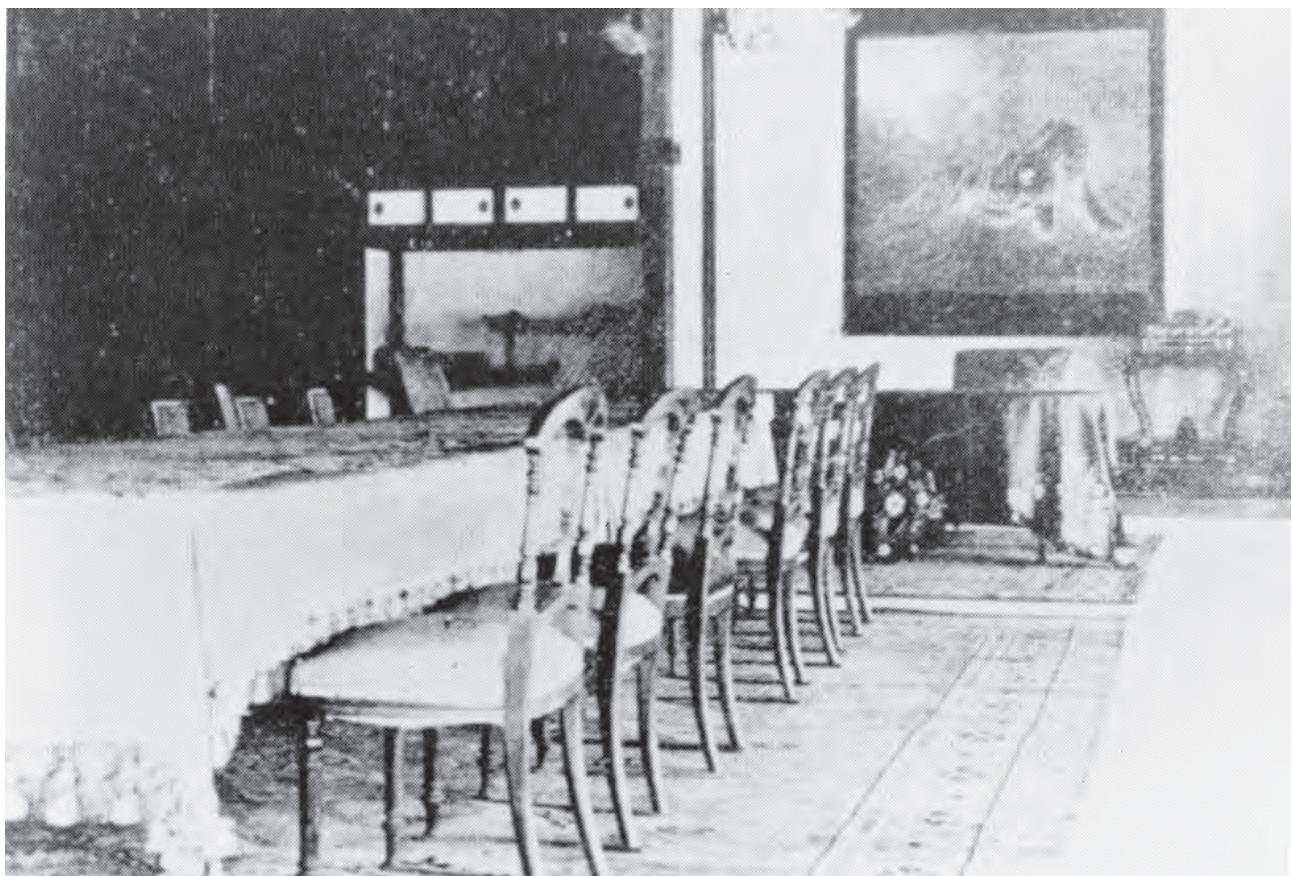
第5図 中城御殿御普請板図翻刻図（中城御殿跡地整備検討委員会資料〔沖縄県都市計画・モノレール課提供〕）



図版2 御番所 南西から（沖縄県立芸術大学附属図書・芸術資料館所蔵）



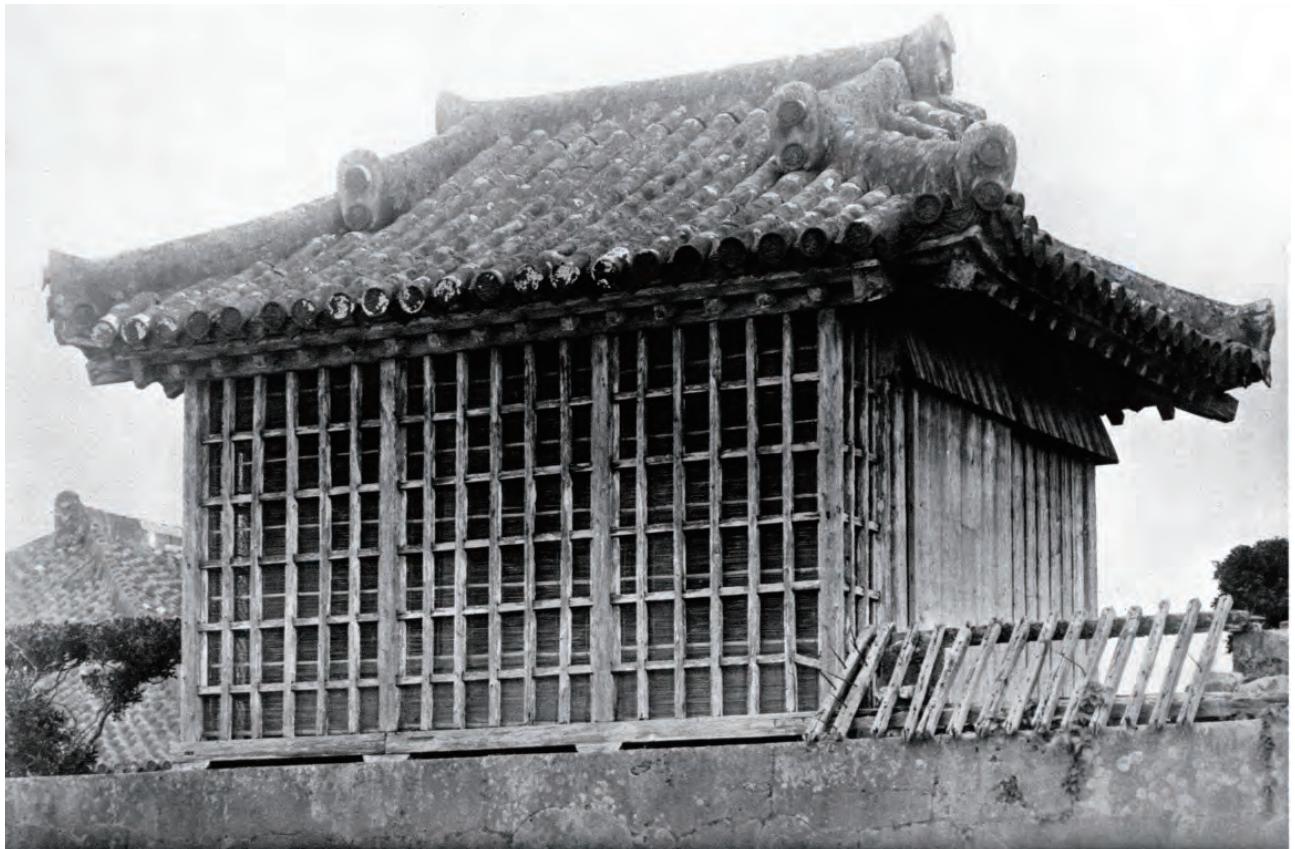
図版3 大広間東面と庭面 東から（沖縄県立芸術大学附属図書・芸術資料館所蔵）



図版4 大広間の内部 (上原永盛 1935)

公衆送信権のため未表示

図版5 庭園 北西から (坂本万七撮影 日本民藝館所蔵)



図版6 望楼 南東から（沖縄県立芸術大学附属図書・芸術資料館所蔵）



図版7 首里市役所と首里バス（沖縄県立博物館 1992）



図版8 新館開館式直前の風景（1966年11月3日）〔沖縄県立博物館 1996〕



図版9 閉館した沖縄県立博物館（2006年4月）

第1表 中城御殿跡関連年表

西暦	元号	事 項
1621~40年	尚豊王代	尚豊王代 中城御殿が現県立首里高校の地に建設される
1864年	尚泰17/元治1	尚典(のちの中城王子)が生まれる
1866年	尚泰19/慶応2	尚泰王が冊封をうける
1868年	尚泰21/明治1	尚典が尚泰王の世子となる 久米村の与儀親雲上を福州に派遣して風水を学ばせ中城御殿の風水見を行う
1870年	尚泰23/明治3年	中城御殿が龍潭北側に新しく造営されることが決まる
1872年	尚泰25/明治5年	琉球藩設置
1874年	尚泰27/明治7年	中城御殿竣工
1875年	尚泰28/明治8年	中城王子が新築された屋敷に移る
1879年	尚泰32/明治12年	3月 廃藩置県 首里城を明け渡し尚泰王以下中城御殿に移る 5月 尚泰・尚典とともに上京し東京麹町に屋敷を賜り華族となる
1880年頃	—	尚泰子女の安室御殿が離縁のため中城御殿へ移り住み最後の聞得大君として御殿の神事に奉仕する
1884年	明治17年	中城御殿ほか21ヶ所の敷地・建物など尚泰の私有財産と確定される
1901年	明治34年	尚泰逝去し玉稜に葬られる
1906年	明治39年	尚典帰郷し中城御殿で暮らす
1917年	大正6年	尚昌の長女 文子が生誕する
1920年	大正9年	尚典57歳で没し玉稜に葬られる 尚泰子息の尚時が妻静子とともに上之御殿に移り住む このころ尚文子が中城御殿を訪れる
1921年	大正10年	東宮殿下(のちの昭和天皇)来訪にあたり事前に大広間が洋間に改装される 3月4日 東宮殿下が来県し中城御殿を訪問する
1922年	大正11年	尚泰夫人の松川御殿が中城御殿で逝去する
1923年	大正12年	鎌倉芳太郎が中城御殿にあった多くの美術品を調査する
1932年	昭和7年	尚典子女の今帰仁御殿が安室御殿(聞得大君)を継ぐため北之御殿に移る
1933年	昭和8年	尚文子が来訪し新御殿に滞在する
1934年	昭和9年	田邊泰が来訪する 尚典夫人の野嵩御殿が逝去する
1936年	昭和11年	尚昌義姉の津軽照子が来訪する
1937年	昭和12年	尚文子が井伊家に嫁ぐ
1939年	昭和14年	日本民芸協会の柳宗悦・坂本万七らが来訪する
1944年	昭和19年	第32軍司令部参謀の長野英夫少佐が御殿の一室を宿泊所として使用する 10月10日 米軍による空襲により旧那覇市の9割が焼失する(十・十空襲)
1945年	昭和20年	3月下旬 宝物を3つの大金庫へ移す 4月6日頃 中城御殿が米軍の砲撃をあびて炎上する 4月8日頃 火災をのがれた御後絵(肖像画)を御嶽岩のうしろに移す 4月10日頃 日本軍が上之御殿や防空壕などを機関銃陣地にする 戦後 一時引き揚げ者のバラックが建つ
1950年	昭和25年	1月 首里市役所が中城御殿跡に移転する 7月 首里市営バスが営業所を同敷地内に設置する(1966年まで)
1954年	昭和29年	首里市が那覇市に合併され首里市役所が首里支所となる
1959年	昭和34年	井伊文子が中城御殿跡を訪れる
1965年	昭和40年	琉球政府が敷地を購入する
1966年	昭和41年	首里支所が当蔵に移転 首里バス(1951年に民営化)が当蔵へ移転する 10月 米国の援助により新敷地に鉄筋コンクリート建の博物館新館を建設する 龍潭池畔にあつた「琉球政府立博物館」が移転し11月に開館する
1972年	昭和47年	5月 日本復帰にともない「沖縄県立博物館」と改称する
1991年	平成3年	沖縄県立博物館による石牆部分の第1次発掘調査が実施される
1992年	平成4年	沖縄県立博物館による石牆部分の第2次発掘調査が実施される
1994年	平成6年	沖縄県立博物館による石牆部分の第3次発掘調査が実施される
2004年	平成16年	井伊文子逝去し伊是名玉稜に葬られる
2006年	平成18年	3月 沖縄県立博物館が那覇市おもろまちの新館へ移転するため休館する
2007年	平成19年	沖縄県立埋蔵文化財センターによる遺構確認調査が開始される

## 第3章 調査経過

### 第1節 発掘調査（平成23年度）

平成23（2011）年度発掘調査は、敷地南側の建物や庭園の遺構を確認することを目的として開始した。

まず、7月下旬に現場事務所（ユニットハウス）の設置を行う。その後、道具類を搬入し、現場作業開始の準備を整えた。

8月1日からは発掘作業員を13人雇用し、敷地内の除草作業を開始しつつ（図版10）、トレンチ設定のための測量を行った。今回設定した7本のトレンチは、正門を入ってすぐの場所に存在した建物（大広間、御番所、取納座、中城大親）や庭園、中門、瓦石垣などの遺構を確認することが目的であった。これは県道拡幅に伴い正門の東西に取り付く石牆を北側に数m移設するという計画があり、移設前に遺構を確認しておく必要があると考えたためである。

8月22日からは重機による表土剥ぎを開始した（図版11）。表土には県立博物館解体後のコンクリートや鉄筋類が多数含まれることから、表土除去後に不発弾探査目的の磁気探査業務を委託し、探査を実施した（図版12）。この結果、鉄筋や釘類のほか砲弾片が確認されたが、不発弾は確認されなかった。引き続き発掘作業員によって表土の清掃を行い、徐々に遺構や層の状況が明らかになってくる。

調査開始時は気温が高く、日差しも強いことから遮光ネットによる日除けを設置し、日の傾きにあわせて移動しつつ発掘を行った（図版13）。遺構の記録作業は隨時写真、実測により行い、雨天時には遺物洗浄作業を行った（図版14）。また、雨が降るとトレンチ内に水が溜まるため、ポンプを使って汲み出した。

さらに調査期間中は大学生のボランティアや高校生の職場体験の受け入れをおこなった（図版15）。また調査終盤の12月には現地説明会（図版16）や高所作業車による空撮を行った。

調査後はブルーシートでトレンチを覆い、1月19日に埋め戻しを行った（図版17）。

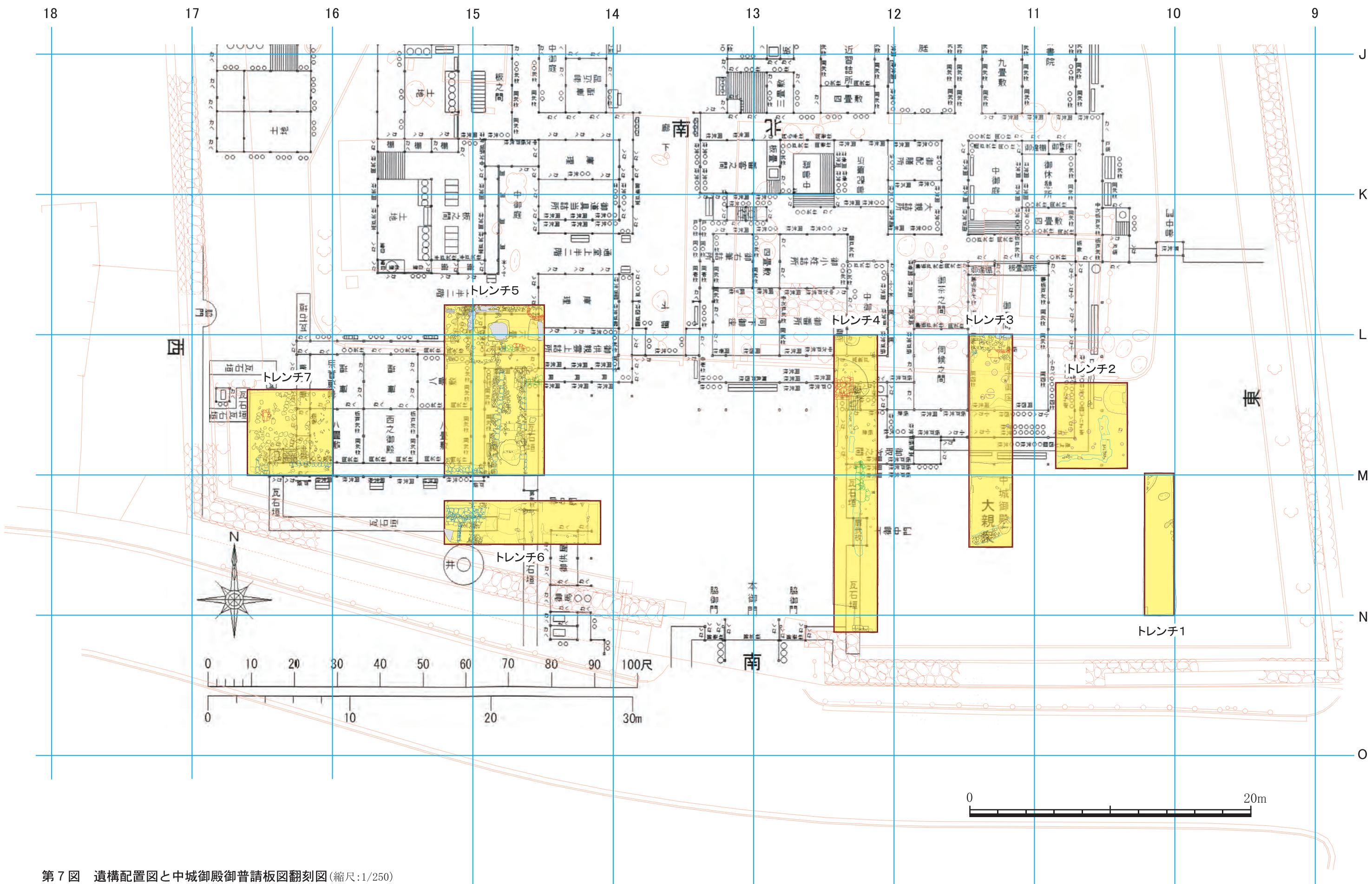
### 第2節 資料整理（平成24年度）

調査報告書の刊行に向け、平成24（2012）年度に資料整理作業を実施した。出土遺物の洗浄は現場の雨天時にはほぼ終了していたことから、遺物の整理作業は層序や遺構の関係を確認後、注記作業から開始した。その後、順次分類、接合、図化対象遺物の抜き出しを行い、実測図の作成、トレイス、写真撮影を行った。さらに、調査中に検出したトイレ遺構と思われる遺構内の土砂について、寄生虫卵分析を委託した。

これらの作業と並行して、遺構図・土層図等のトレイス後、発掘現場で撮影した写真と併せてレイアウトを行い、原稿執筆のち編集後、指名競争入札により落札した印刷業者と契約を行い、本調査報告書を刊行する手順をとった。

第6図 中城御殿発掘調査区・建物配置想定図





第7図 遺構配置図と中城御殿御普請板図翻刻図(縮尺:1/250)



図版 10 現場事務所周辺の除草作業



図版 11 表土の除去作業



図版 12 磁気探査作業



図版 13 トレンチ 5 の発掘作業風景



図版 14 遺物洗浄作業



図版 15 高校生の職場体験



図版 16 現地説明会



図版 17 埋め戻し後の状況

## 第4章 層序・遺構・遺物

### 第1節 層序

平成23年度の層序は、基本的に平成22年度の層序を踏襲している。

#### I層

1945年の沖縄戦後から現代までの層で、調査区全体に広がっている。主に旧沖縄県立博物館に伴う造成層で、駐車場に敷かれたアスファルトやコーラル、庭の造成土、博物館解体時の客土から成る。

コンクリート片や鉄筋、ガラス片、屋根瓦を多く含み、これらに陶磁器など近代以前の遺物が混じっている。

#### II層

1945年の沖縄戦時の層で、III層の直上に堆積する。平成23年度の調査ではI層とまとめた。発掘現場での掘り下げは、基本的にI・II層を完掘した段階で止めている。

#### III層

中城御殿の造成土や旧表土である。中城御殿工事着工の1870（明治3）年～1945年の沖縄戦直前までの層である。発掘調査時にはIII層とIV層の区別は行わず、資料整理時の出土品により区別した。

#### IV層

中城御殿造成より前の遺物包含層である。III層との区別は、主に資料整理時の出土品分析により行った。IV

#### V層

遺物を含まない基盤層である。トレント1～4においては青灰色の泥岩（クチャ）が、トレント6においては黄色の砂岩（ニービ）が確認できた。

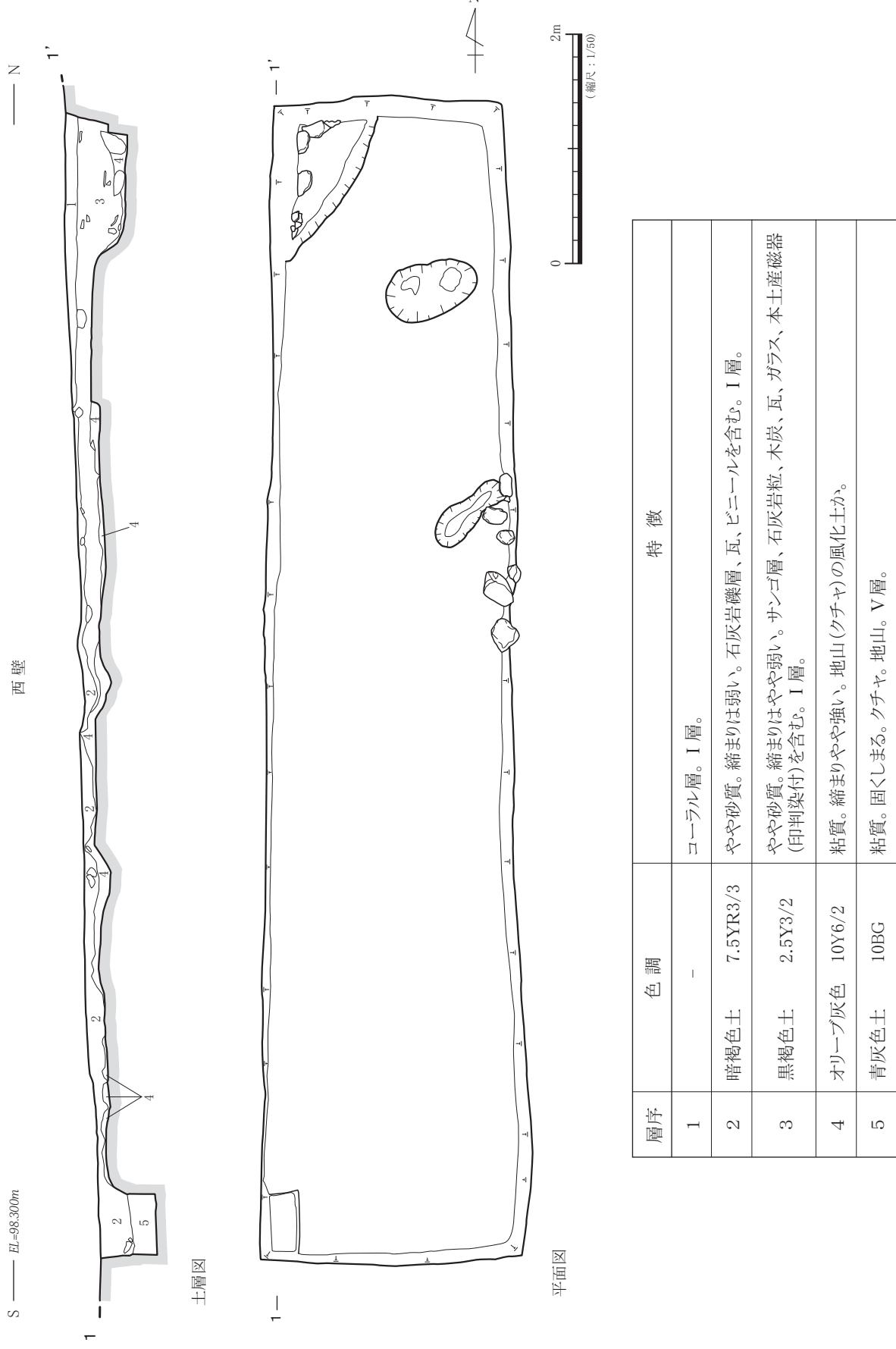
### 第2節 トレント1の遺構と遺物

トレント1は庭園があった場所である。古写真によると南側に向かうに連れて次第に高くなる地形であったが、それを示す造成層は確認できず、基盤層の泥岩が確認されたのみであった。沖縄戦後に大きく土地が削られたようである。

I層の中に混ざっていた珊瑚砂利は、庭園に敷かれていたものの可能性がある。

第2表 遺構一覧

	遺構名	トレンチ	用途・性格等	層序・時期
1	溝4	2	大広間の軒先基壇跡。	III層
2	石組み3	3		IV層
3	石積み8	3		IV層
4	溝1	3	30cm前後の石灰岩が詰められている。土坑1に切られる。	不明
5	土坑1	3		I層
6	ピット1	3		III層か
7	石敷き2	4	御番所の軒先にあつた石畳。	III層
8	石積み3	4	御番所から南に伸びる瓦石垣。	III層
9	溝2	4	御番所から南に伸びる瓦石垣の根石が抜かれた跡。中門の跡。	III層
10	溝3	4	御取次間の西端に相当。	III層
11	ピット2	4	ピット内に杭のような木材。	III層か
12	ピット3	4	ピット内に礎石のような石灰岩。	III層か
13	ピット4	4		III層か
14	石敷き1	5	取納座の軒先にあつた石畳。	III層
15	石敷き3	5	石組み4に切られる。	III層か
16	石組み2	5	大量の遺物が出土。	IV層 17世紀後半頃
17	石組み4	5	石敷き3を切る。	I層か
18	石積み4	5	瓦石垣か。	III層
19	石積み5	5	中城大親の東端付近。	IV層
20	石積み6	5	土留めか。	IV層
21	石積み1	6	平成3年度の調査で「4号石垣」として報告。	III層
22	石積み2	6	土留め。平成3年度の調査で「5号石垣」として報告。	IV層
23	石組み1	7	トイレ跡。	III層か
24	石積み7	7	土留め。中城大親の南端付近。	IV層
25	石積み9	7	平成3年度の調査で「6号石垣」として報告。	III層か





作業風景（南西から）



作業風景（西から）

図版 18 トレンチ 1 検出状況①



検出状況（南から）



検出状況（北東から）

図版 19 トレンチ 1 検出状況②

### 第3節 トレンチ2の遺構と遺物

#### 1 溝4

基盤層のクチャに掘り込まれた溝で、溝内にはガラス片や屋根瓦を含む赤褐色土が堆積していた。溝底部には所々に石灰岩の石が敷かれたような状態を確認した。

また一部に長方形に加工された石が確認された。これは大広間の軒先の基壇にあたる石列と考えられる。

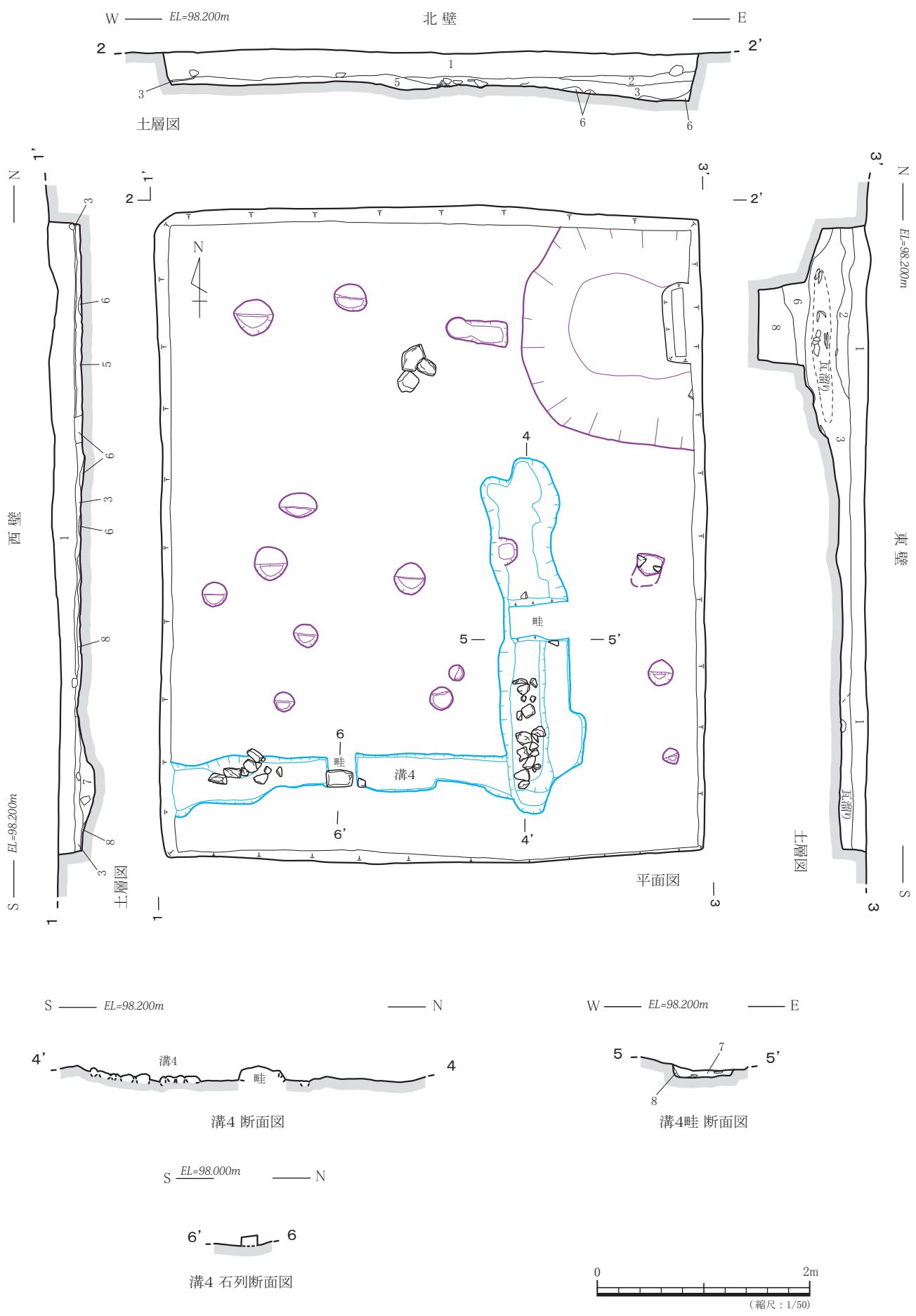
#### 2 その他

溝4の周囲には直径30cm前後のピットが複数ある。また溝4の北東には、現代の土坑が1基ある。



図版20 トレンチ2 検出状況② 溝4（北から）

層序	色調	特徴
1	-	コーラル層。I層
2	緑灰色土 5G5/1	やや粘質。しまりやや強い。暗褐色砂質土。赤瓦、炭、コンクリート、石灰岩礫を含む。I層。
3	黒褐色土 2.5Y3/2	やや砂質。縮まりはやや弱い。サンゴ層、石灰岩粒、木炭、瓦、ガラス、本土産磁器(印判染付)を含む。I層。トレンチ1の3層と同じ。
5	明赤褐色土 5YR5/6	粘質。固くしまる。
6	明青灰色土 5B7/1	粘質。しまりやや弱い。黄褐色粘質土、赤褐色粘質土をブロック状に含む。トレンチ3の10層、トレンチ4の11層と同一。
7	赤褐色土 5YR4/6	やや粘質。しまりやや弱い。青灰色粘土質(クチャ)をブロック状に含む。赤瓦、ガラスを含む。I層。
8	青灰色土 5B5/1	地山。V層。



第9図 トレンチ2



溝4 作業風景（東から）



溝4（南東から）

図版 21 トレンチ 2 検出状況②



溝4（南西から）



雨天後の様子（東から）

図版 22 トレンチ 2 検出状況③

## 第4節 トレンチ3の遺構と遺物

### 1 石組み3

東西に緩やかなカーブを描いて伸びる野面積みの石積みである。根石を確認するまで掘り下げは行っておらず、天端は残っていない。

西側には長さ約80cmの石灰岩が接している。

### 2 石積み8

旧博物館の植栽跡を掘り下げて検出した石積みで、東西に伸びている。根石を確認するまで掘り下げは行っておらず、天端は残っていない。

### 3 溝1

東西方向に緩やかにカーブを描いて伸びる溝である。基盤層のクチャを掘り込んでおり、溝内部には30cm前後の石灰岩が詰められていたとともに、クチャをブロック状に含む粘質土が堆積していた。土坑1に切られている。

### 4 土坑1

瓦や石灰岩が多く出土した。時期は現代である。



図版23 トレンチ3 検出状況① (北西から)



第10図 トレンチ 3



石組み 3 (東から)



石組み 3 (北から)

図版 24 トレンチ 3 検出状況②



石積み8（南東から）



溝1 作業風景（南東から）

図版 25 トレンチ 3 検出状況③

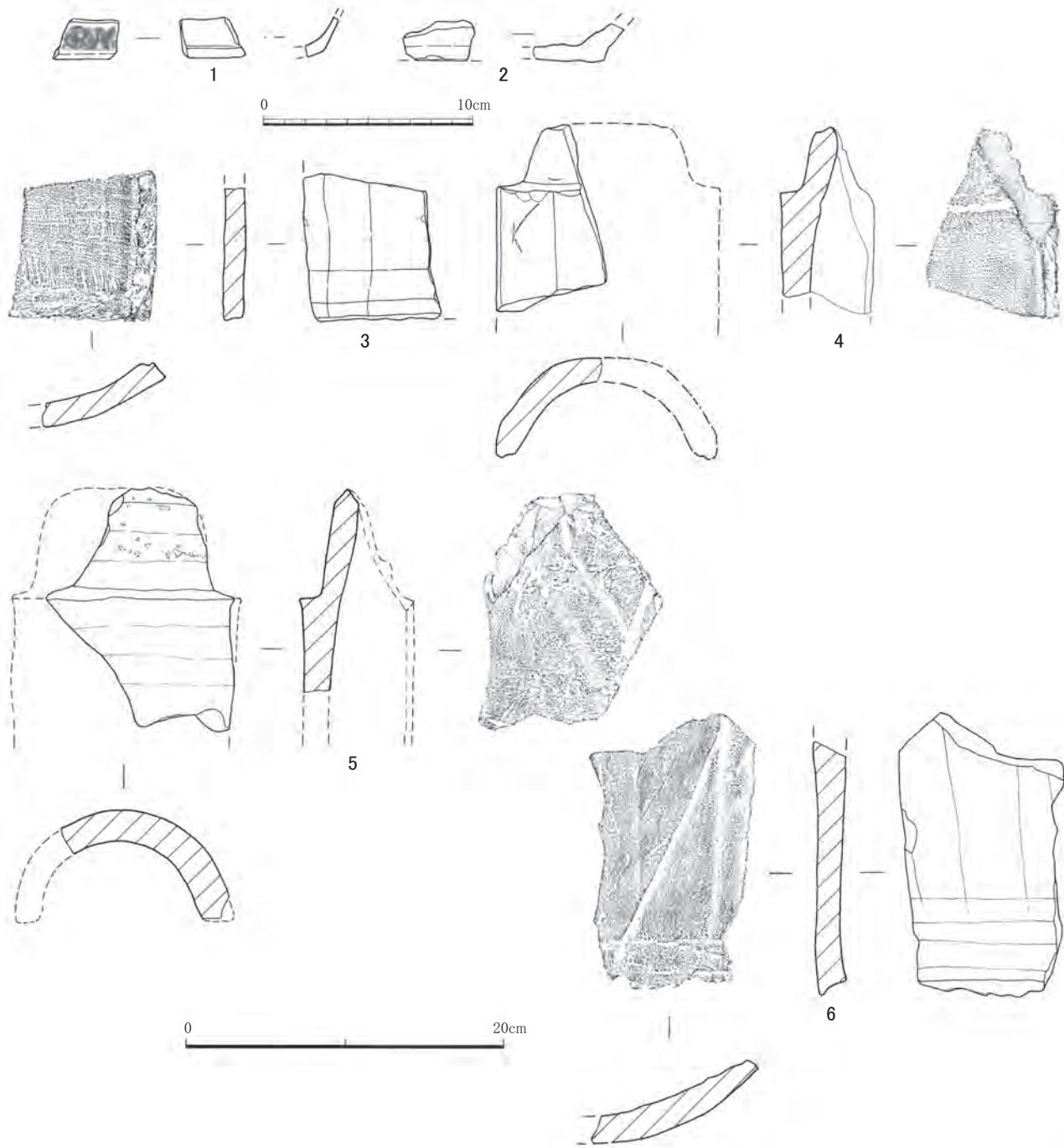


溝1・土杭1（南東から）



土杭1（南から）

図版 26 トレンチ 3 検出状況④



第11図 トレンチ3出土遺物

第3表 トレンチ3出土遺物観察一覧 a

挿図番号 図版番号	種類	器種	部位	口径・長さ	底径・幅	器高・厚さ	所見	出土地
第11図 図版27	1	中国産 染付	碗	胴部	—	—	胴部で大きく屈曲する。景德鎮窯系。15世紀後半～16世紀前半。	トレンチ3 石組み3 北側 III層 赤褐色土
	2	タイ産 褐釉陶器	壺	底部	—	—	素地は黄灰色で、黒色粒を少し、白色・半透明粒を多く含む。内外面とも轆轤ナデ。	トレンチ3 石組み3 北側 III層 赤褐色土
	3	瓦	明朝系 平瓦・灰色	—	—	—	黒色・白色・半透明粒を少し含む。凹面は布目、凸面はナデ。	トレンチ3 石組み3 北側 III層 赤褐色土



図版 27 トレンチ 3 出土遺物

第3表 トレンチ 3 出土遺物観察一覧 b

挿図番号 図版番号	種類	器種	部位	口径・長さ	底径・幅	器高・厚さ	所 見	出土地
第11図 図版27	4	瓦	明朝系 丸瓦・灰色	—	—	—	黒色・白色・半透明粒を少し含む。凹面は布目、凸面はナデ。	トレンチ3 石組3 北側 III層 赤褐色土
	5	瓦	明朝系 丸瓦・灰色	—	—	—	黒色・白色・半透明粒を少し含む。凹面は布目、凸面はナデ。	トレンチ3 土抗1 I 層 暗褐色土
	6	瓦	明朝系 平瓦・灰色	—	—	—	凹面は布目、凸面はナデ。	トレンチ3 土抗1 I 層 暗褐色土

## 第5節 トレンチ4の遺構と遺物

### 1 石敷き2

御番所南側の軒先にあった石畳である。北端は残っていないが、南端は残っていて、その南には珊瑚砂利を敷いた当時の地面が一部残っている。

### 2 石積み3

御番所から南に伸びる瓦石積みに相当する。切石積みで西側に面を持ち、根石の一部が残っていた。

### 3 溝2

御番所から南に伸びる瓦石積みの根石が抜かれた跡である。南端は確認できなかった。また石積み3と接する北側約2mの部分は中門の跡と考えられる。

### 4 溝3

御取次間の西端にあたる溝である。

### 5 ピット群

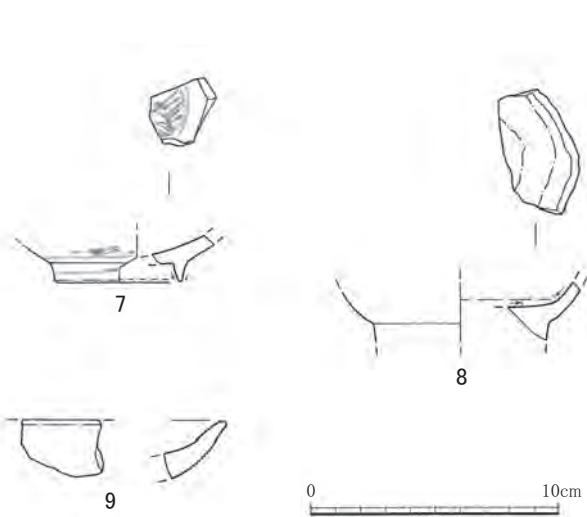
中門（溝2）の東側に点在する直径20cm程度の穴である。

ピット2内には杭のようなものが確認できた。ピット3からは瓦片が少量出土した。ピット4からは礎石のように見える石灰岩が1点見つかった。

### 6 その他

トレンチ北端に旧県立博物館時代の植栽跡があったので、その部分を深く掘り下げて、層序の確認を行った。その結果、赤褐色粘質土の下に青灰色粘土（クチャ）が堆積していることが確認できた。

またトレンチ南端では、コーラルと土を交互に敷いた造成層を確認した。



第12図 トレンチ4出土遺物



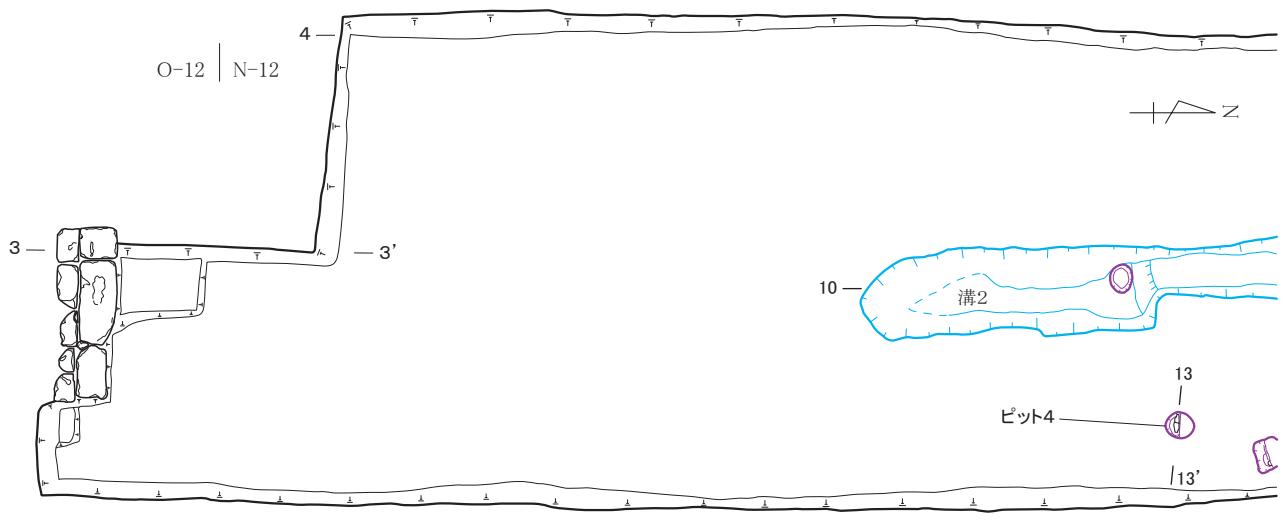
図版28 トレンチ4出土遺物



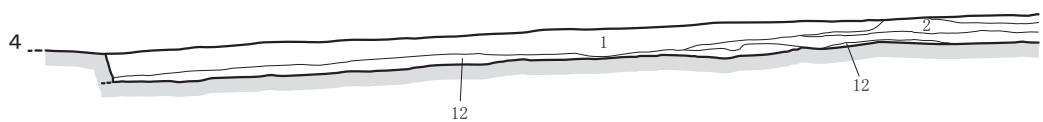
図版29 トレンチ4 検出状況①（南から）

第4表 トレンチ4出土遺物観察一覧

挿図番号 図版番号	種類	器種	部位	口径・ 長さ	底径・ 幅	器高・ 厚さ	所見	出土地	
第12図 図版28	7	中国産染付	碗	底部	—	5.2	—	疊付は露胎。景德鎮窯系。16世紀前半。	トレンチ4 III層 褐色土
	8	沖縄産 施釉陶器	碗	胴部	—	—	—	素地は灰白色で、見込は蛇の目状に露胎。内外面とも轆轤ナデ。	トレンチ4 溝2 I層 赤褐色土
	9	沖縄産 無釉陶器	灯明皿	口縁部	—	—	—	素地は青灰色で、中心は赤褐色。内外面とも轆轤ナデ。	トレンチ4 溝2 I層 赤褐色土



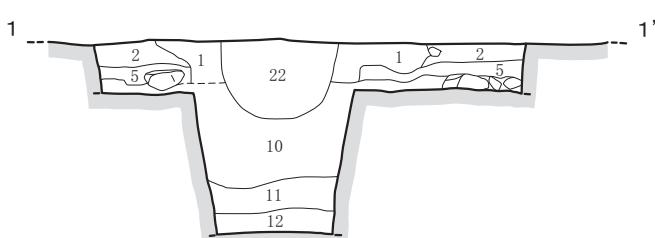
S —— EL=97.800m



W —— EL=98.400m

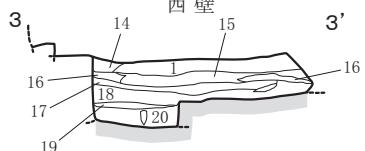
北壁

E



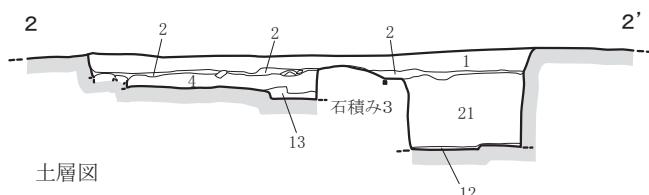
S —— EL=97.800m

N



W —— EL=98.200m

E



W —— EL=98.000m - E

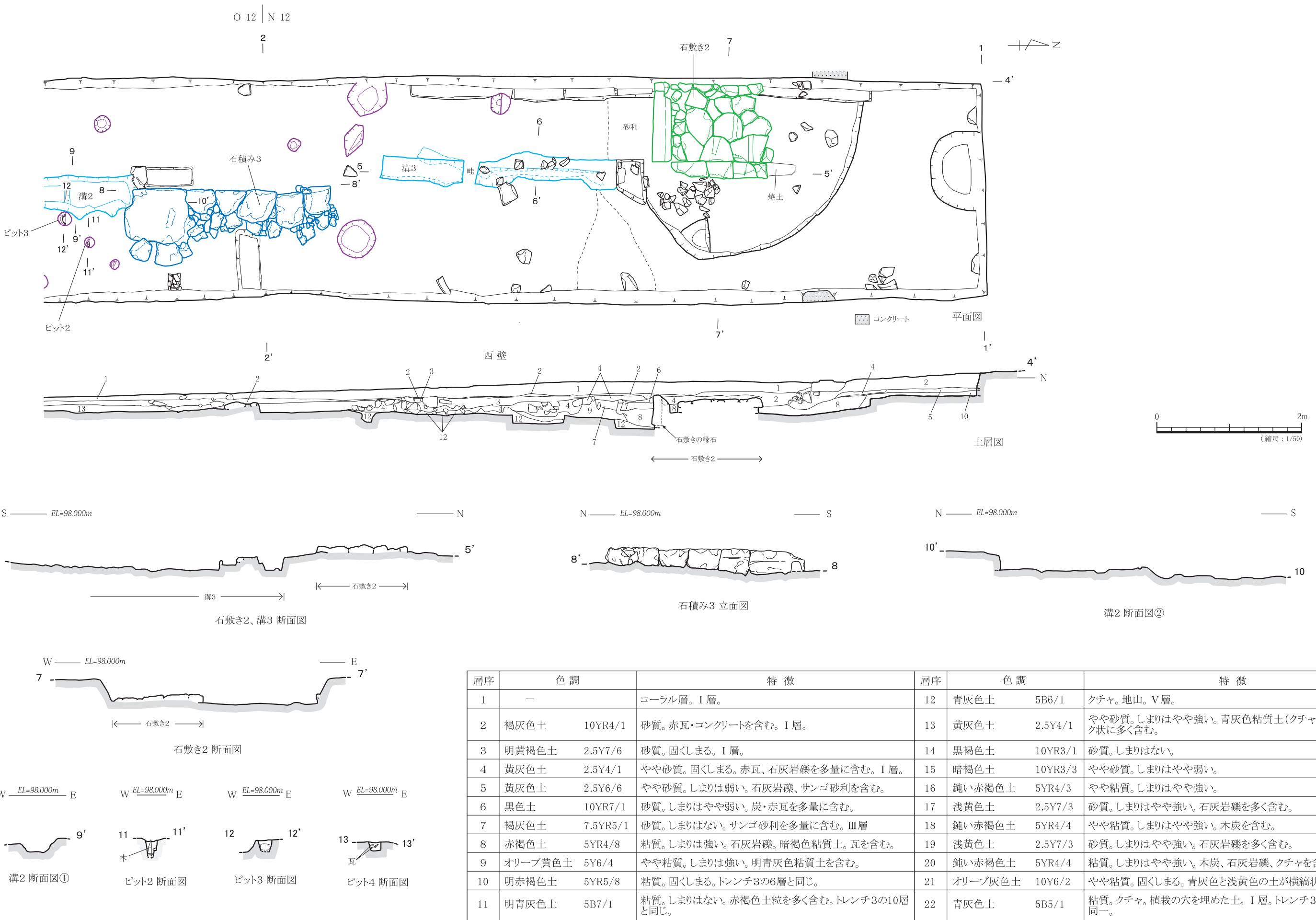
6

6'

溝3 断面図

0 2m  
(縮尺: 1/50)

第13図 トレンチ4





(北東から)



石敷き 2 作業風景 (南東から)

図版 30 トレンチ 4 検出状況②



石敷き 2 南端の石（南から）



石敷き 2 南端の石（東から）

図版 31 トレンチ 4 検出状況③



石積み3（北西から）



石積み3（西から）

図版32 トレンチ4 検出状況④



石積み3裏込め部分の土層（南東から）



石積み3裏込め部分の土層（北西から）

図版33 トレンチ4 検出状況⑤



石積み 3 周辺 出土遺物（上が西）



溝 2 検出途中状況（北西から）

図版 34 トレンチ 4 検出状況⑥



溝2検出途中状況（南西から）



溝3掘り下げ前の状況（南西から）

図版 35 トレンチ 4 検出状況⑦



溝3検出状況（南から）



ピット2・3・4掘り下げ前の状況（南東から）

図版36 トレンチ4 検出状況⑧



ピット2（南から）



ピット3（南から）

図版37 トレンチ4 検出状況⑨



ピット4（西から）



トレンチ4北壁土層（南から）

図版38 トレンチ4 検出状況⑩



北壁土層（南東から）



西壁土層（東から）

図版 39 トレンチ 4 検出状況⑪



南壁土層（北から）



南壁周辺土層（北から）

図版 40 トレンチ 4 検出状況⑫

## 第6節 トレンチ5の遺構と遺物

### 1 石敷き1

取納座の軒先にあった石畳である。トレンチ4の石敷き2と同様に北端は残っていないが、南端は残っていて、その南には珊瑚砂利を敷いた地面が続いている。

### 2 石敷き3

取納座があった場所で検出した石敷きであるが、建物との関連性は不明である。

### 3 石組み2

平面形が円形になると考えられる石組みである。野面積みの石組み内からは、しまりの弱い土とともに、瓦を中心とした大量の遺物が出土した。陶磁器の年代から、17世紀後半頃の遺構と考えられる。

### 4 石組み4

石敷き3の真上にあるが、その間には土が堆積していることから石敷き3より新しい遺構である。戦後に造られた可能性がある。

### 5 石積み4

相方積みで東側に面を持ち、根石は確認していない。北側は石敷き1に接していて、南端はトレンチ5の外まで伸びている。石積み4のラインがトレンチ6南壁にぶつかる部分に、東側に面を持つ切石が1個あり、石積み4を構成する石である可能性がある。

石積み4北端の西側には、西に面を持つ切石が石積み4と平行して並んでいることから、これらはセットで瓦石垣を構成していた可能性がある。

### 6 石積み5

野面積みで東側に面を持ち、根石は確認していない。南北に伸びており、中城大親の東端付近にあたる。

### 7 石積み6

野面積みで、特に面を持っていないようである。根石は確認していない。トレンチ7で検出した石積み7につながる可能性がある。

石積み6の北側には30cm前後の石灰岩をまばらに混入した造成土があり、南側には遺物を多く含む土が堆積している。土地造成に伴う土留めとして積まれた可能性がある。

### 8 その他

石組み2の南側と南西側にはモルタルを敷いた土坑が確認できた。これらは旧県立博物館の掲示板の支柱跡である。またトレンチ5北端では、戦後に置かれた首里支所の建物跡と考えられるコンクリートが確認できた。



(西から)

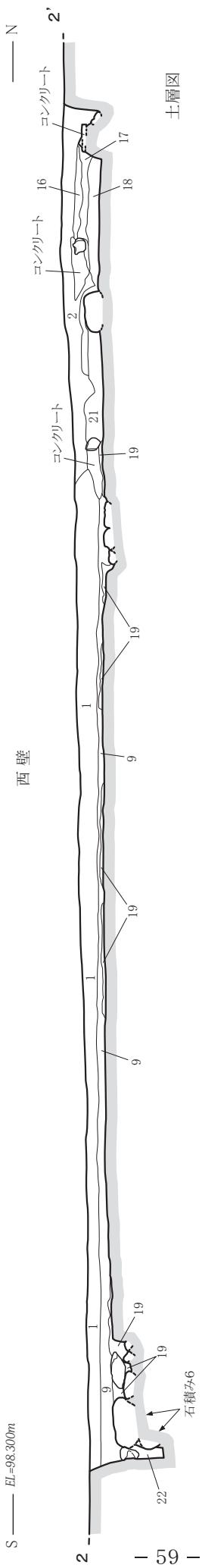
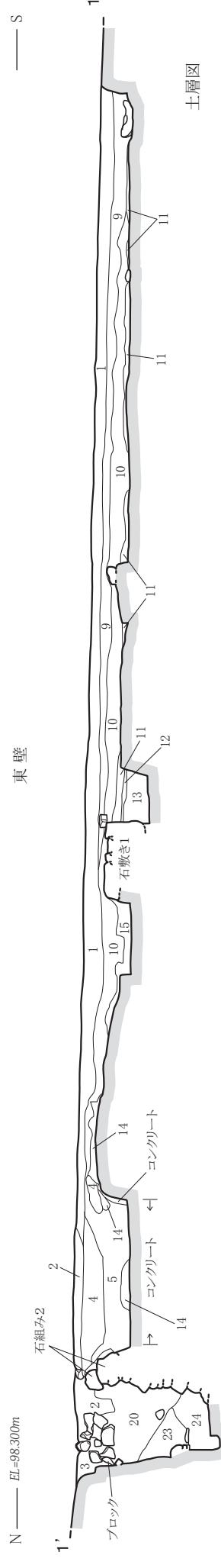


(南東から)

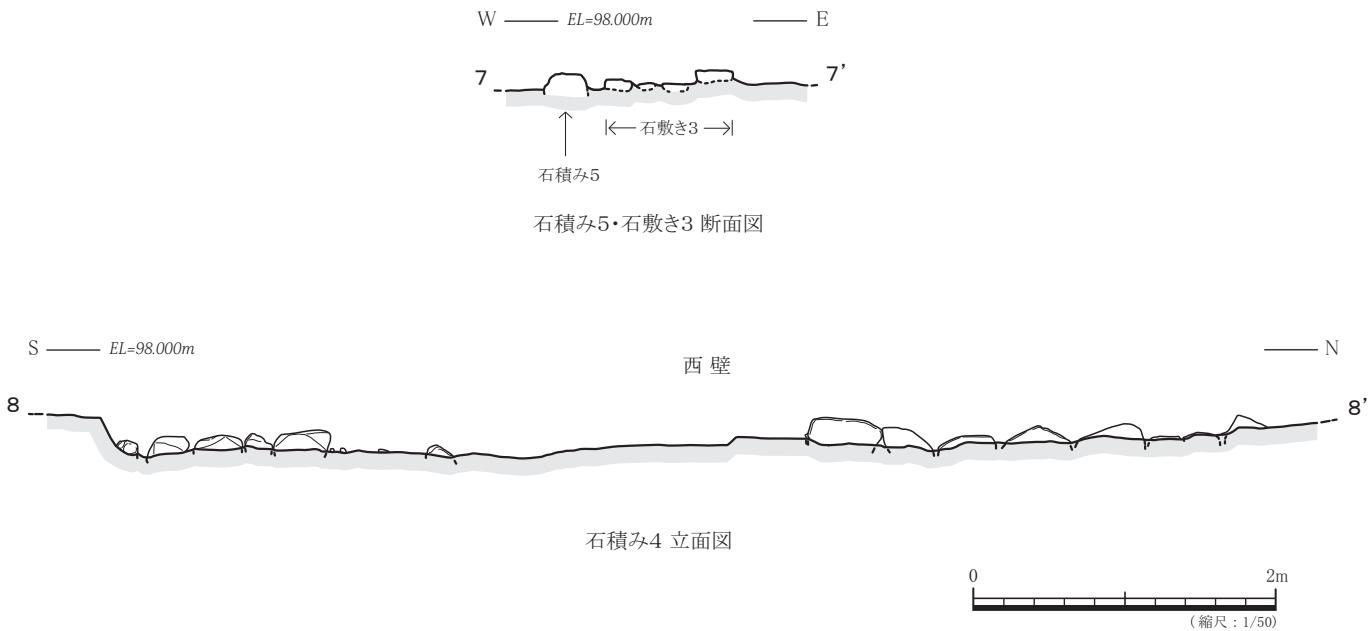
図版 41 トレンチ 5 検出状況①



第14図 トレンチ5平面図



第15図 レンチ5



第16図 トレンチ 5

層序	色調	特徴
1	—	コーラル。上面にアスファルトが敷かれている。I層。
2	灰褐色土 5YR4/2	砂質。しまりは弱い。I層。
3	褐色土 10YR4/4	砂質。しまりなし。砂利を多く含む。平成20・21年度調査時の埋め戻しの土。I層。
4	鈍い黄褐色土 10YR5/4	砂質。しまりは強い。石灰岩礫・瓦・木根を含む。I層。
5	鈍い黄褐色土 10YR4/4	やや砂質。しまりは弱い。石灰岩礫・瓦・木根を含む。I層。
9	褐色土 10YR4/4	やや砂質。しまりは弱い。瓦・コンクリート・針金・石灰岩礫を含む。I層。
10	褐色土 10YR4/4	やや砂質。しまりは弱い。瓦・木炭を多く含む。石灰岩礫・鉄釘を含む。I層。
11	灰オリーブ色土 5Y5/2	砂。しまりなし。木炭を含む。
12	褐色土 10YR4/4	砂質。しまりなし。サンゴ層を多く含む。ガラス層を含む。11層との境は不明瞭。旧表土。III層。
13	赤褐色土 5YR4/6	粘質。しまりは強い。灰色粘質土(2.5YR5/1)をブロック状に含む。赤瓦・石灰岩礫を含む。III層。
14	鈍い赤褐色土 5YR4/4	砂質。ややしまる。木炭・石灰岩礫を少し含む。I層。
15	明赤褐色土 5Y5/6	粘質。しまりは強い。III層。
16	灰オリーブ色土 5Y4/2	やや砂質。ややしまる。赤瓦・橙色粒(焼土か)を含む。
17	オリーブ褐色土 2.5Y4/4	やや砂質。ややしまる。木炭・瓦・石灰岩礫を含む。
18	黒褐色土 2.5Y3/2	やや粘質。青灰色土(クチャ) 黄褐色砂質土をブロック状に含む。石灰岩礫を含む。
19	褐色土 7.5YR4/3	やや粘質。赤褐色粘質土、黄褐色粘質土をブロック状に多く含む。瓦・石灰岩粒・木炭を含む。しまりは強い。
20	オリーブ褐色土 2.5Y4/3	やや粘質。しまりは弱い。木炭・瓦・石灰岩礫を含む。「石組み2 暗褐色土」で遺物取上。IV層。
21	黄褐色土 2.5Y5/6	砂質。しまりはやや強い。灰色粘質土・暗褐色土・赤褐色土をブロック状に含む。
22	黒褐色土 10YR3/1	やや砂質。しまりは弱い。瓦・炭・石灰岩礫を含む。
23	褐色土 7.5YR4/3	やや粘質。赤褐色粘質土、しまりはやや弱い。赤褐色粘質土を含む。石灰岩礫を含む。「石組み2 暗褐色土」で遺物取上。IV層。
24	暗オリーブ褐色土 2.5Y3/3	やや粘質。しまりはやや弱い。木炭・瓦を含む。20層によく似ている。「石組み2 暗褐色土」で遺物取上。IV層。



石敷き 1 (東から)



石敷き 1 (北から)

図版 42 トレンチ 5 検出状況②



石敷き 1 周辺（南から）



石敷き 1 南端土層（南西から）

図版 43 トレンチ 5 検出状況③



石積み 5 北端周辺土層（南東から）



石敷き 3、石組み 4（南から）

図版 44 トレンチ 5 検出状況④



石敷き 3、石組み 4（南から）



石組み 2（上が北）

図版 45 トレンチ 5 検出状況⑤



石組み 2 挖り下げ途中（西から）



石組み 2 挖り下げ後（北から）

図版 46 トレンチ 5 検出状況⑥



石積み 5 (南から)



石積み 6 (南西から)

図版 47 トレンチ 5 検出状況⑦

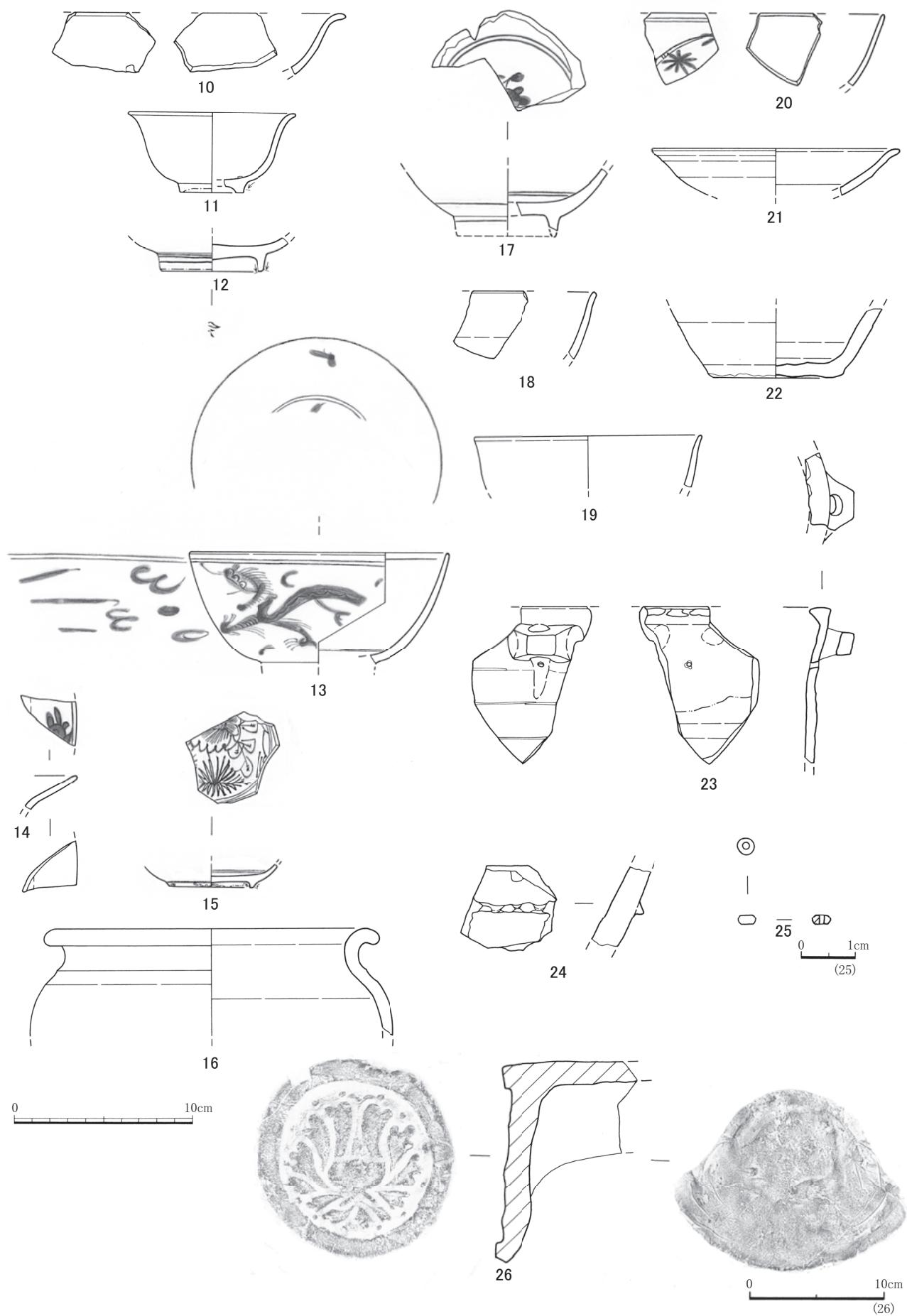


土坑（西から）



土坑掘り下げ途中状況（西から）

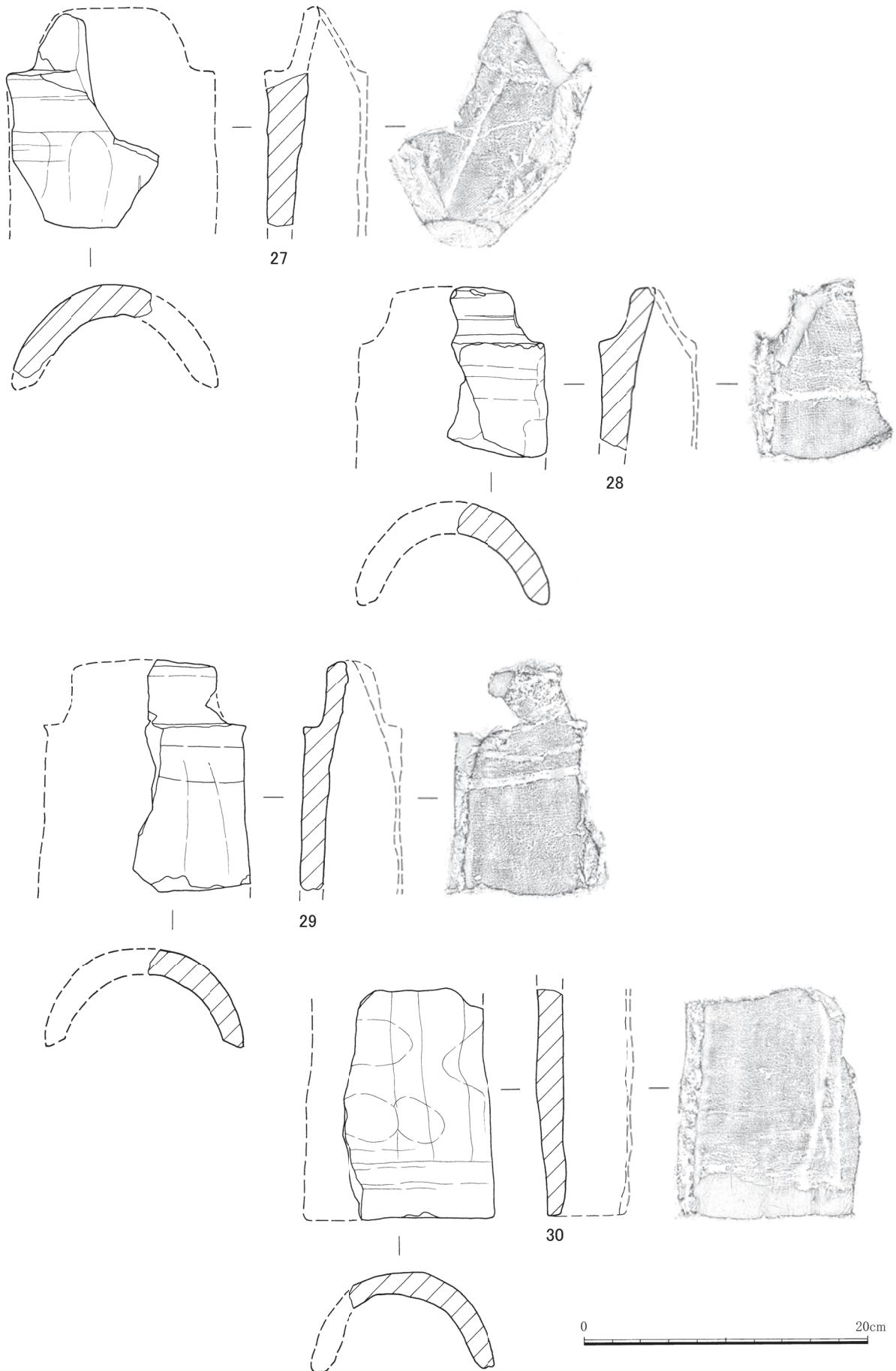
図版 48 トレンチ 5 検出状況⑧



第17図 トレンチ5出土遺物1



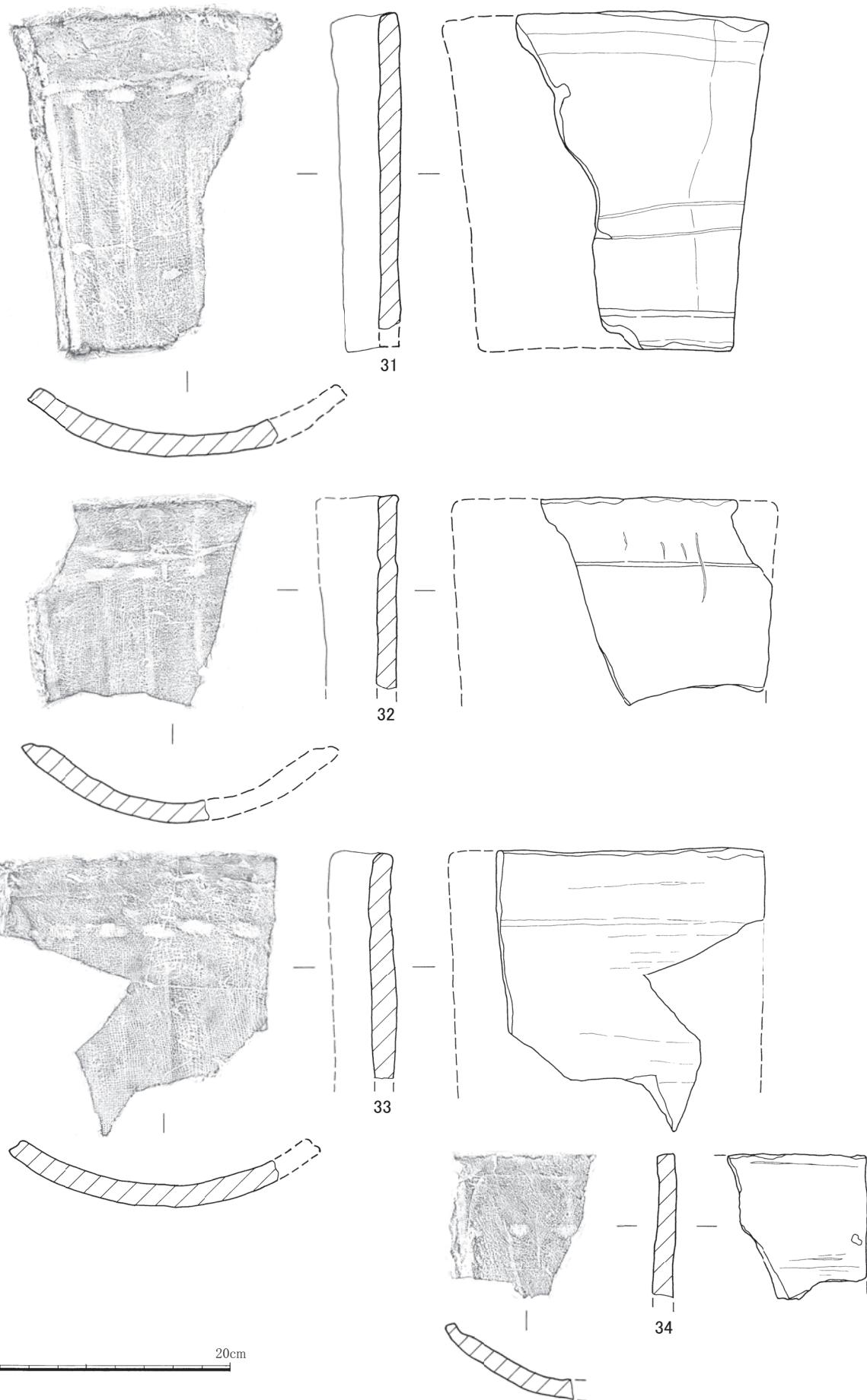
図版 49 トレンチ 5 出土遺物 1



第18図 トレンチ5出土遺物2



図版 50 トレンチ 5 出土遺物 2



第19図 トレンチ 5 出土遺物 3



31



32



33

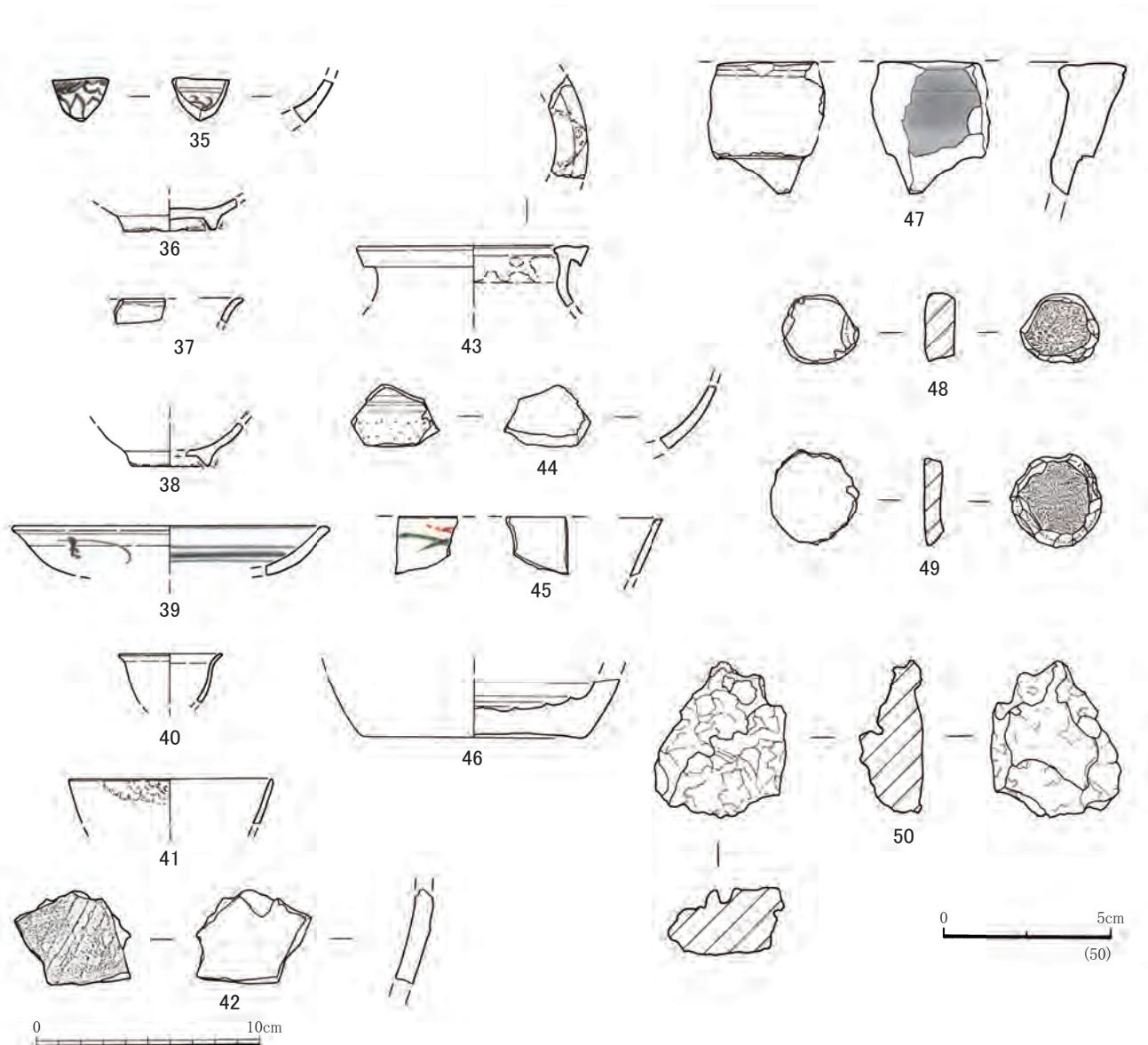


34

図版 51 トレンチ 5 出土遺物 3



図版 52 トレンチ 5 出土遺物 4



第20図 トレンチ5出土遺物4

第5表 トレンチ5出土遺物観察一覧a

挿図番号 図版番号	種類	器種	部位	口径・長さ	底径・幅	器高・厚さ	所見	出土地
第17図 図版49	10	中国産白磁	皿	口縁部	—	—	景德鎮窯系。16世紀。	トレンチ5 石組み2 III層 暗褐色土
	11	白磁	小碗	口縁～底部	9.0	3.6	4.5 型おこし成型で、畳付～高台内は露胎。見込に重ね焼きの跡。徳化窯系。17世紀。	トレンチ5 石組み2 III層 暗褐色土
	12	本土産染付	碗	底部	—	5.8	— 畠付は露胎。肥前系。1660～1680年代。	トレンチ5 石組み2 III層 暗褐色土
	13	本土産染付	碗	口縁部	14.6	—	— 外面に鳳凰と龍の文様。肥前系。1660～1670年代。	トレンチ5 石組み2 III層 暗褐色土
	14	染付	皿	口縁部	—	—	景德鎮窯系。17世紀前半。	トレンチ5 石組み2 III層 暗褐色土
	15	染付	小皿	底部	—	4.7	— 畠付は露胎。景德鎮窯系。17世紀前半。	トレンチ5 石組み2 III層 暗褐色土
	16	タイ産褐釉陶器	壺	口縁部	18.8	—	— 素地はやや砂質、浅黄色で、赤色・橙色・半透明粒を少し含む。	トレンチ5 石組み2 III層 暗褐色土

第5表 トレンチ5出土遺物観察一覧b

挿図番号 図版番号	種類	器種	部位	口径・ 長さ	底径・ 幅	器高・ 厚さ	所見	出土地
第17図 図版49	17	本土産 染付	碗	底部	—	—	肥前系。1650～1670年代。	トレンチ5 石組み2 Ⅲ層 暗褐色土
	18	本土産 陶器	碗	口縁部	—	—	素地はやや砂質で浅黄色。肥前系(内野山窯か)。17世紀後半～18世紀前半。	トレンチ5 石組み2 Ⅲ層 暗褐色土
	19	本土産 陶器	碗	口縁部	12.8	—	素地は浅黄色。肥前系(内野山窯か)。17世紀後半～18世紀前半。	トレンチ5 石組み2 Ⅲ層 暗褐色土
	20	本土産 染付	碗	口縁部	—	—	肥前系。17世紀後半。	トレンチ5 石組み2 Ⅲ層 暗褐色土
	21	本土産 陶器	皿	口縁部	14.0	—	肥前系(内野山窯か)。17世紀中葉～末。	トレンチ5 石組み2 Ⅲ層 暗褐色土
	22	沖縄産 無釉陶器	壺	底部	—	7.6	内外面とも轆轤ナデ。底部外面は圧痕。	トレンチ5 石組み2 Ⅲ層 暗褐色土
第17図 図版50	23	沖縄産 無釉陶器	火炉	口縁部	—	—	外面～口縁部内面に泥釉。	トレンチ5 石組み2 Ⅲ層 暗褐色土
	24	瓦質土器	鉢	胴部	—	—	素地に白色・灰白色・黒色粒を少し含む。重量48.9g。	トレンチ5 石組み2 Ⅲ層 暗褐色土
	25	玉	—	—	—	—	筋は無く、気泡がやや多い。重量0.04g。	トレンチ5 石組み2 Ⅲ層 暗褐色土
	26	瓦	明朝系 軒丸瓦 赤色	—	—	—	白色・黒色・橙色・金色粒を少し含む。凹面は布目、凸面はナデ。瓦頭文様がやや摩滅している。	トレンチ5 石組み2 Ⅲ層 暗褐色土
第18図 図版50	27	瓦	明朝系 丸瓦 赤色	—	—	—	素地は橙色で中心は灰色。橙色粒を多く黒色・赤色・半透明粒を少し含む。凹面は布目、凸面はナデ。	トレンチ5 石組み2 Ⅲ層 暗褐色土
	28	瓦	明朝系 丸瓦 灰色	—	—	—	素地は浅黄色で橙色・黒色・粒を少し含む。凹面は布目、凸面はナデ。	トレンチ5 石組み2 Ⅲ層 暗褐色土
	29	瓦	明朝系 丸瓦 赤色	—	—	—	素地は橙色で中心は灰色。橙色粒を多く赤色・半透明粒を少し含む。凹面は布目、凸面はナデ。	トレンチ5 石組み2 Ⅲ層 暗褐色土
	30	瓦	明朝系 丸瓦 灰色	—	—	—	素地は灰黄色で黒色粒を少し含む。凹面は布目、凸面はナデ。端部に圧痕。	トレンチ5 石組み2 Ⅲ層 暗褐色土
第19図 図版51	31	瓦	明朝系 平瓦 灰色	—	—	—	素地は明黄褐色で橙色粒を多く、黒色・赤色粒を少し含む。凹面は布目、凸面はナデ。端部に圧痕。	トレンチ5 石組み2 Ⅲ層 暗褐色土
	32	瓦	明朝系 平瓦 灰色	—	—	—	素地は灰色、やや硬質で、黒色・赤色・半透明粒を少し含む。凹面は布目、凸面はナデ。端部に圧痕。凸面に「川」のような線刻。	トレンチ5 石組み2 Ⅲ層 暗褐色土
	33	瓦	明朝系 平瓦 灰色	—	—	—	素地は灰色で橙色・半透明粒を少し含む。凹面は布目、凸面はナデ。端部に圧痕。	トレンチ5 石組み2 Ⅲ層 暗褐色土
	34	瓦	明朝系 平瓦 灰色	—	—	—	素地の中心はにぶい赤褐色、外側は暗灰色で、陶器質。凹面は布目、凸面はナデ。端部に圧痕。凸面に小型巻貝の圧痕。	トレンチ5 石組み2 Ⅲ層 暗褐色土

第5表 トレンチ5出土遺物観察一覧c

挿図番号 図版番号	種類	器種	部位	口径・ 長さ	底径・ 幅	器高・ 厚さ	所見	出土地	
第20図 図版52	35	中国産 染付	碗	胴部	—	—	—	景德鎮窯系。18世紀前半。	トレンチ5 石積み5 西側 III層 暗褐色土
	36	中国産 白磁か	小碗	底部	—	4.1	—	福建系。18~19世紀前半。	トレンチ5 石積み6 北側 III層 褐色土
	37	中国産 白磁	皿	口縁部	—	—	—	景德鎮窯系。16世紀。	トレンチ5 石積み6 北側 III層 褐色土
	38	中国産 色絵	小碗	底部	—	3.6	—	型押し成形。福建系。18世紀後半~ 19世紀。	トレンチ5 石積み6 南側 III層 暗褐色土
	39	中国産 染付	皿	口縁部	14.4	—	—	福建系。18世紀。	トレンチ5 石積み6 南側 III層 暗褐色土
	40	中国産 染付か	小杯	口縁部	4.6	—	—	景德鎮窯系。16世紀末~17世紀。	トレンチ5 石積み6 南側 III層 暗褐色土
	41	本土産 色絵	碗	口縁部	9.2	—	—	肥前系。17世紀後半。	トレンチ5 石積み6 南側 III層 暗褐色土
	42	中国産 陶器	壺か甕	胴部	—	—	—	素地はにぶい赤褐色と白色の交胎 で、赤色・黒色・半透明粒を少し含 む。外面はタタキ、内面はナデか。 中国南部か。16~17世紀。	トレンチ5 石積み6 南側 III層 暗褐色土
	43	本土産 陶器	壺	口縁部	10.5	—	—	素地は灰赤色で、橙色・半透明粒を 少し含む。内外面とも轆轤ナデで、 口縁平坦部は露胎、貝目跡。	トレンチ5 石積み6 南側 III層 暗褐色土
	44	本土産 陶器	碗	胴部	—	—	—	素地は白色で、外面は銅緑釉。肥 前系(内野山窯か)。17世紀第四四 半期~18世紀前半。	トレンチ5 石積み6 南側 III層 暗褐色土
	45	沖縄産 施釉陶器	碗	口縁部	—	—	—	素地は灰色。白化粧の後に上絵。	トレンチ5 石積み6 南側 III層 暗褐色土
	46	沖縄産 無釉陶器	壺	底部	—	10.0	—	素地は明赤褐色で、白色・赤色粒を 少し含む。内面は粘土を削り取るよう な深い轆轤ナデ、外面は轆轤ナデ。 底部外面に圧痕。	トレンチ5 石積み6 南側 III層 暗褐色土
	47	陶質土器	火炉	口縁部	—	—	—	素地は橙色で、橙色・半透明粒を少 し含む。内面に煤が付着。重量 66.2g。	トレンチ5 石積み6 南側 III層 暗褐色土
	48	円盤状 製品	瓦・灰色	—	—	—	—	素地は灰色で、黒色・半透明粒を少 し含む。平瓦を転用か。重量17.1g。	トレンチ5 石積み6 南側 III層 暗褐色土
	49	円盤状 製品	沖縄産 無釉陶器	—	—	—	—	素地は橙色で、半透明粒を多く含 む。重量19.1g。	トレンチ5 石積み6 南側 III層 暗褐色土
	50	鉄製品	鉄滓	—	—	—	—	破片。碗形滓か。重量47.1g。	トレンチ5 石積み6 南側 III層 暗褐色土

## 第7節 トレンチ6の遺構と遺物

### 1 石積み1

相方積みで、北側と南側に面を持つ。平成3年度の調査で「4号石垣」として報告された。東端は大形の土坑に切られていたり、確認できなかった。

### 2 石積み2

野面積みで西側に面を持っていて、根石は確認していない。平成3年度の調査で「5号石垣」として報告された。石積み1に切られている。土留めの石積みと考えられる。

### 3 その他

トレンチ中央には大形の土坑があり、その中には大量の石灰岩礫や瓦などが含まれていた。土坑の東には、黄褐色砂質土が厚く堆積しており、土坑と接する部分を中心に20cm前後の石灰岩礫を確認した。それらの中には人為的に並べたり積んだりしているように見えるものがあったことから、石灰岩礫を覆う黄褐色砂質土は造成層の可能性がある。

また大形土坑の周辺や下層には赤褐色粘質土があり、さらに下層には基盤層と考えられる黄褐色砂質土（ニービ）が堆積している。



図版53 トレンチ6 検出状況①（西から）



西側（南西から）

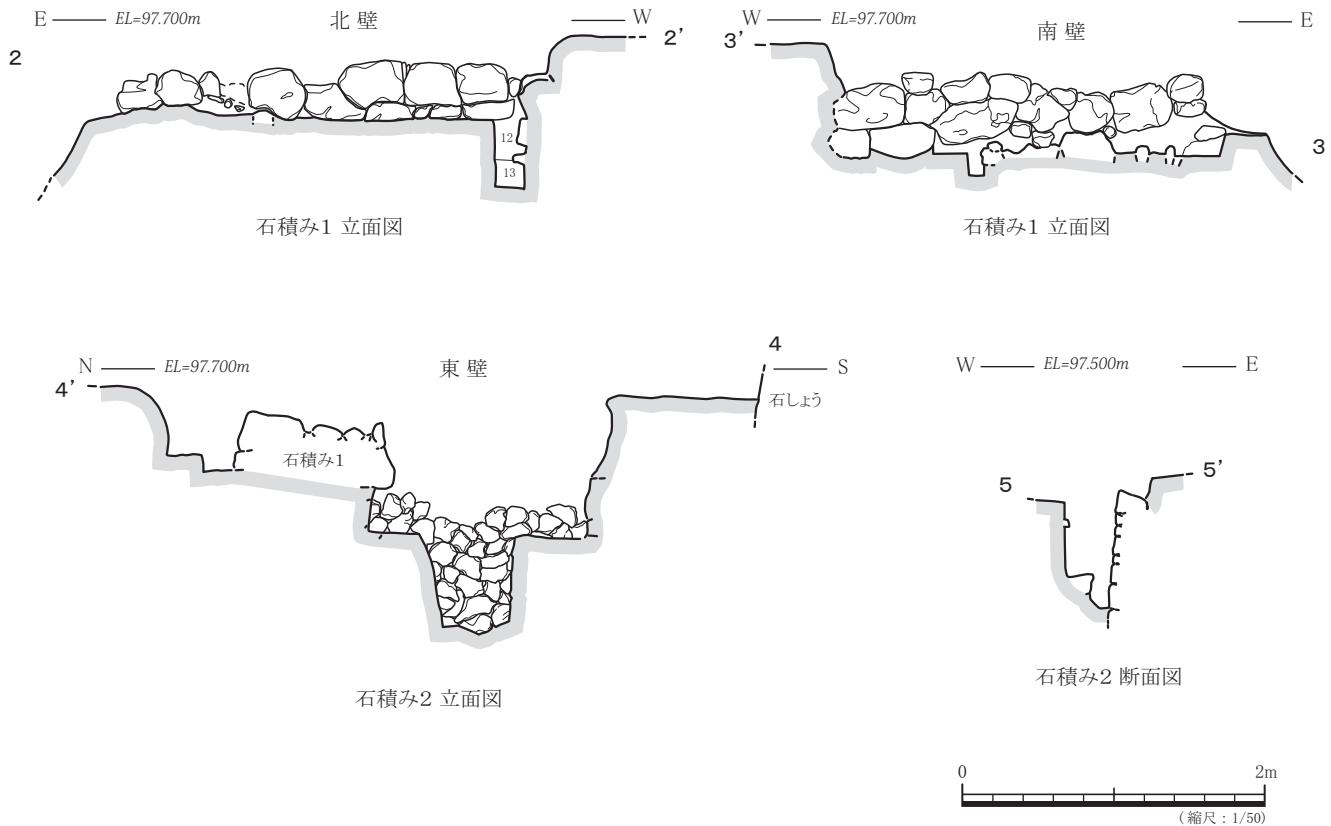


石積み 1 北側土層（南西から）

図版 54 トレンチ 6 検出状況②

第21図 レンチ6





第22図 トレンチ6

層序	色調	特徴
1	—	コーラル。最上面に1cm程度のアスファルトが敷かれている。I層。
2	褐色土 10YR4/4	やや砂質。瓦・埠・鉄釘・木炭・石灰岩小礫を含む。I層。
3	灰黄褐色土 10YR4/2	砂質。サンゴ片を多く含む。旧表土(III層)か。トレンチ5の12層に対応か。
4	黒褐色土 10YR3/2	やや砂質。赤瓦・木炭を多く含む。I層。
5	—	瓦礫層。30cm前後の石灰岩や砂岩製礎石、赤瓦を含む。
6	灰黄褐色土 10YR4/2	やや砂質。しまりは弱い。赤瓦・石灰岩礫を含む。I層。
7	黒褐色土 10YR3/2	瓦・木炭・石灰岩礫・染付を含む。やや粘質。
8	明褐色土 7.5YR5/6	砂質。ややしまる。赤瓦・石灰岩礫を少し含む。明黄褐色土をブロック状に含む。
(下層)	明黄褐色土 10YR6/6	砂質。しまりは弱い。石灰岩礫・赤瓦を含む。
9	—	礫層。やや砂質。しまりは弱い。赤褐色土をブロック状に含む。赤瓦・石灰岩礫を少し含む。
10	明黄褐色土 10YR6/6	砂質。ややしまる。
11	明赤褐色土 5YR5/8	粘質。固くしまる。暗褐色土を所々に含む。
12	灰黄褐色土 10YR5/2	やや砂質。15cm前後のクチャをブロック状に含む。赤瓦を少量含む。石灰岩礫を含む。III層。
13	褐色土 7.5YR4/3	やや粘質。瓦・石灰岩礫・木炭を含む。
14	黒褐色土 10YR2/2	やや砂質。3cm前後の玉石状土塊を含む。V層。
15	明黄褐色土 2.5YR6/6	砂質。しまりはない。遺物なし。ニービ層。地山。土質は8層に似る。V層。
16	明黄褐色土 2.5YR6/6	砂質。しまりはやや弱い。



石積み 2 (西から)



東端土層

図版 55 トレンチ 6 検出状況③



北壁土層（南から）



石灰岩礫検出状況（北西から）

図版 56 トレンチ 6 検出状況④



石灰岩礫検出状況（北から）



作業風景（南東から）

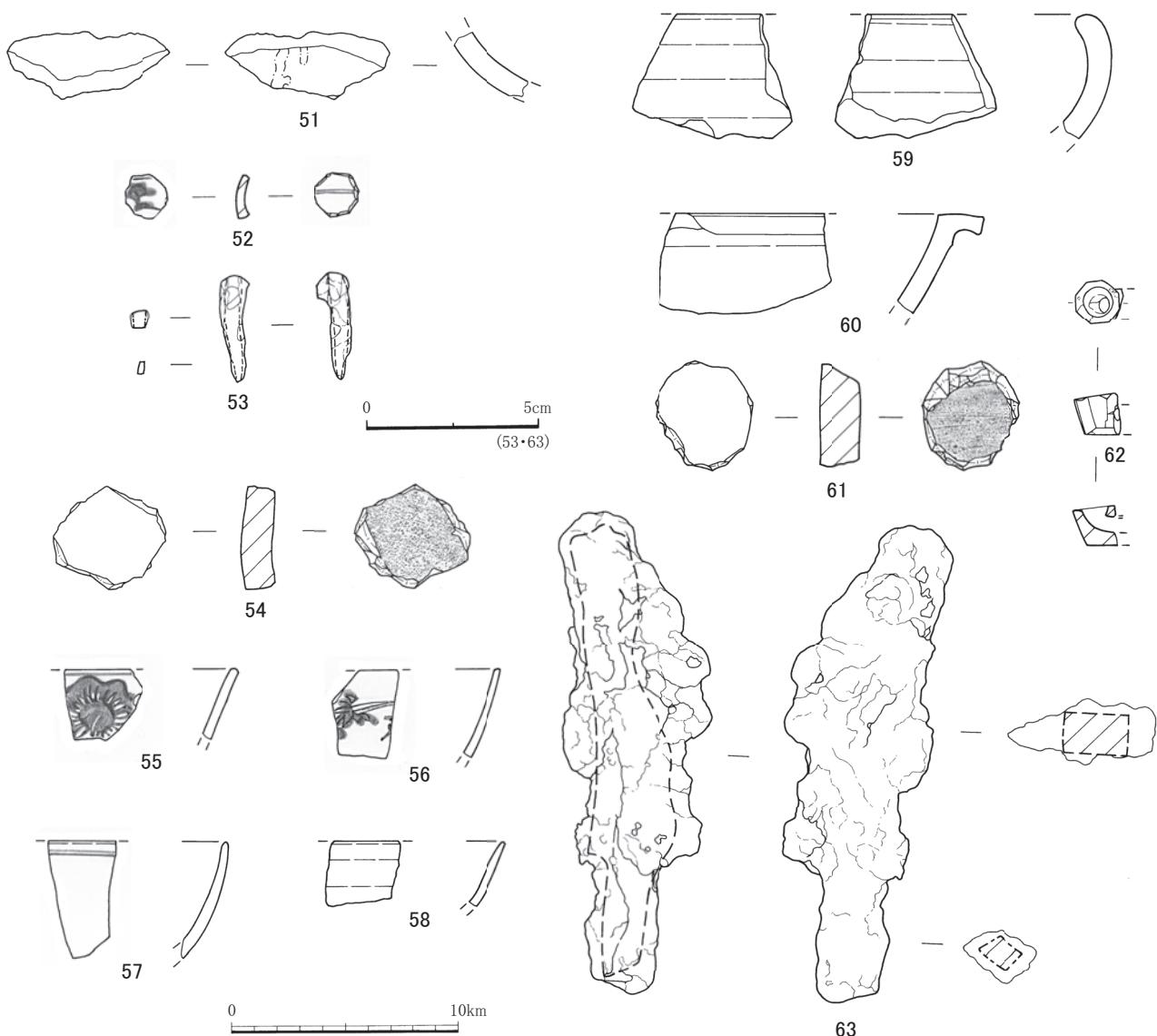
図版 57 トレンチ 6 検出状況⑤

第6表 トレンチ6出土遺物観察一覧

挿図番号 図版番号	種類	器種	部位	口径・ 長さ	底径・ 幅	器高・ 厚さ	所見	出土地
第23図 図版58	51	タイ産 褐釉陶器	壺	胴部	—	—	素地は橙色で、半透明粒を多く、白色・黒色粒を少し含む。	トレンチ6 石積み1 北側 III層 褐色土
	52	円盤状 製品	染付	—	—	—	福建系。18世紀後半～19世紀前半。重量2.1g。	トレンチ6 石積み1 北側 III層 褐色土
	53	鉄製品	釘	—	—	—	錆膨れしている。重量2.3g。	トレンチ6 石積み1 直下 III層 暗褐色土
	54	円盤状 製品	瓦	—	—	—	素地は赤褐色で陶器質。重量41.6g。	トレンチ6 石積み1 北側 III層 灰褐色土
	55	中国産 染付	碗	口縁部	—	—	印青花。福建・廣東系。17世紀末～18世紀前半。	トレンチ6 石積み2 西側 III層 暗褐色土
	56	中国産 染付か	碗	口縁部	—	—	—	17～18世紀。
	57	本土産 染付	碗	口縁部	—	—	肥前系。18～19世紀前半。	トレンチ6 石積み2 西側 III層 暗褐色土
	58	沖縄産 施釉陶器	碗	口縁部	—	—	貫入が多い。	トレンチ6 石積み2 西側 III層 暗褐色土
	59	沖縄産 無釉陶器	鉢	口縁部	—	—	素地は橙色で、黒色・半透明粒を少し含む。内外面とも轆轤ナデ。	トレンチ6 石積み2 西側 III層 暗褐色土
	60	沖縄産 無釉陶器	鉢	口縁部	—	—	素地は橙色で、黒色・半透明粒を少し含む。内外面とも轆轤ナデ。	トレンチ6 石積み2 西側 III層 暗褐色土
	61	円盤状 製品	沖縄産 無釉陶器	—	—	—	素地は赤褐色で半透明粒を少し含む。内外面とも轆轤ナデ。重量41.0g。	トレンチ6 石積み2 西側 III層 暗褐色土
	62	煙管	沖縄産 無釉陶器	雁首	—	—	素地はにぶい赤褐色で橙色粒・半透明粒を少し含む。外面はケズリ。重量6.3g。	トレンチ6 石積み2 西側 III層 暗褐色土
	63	鉄製品	砲弾片か	—	—	—	錆膨れしている。重量172.5g。	トレンチ6 III層 黄褐色土



図版 58 トレンチ 6 出土遺物



第23図 トレンチ6 出土遺物

## 第8節 トレンチ7の遺構と遺物

### 1 石組み1

四方を石灰岩で囲い、その内壁をモルタで塗り固めている。南壁は傾斜している。石組み内からは、瓦やガラス製品、炭などが出土した。その形状からトイレ跡と考えられる。

### 2 石積み7

野面積みで面は無く、根石は確認していない。土留めの石積みと考えられる。中城大親の南端付近に位置する。

### 3 石積み9

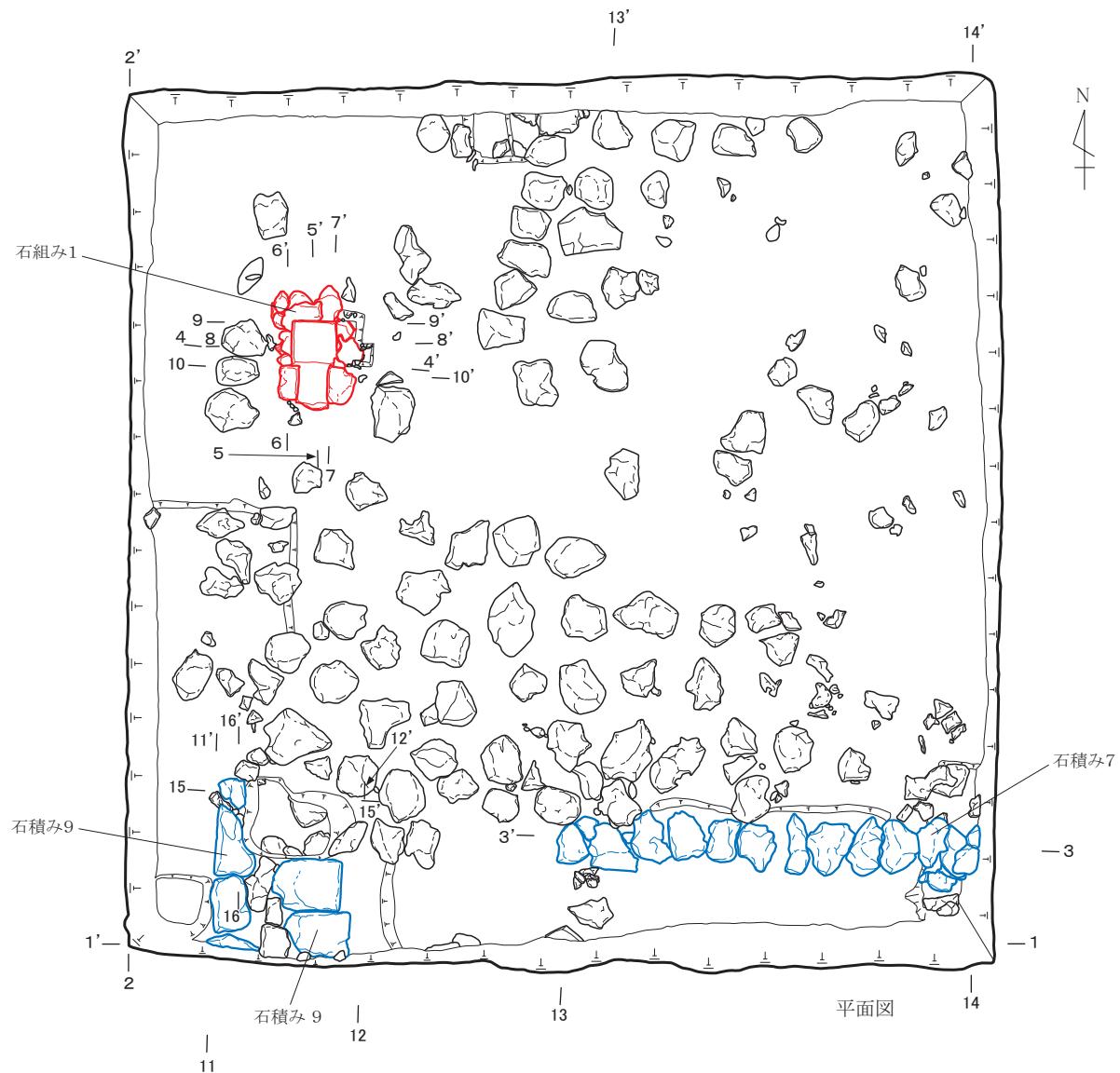
切石積みで、東西に面を持っており、根石部分のみを確認した。平成3年度の調査で「6号石垣」として報告されている。

### 4 その他

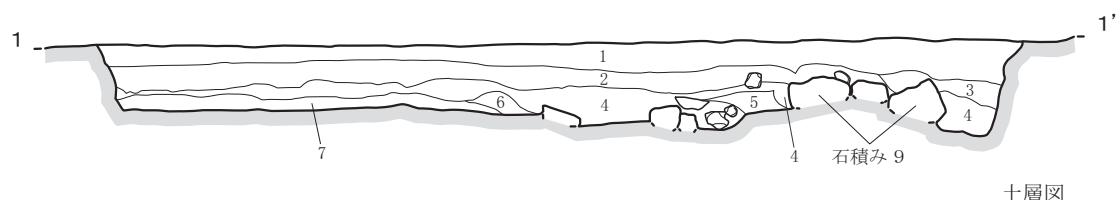
トレンチ5と同様に、30cm前後の石灰岩礫を均一に含む造成層が広がっている。



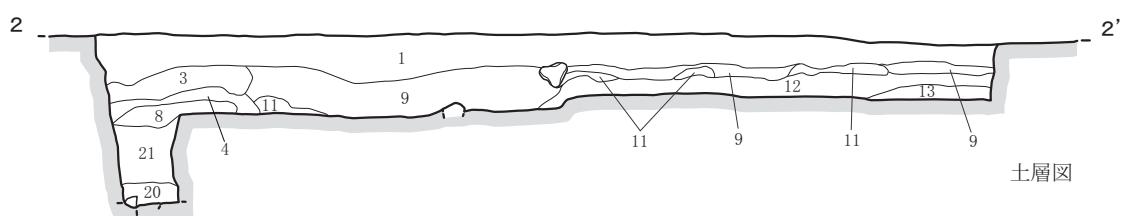
図版59 トレンチ7 検出状況① (南から)



E —— EL=98.300m 南壁 W



S —— EL=98.300m 西壁 N



0 2m  
(縮尺: 1/50)

第24図 トレンチ7

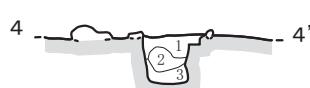
E —— EL=98.300m

W



石積み7 断面図

W —— EL=98.100m —— E



石組み1内 土層図

石組み1内

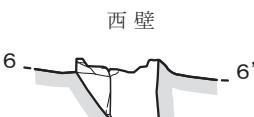
層序	色調	特徴
1	暗褐色土 7.5YR3/3	砂質。しまりはない。木炭を含む。「暗褐色土」で遺物取上。
2	—	瓦層。赤褐色土(2.5YR4/4)を含む。「瓦層」で遺物取上。
3	褐灰色土 10YR4/1	砂質。しまりはない。瓦・ガラス・獸骨・木炭・石灰岩礫を含む。「褐色土」で遺物取上。

S —— EL=98.000m —— N



石組み1 断面図(南北)

S —— EL=98.000m —— N



石組み1 立面図

N —— EL=98.000m —— S



石組み1 立面図

W —— EL=98.000m —— E



石組み1 断面図(東西)

W —— EL=98.000m —— E



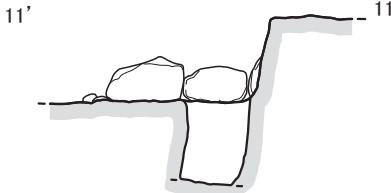
石組み1 立面図

E —— EL=98.000m —— W



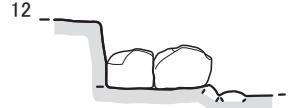
石組み1 立面図

N —— EL=98.000m —— S



石組み9 西壁立面図

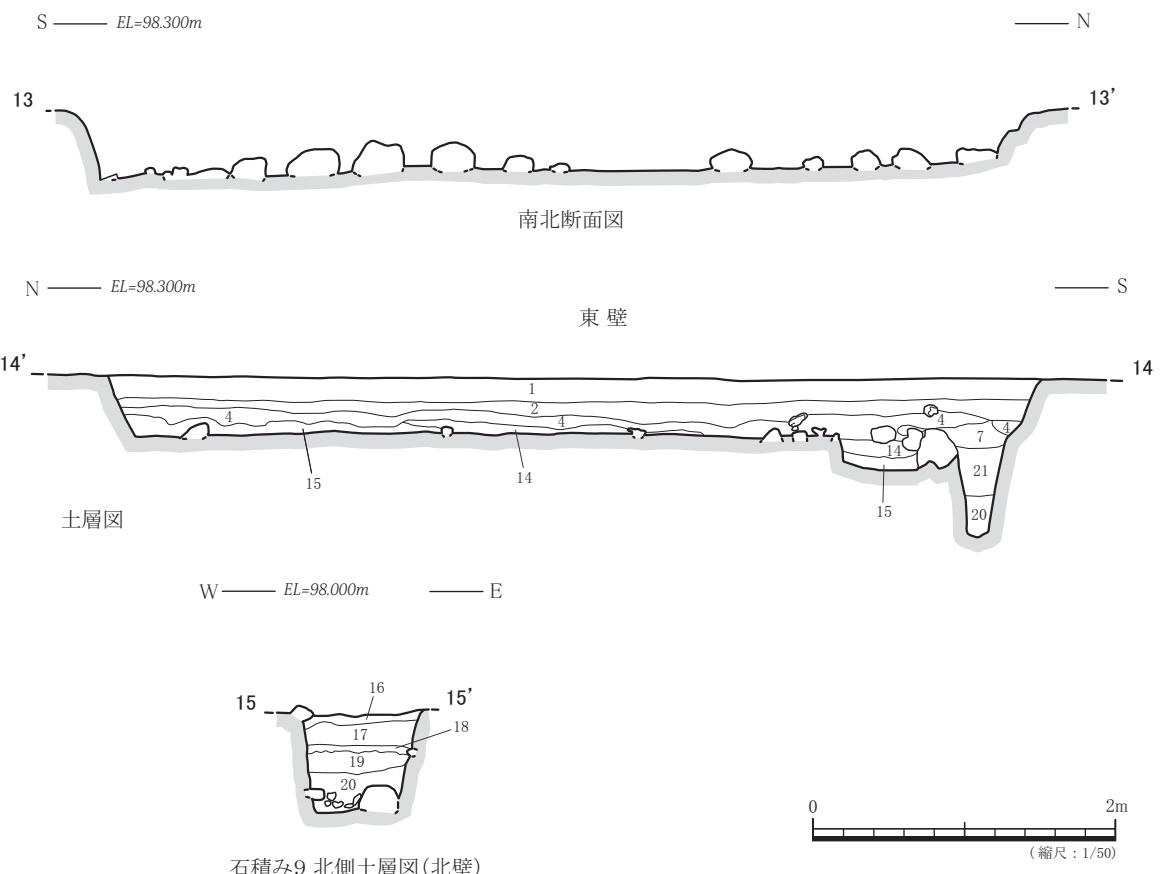
S —— EL=98.000m —— N



石組み9 立面図



第25図 トレンチ 7



第26図 トレンチ7

層序	色調	特徴
1	—	コーラル層。
2	褐色土 10YR4/4	やや砂質。5cm前後の赤褐色土をブロック状に含む。瓦・コンクリート・ガラス・石灰岩礫を含む。しまりはやや強い。I層。
3	明黄褐色土 10YR6/6	やや砂質。ガラス・コンクリート・瓦・石灰岩礫を含む。I層。
4	灰黄褐色土 10YR5/2	やや砂質。しまりはやや弱い。瓦・石灰岩礫・コンクリート・ガラスを含む。I層。
5	明黄褐色土 2.5YR7/6	砂質。3cm前後の石灰岩礫を多く含む。8層に似ている。I層か。
6	黄灰色土 2.5Y4/1	砂質。ややしまる。石灰岩礫・木炭を多く含む。I層か。
7	—	石灰岩礫層。砂質。固くしまる。ヤコウガイ・赤瓦・陶器を含む。III層。5・8層に似ている。
8	明黄褐色土 2.5YR7/6	砂質。3cm前後の石灰岩礫を多量に含む。しまりはやや強い。赤瓦を含む。5層に似ている。
9	オリーブ褐色土 2.5YR4/3	やや砂質。ややしまる。コンクリート・ガラス・瓦・石灰岩礫を含む。4層に似ている。I層。
11	黄褐色土 10YR5/6	砂質。ややしまる。暗褐色土をブロック状に含む。きめ細かい。3層に似ている。
12	黒褐色土 10YR3/2	砂質。ややしまる。赤瓦・サンゴ片を少し含む。
13	褐灰色土 10YR4/1	砂質。しまりは弱い。石灰岩礫を多く含む。
14	黒褐色土 2.5Y3/2	やや粘質。しまりは強い。青灰色粘質土(クチャ)をブロック状に含む。石灰岩礫・赤瓦を含む。IV層。トレンチ5の18層と同じ。
15	明黄褐色土 2.5Y6/6	やや砂質。しまりは強い。暗褐色粘質土をまだら状に含む。青灰色粘質土(クチャ)、赤褐色粘質土をブロック状に含む。IV層。トレンチ5の19層と同じ。
16	黒褐色土 10YR3/1	やや砂質。しまりはやや弱い。陶磁器などの遺物を多く含む。IV層。
17	褐色土 10YR4/4	やや粘質。しまりはやや強い。赤瓦・炭・赤褐色土粒を少し含む。IV層。
18	褐灰色土 10YR4/1	やや粘質。しまりはやや強い。青灰色粘質土(クチャ)をブロック状に多く含む。IV層。
19	赤褐色土 5YR4/8	粘質。しまりはやや強い。暗褐色粘質土でブロック状に少し含む。IV層。
20	暗褐色土 10YR3/3	砂質。しまりはやや弱い。石灰岩礫を多く含む。赤瓦を含む。IV層。
21	黄褐色土 2.5Y5/3	砂質。しまりは弱い。5cm前後の石灰岩礫を多く含む。赤瓦を含む。IV層。



(西から)



石組み 1 遺物検出状況（南西から）

図版 60 トレンチ 7 検出状況②



石組み 1 遺物検出状況（南から）



石組み 1 内土層（南西から）

図版 61 トレンチ 7 検出状況③



石組み 1 遺物検出状況（南東から）



石組み 1 遺物検出状況（南東から）

図版 62 トレンチ 7 検出状況④



石組み 1 (南西から)



石組み 1 (上が東)

図版 63 トレンチ 7 検出状況⑤



石積み 7 東端（上が北）



石積み 7 東端土層（西から）

図版 64 トレンチ 7 検出状況⑥



石積み 9 (北東から)



石積み 9 北側土層 (上が北)

図版 65 トレンチ 7 検出状況⑦



南西隅土層（北から）

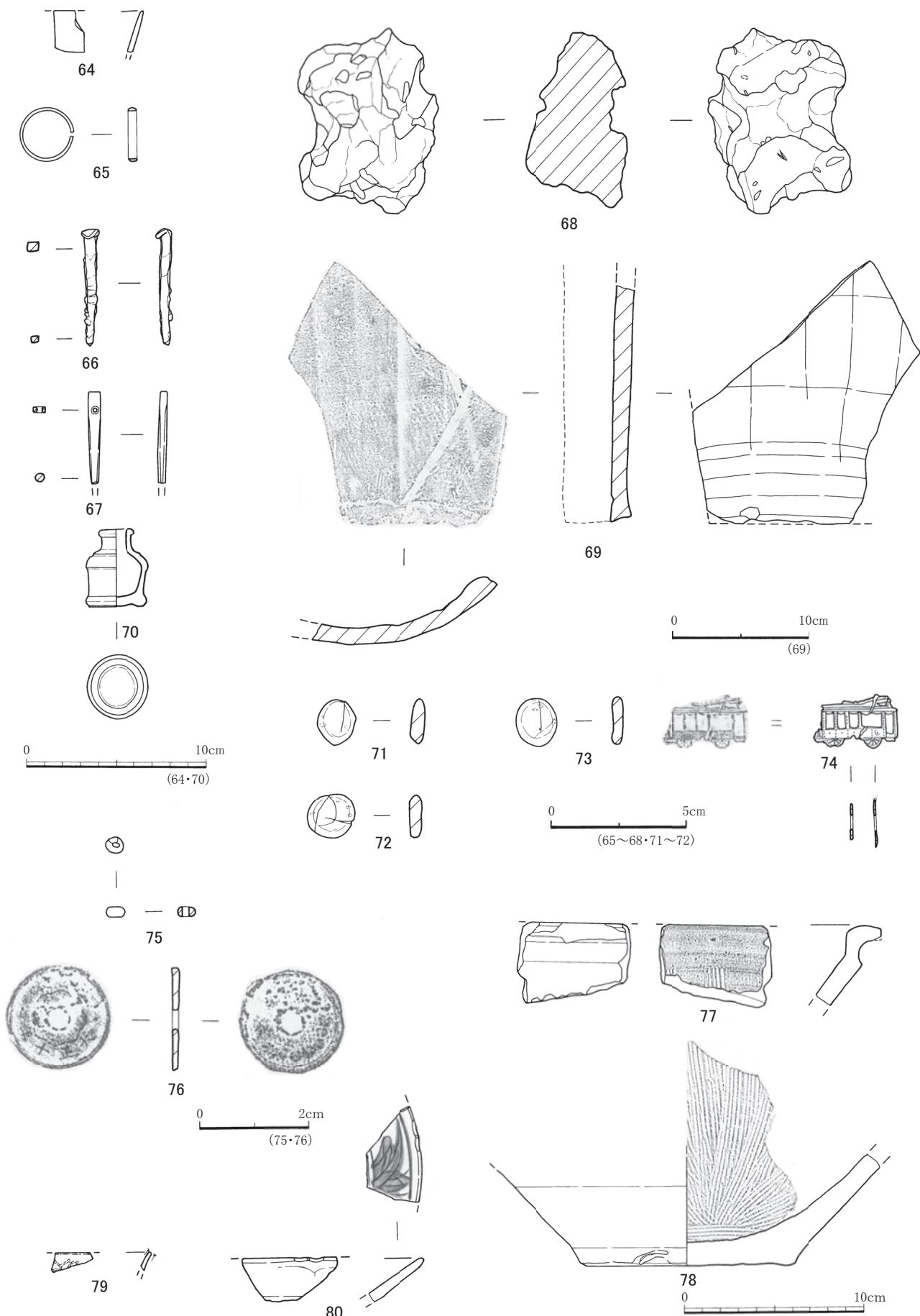
図版66 トレンチ7 検出状況⑧

第7表 トレンチ7 出土遺物観察一覧 a

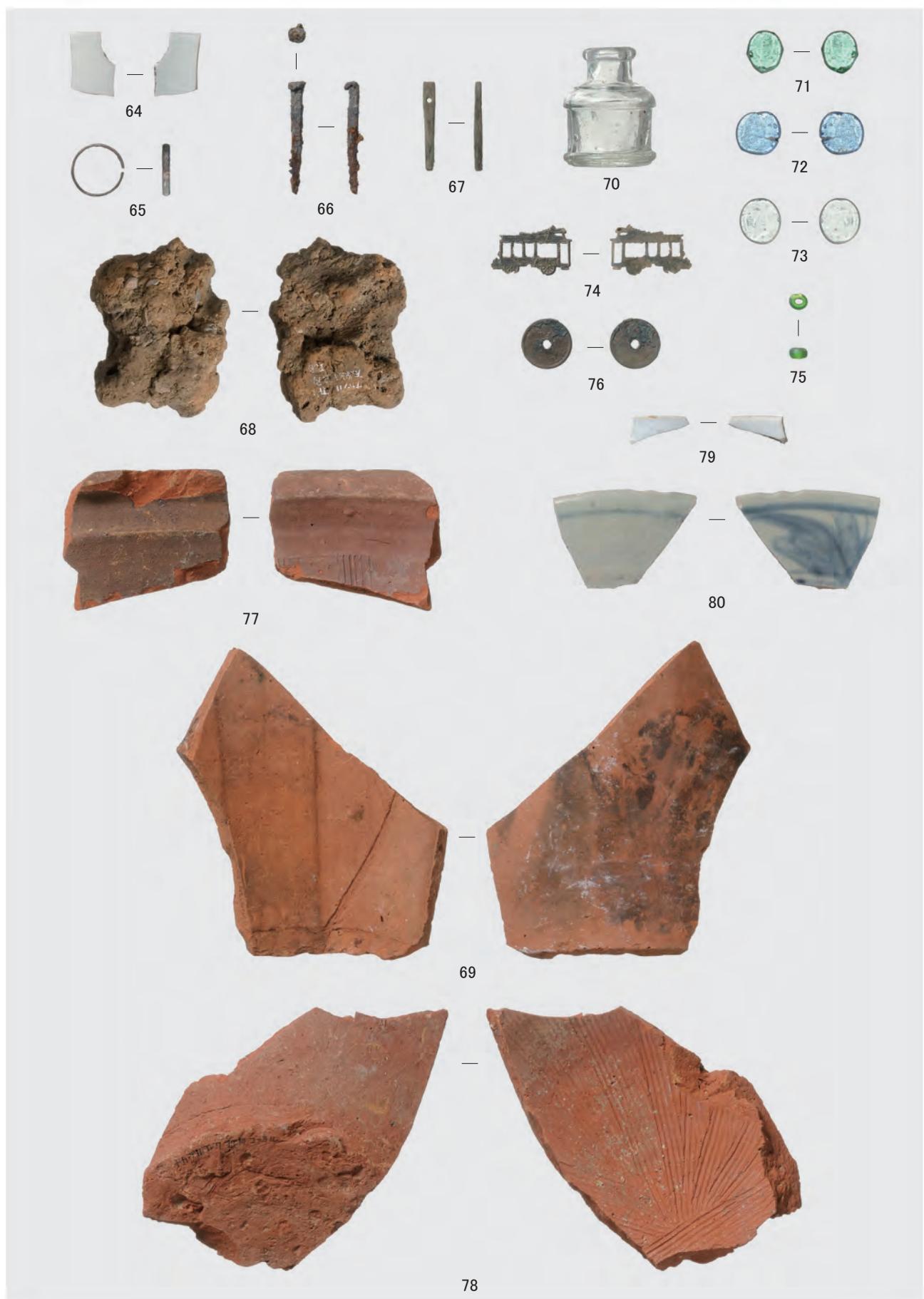
挿図番号 図版番号	種類	器種	部位	口径・ 長さ	底径・ 幅	器高・ 厚さ	所見	出土地
第27図 図版67	64	本土産 白磁か	杯	口縁部	—	—	肥前系。17世紀後半。18世紀後半～19世紀。	トレンチ7 石組み1 Ⅲ層 暗褐色土
	65	金属製品	—	—	—	—	全体に銀色の鍍金。割れているが、接合可能。指輪か。重量1.1g。	トレンチ7 石組み1 Ⅲ層 暗褐色土
	66	金属製品	角釘	—	4.3	—	鉄製か。重量3.1g。	トレンチ7 石組み1 Ⅲ層 瓦層
	67	青銅製品	針か	—	—	—	折れた断面は平らに加工されているようである。重量2.4g。	トレンチ7 石組み1 Ⅲ層 瓦層
	68	焼土	—	—	—	—	珊瑚片・白色粒を多く、黒色・半透明粒を少し含む。直系1cmの棒状の物の圧痕。重量79.1g。	トレンチ7 石組み1 Ⅲ層 瓦層
	69	瓦	明朝系 平瓦 赤色	—	—	—	素地は橙色で、赤色粒を少し含む。凹面は布目、凸面はナデ、下端は圧痕。主に凸面に煤のようなものが付着。	トレンチ7 石組み1 Ⅲ層 瓦層
	70	ガラス 製品	瓶	口縁～ 底部	2.0	3.0	4.4	大小の気泡が少しある。重量32.8g。

第7表 トレンチ7出土遺物観察一覧b

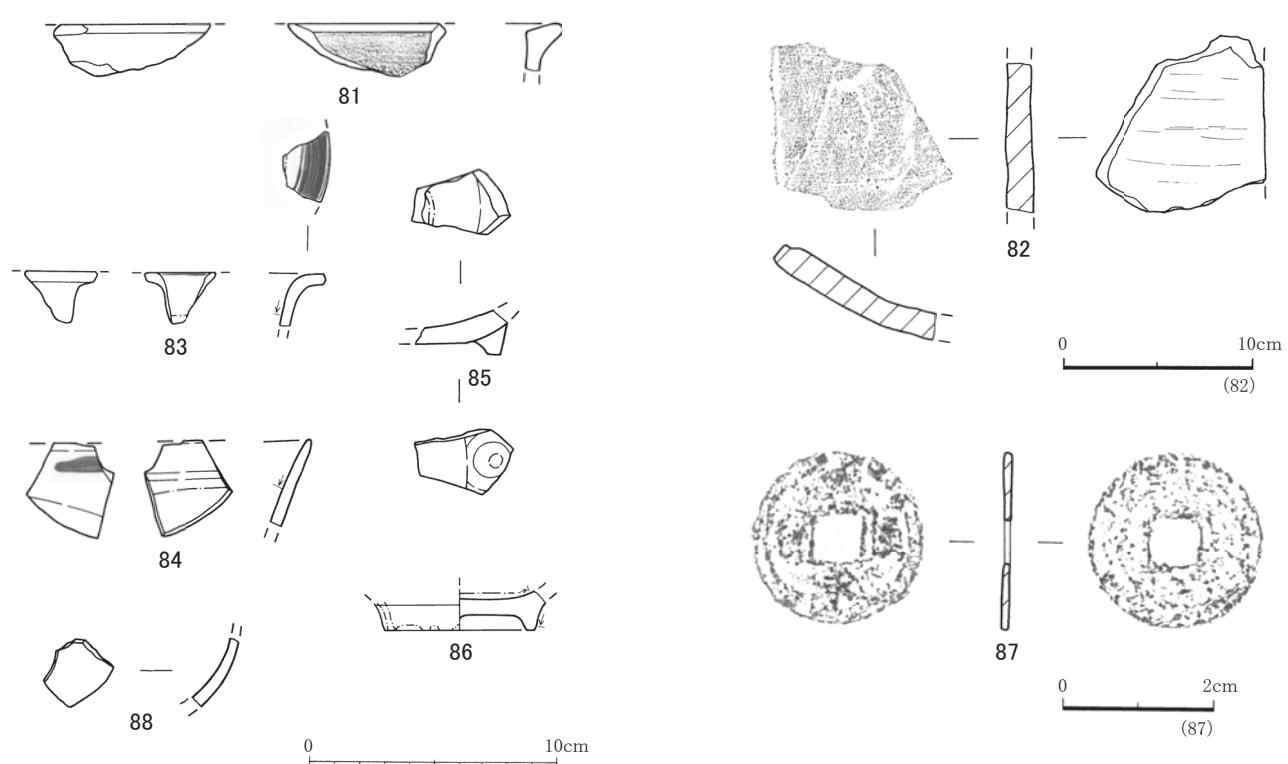
挿図番号 図版番号	種類	器種	部位	口径・ 長さ	底径・ 幅	器高・ 厚さ	所 見	出土地	
第27図 図版67	71	ガラス 製品	おはじき	—	—	—	気泡、筋がある。重量1.5g。	トレンチ7 石組み1 III層 褐色土	
	72	ガラス 製品	おはじき	—	—	—	気泡、筋がある。重量2.3g。	トレンチ7 石組み1 III層 褐色土	
	73	ガラス 製品	おはじき	—	—	—	気泡、筋がある。重量1.6g。	トレンチ7 石組み1 III層 褐色土	
	74	鉄製品	—	—	—	—	機関車の形をした装飾品か。重量1.0g。	トレンチ7 石組み1 III層 褐色土	
	75	玉	—	—	—	—	目だった筋はない。重量0.01g。	トレンチ7 石組み1 III層 褐色土	
	76	錢貨	—	—	—	—	「大正十年」「○日本」の文字。重量1.9g。	トレンチ7 石組み1 III層 褐色土	
	77	沖縄産 無釉陶器	擂り鉢	口縁部	—	—	素地は明赤褐色で、黒色・赤色・半透明粒を少し含む。擂り目は1cmあたり5本。擂り目上端はナデ消し。	トレンチ7 III層 コーラル	
	78	沖縄産 無釉陶器	擂り鉢	底	—	12.0	—	素地は明赤褐色で、黒色・赤色・半透明粒を少し含む。擂り目は1cmあたり5本。	トレンチ7 III層 コーラル
	79	中国産 白磁	碗	口縁部	—	—	口禿。徳化窯系。17~18世紀。	トレンチ7 III層 コーラル	
	80	中国産 染付	碗	口縁部	—	—	輪花。福建漳州窯系。17世紀前半。	トレンチ7 石積み7 南側 III層 黄褐色土	
第28図 図版68	81	沖縄産 無釉陶器	擂り鉢	口縁部	—	—	素地は鈍い赤褐色で、白色・橙色粒を少し含む。擂り目は1cmあたり4本。内外面とも轆轤ナデ。	トレンチ7 石積み7 南側 III層 黄褐色土	
	82	瓦	明朝系 平瓦 灰色	—	—	—	素地は灰色で、黒色・を少し含む。凹面は布目、凸面はナデ。	トレンチ7 石積み7 南側 III層 黄褐色土	
	83	本土産 染付	香炉か 植木鉢か	口縁部	—	—	胴部内面は露胎。肥前系。18世紀後半~19世紀前半。	トレンチ7 石積み7 北側 III層 褐色土	
	84	沖縄産 施釉陶器	碗	口縁部	—	—	素地は浅黄色でやや砂質。胴部内面は露胎。	トレンチ7 III層 暗褐色土	
	85	沖縄産 施釉陶器	鍋	底部	—	—	素地は鈍い褐色で、半透明粒を少し含む。底部外面は露胎。	トレンチ7 III層 暗褐色土	
	86	沖縄産 施釉陶器	碗	底部	6.0	—	素地は灰色。白化粧の後に上絵。見込みは蛇の目状に露胎。疊付~高台内は露胎。	トレンチ7 石積み7 北側 III層 褐色土	
	87	錢貨	—	—	—	—	文字は不明。重量2.3g。	トレンチ7 III層 暗褐色土	
	88	沖縄産 施釉陶器か	碗	胴部	—	—	素地は灰白色で、貫入が多い。	トレンチ7 III層 黒褐色土	



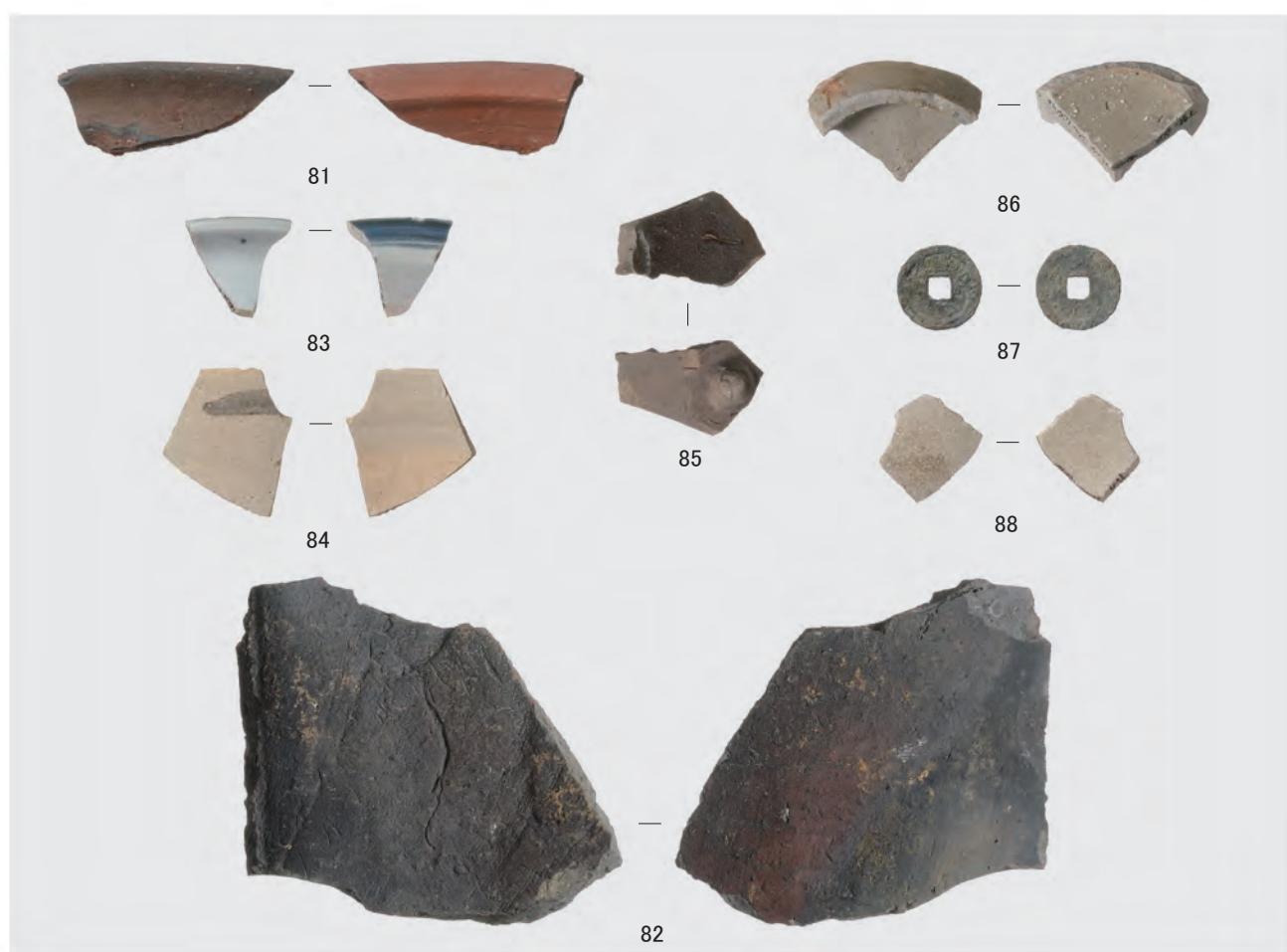
第27図 トレンチ7 出土遺物 1



図版 67 トレンチ 7 出土遺物 1



第28図 トレンチ 7 出土遺物 2



図版 68 トレンチ 7 出土遺物 2

## 第9節 摂乱層の遺物

摂乱層（I層）から7,774点が出土しているが、その中から良好な資料を250点を図化して第8表に特徴等を記した。

第8表 摂乱層出土遺物観察一覧a

挿図番号 図版番号	種類	器種	部位	口径・ 長さ	底径・ 幅	器高・ 厚さ	所見	出土地
第29図 図版69	89	青磁	皿	底部	—	4.3	— 稜花。15世紀中頃～末。龍泉窯系。	トレンチ7 I層
	90	青磁	鉢か	胴部	—	—	清朝。	トレンチ2 I層
	91	本土産 白磁か染付	碗	底部	—	4.8	— 18世紀後半から19世紀前半。肥前系。	トレンチ7 I層
	92	白磁か	皿	底部	—	6.4	— 外面と内底で釉薬を使い分けている。 18～19世紀。	トレンチ1 I層
	93	白磁	小杯	口縁～ 底部	3.8	1.6	2.7 型押し成形。18～19世紀。福建系。	トレンチ7 I層
	94	本土産 白磁	香炉か	底部	—	—	— 白薩摩。18～19世紀。	トレンチ6 I層
	95	染付	碗	底部	—	7.3	— 見込は蛇の目釉剥ぎ。17世紀末～18世紀。福建・広東系。	トレンチ1 I層
	96	染付	碗	底部	—	6.2	— 畳付は露胎。19世紀前半～中頃。景德鎮窯系。	トレンチ5 I層
	97	染付	碗	口縁部	—	—	— 印青花。17世紀末～18世紀前半。福建系。	トレンチ7 I層
	98	染付	碗	底部	—	5.0	— 畠付は露胎。17世紀前半。景德鎮窯系。	トレンチ4 I層
	99	染付	碗	底部	—	4.6	— 畠付は露胎。15世紀後半～16世紀初頭。景德鎮窯系。	トレンチ1 I層
第29図 図版70	100	染付	碗か鉢	底部	—	6.4	— 畠付は露胎。熱を受けている。17世紀前半～中頃。景德鎮窯系。	トレンチ3 I層
	101	染付	小碗	口縁部	—	—	— 口禿。18世紀。徳化窯系。	トレンチ7 I層
	102	染付	碗	口縁部	—	—	— 16世紀前半～中頃。景德鎮窯系。	トレンチ3 I層
	103	染付	小杯	底部	—	2.8	— 畠付は露胎。17世紀前半。景德鎮窯系。	トレンチ3 I層
	104	本土産 染付	皿	口縁部	14.0	—	— 18世紀末～19世紀。肥前系。	トレンチ5 I層
第30図 図版70	105	染付	皿	底部	—	11.0	— 畠付は露胎。18世紀。福建系。	トレンチ1 I層
	106	本土産 染付	火入れ	口縁部	9.6	—	— 17世紀後半～18世紀。肥前系。	トレンチ7 I層
	107	染付	レング	口縁～ 底部	—	—	— 熱を受けている。19世紀前半～中頃。福建系。	トレンチ7 I層
	108	色絵	皿	底部	—	3.2	— 型押し成形で口禿。18世紀後半から19世紀前半。徳化窯系か福建系。	トレンチ7 I層
	109	翡翠釉	小皿	口縁部	—	—	— 16世紀。景德鎮窯系。	トレンチ7 I層
	110	中国産陶器	蓋	—	—	—	— 1.6 茶器の蓋。18～19世紀。宜興窯。	トレンチ1 I層
	111	中国産 褐釉磁器	器種不明	底部	—	5.5	— 畠付は露胎。	トレンチ7 I層
	112	褐釉染付	小碗	底部	—	3.4	— 17世紀末～18世紀前半。景德鎮窯系。	トレンチ7 I層

第8表 摺乱層出土遺物観察一覧 b

挿図番号 図版番号	種類	器種	部位	口径・ 長さ	底径・ 幅	器高・ 厚さ	所 見	出土地
第30図 図版70	113	本土産 白磁	皿	底部	—	4.7	—	見込みは蛇の目釉剥ぎ。17世紀後半。 肥前波佐見窯。
	114	本土産 染付	皿	底部	—	9.2	—	型打ち成形。稜花。18世紀第1四半期 ～19世紀初頭。
第30図 図版71	115	本土産 色絵	皿	底部	—	—	—	19世紀初頭～幕末。肥前系。
	116	本土産 色絵	皿	底部	—	8.0	—	18世紀後半。肥前有田窯。
	117	本土産 染付	瓶か甕	底部	—	9.0	—	畳付と内面は露胎。外面に蓮弁文。 18世紀前半～中頃。
	118	本土産 染付	蓋物	口縁部	—	—	—	段重の身(最下段)。18世紀前半～中 頃。肥前有田窯。
	119	本土産 磁器	碗	口縁～ 底部	10.6	6.6	6.9	畠付は露胎。軍用食器。銅版転写。 大正～昭和。
	120	本土産 陶器	袋物 (色絵)	胴部	—	—	—	19世紀。薩摩産か。
	121	本土産 陶器	鉢か	口縁部	—	—	—	17世紀。九州産か。
	122	本土産 陶器	碗	口縁～ 底部	9.2	4.0	4.7	見込みに足付ハマの痕。18世紀前半～ 中頃。関西系。
第31図 図版71	123	沖縄産 施釉陶器	碗	底部	—	6.8	—	灰釉碗。底部内外面は露胎。
第31図 図版72	124	沖縄産 施釉陶器	小碗	底部	—	3.8	—	見込みは蛇の目状に釉剥ぎで、重ね焼 きの跡がある。内面は白化粧。
	125	沖縄産 施釉陶器	碗	底部	—	6.1	—	見込みは蛇の目状に露胎。底部外面は 露胎。
	126	沖縄産 施釉陶器	碗	口縁～ 底部	12.2	6.0	6.0	見込みは蛇の目釉剥ぎ。内面は白化 粧。
	127	沖縄産 施釉陶器	碗	底部	—	5.4	—	見込みは蛇の目釉剥ぎ。内外面とも白 化粧。
	128	沖縄産 施釉陶器	碗	口縁部	—	—	—	内外面とも白化粧で、外面に赤絵。
	129	沖縄産 施釉陶器	碗	底部	—	6.2	—	見込みに重ね焼きの跡。
	130	沖縄産 施釉陶器	碗	底部	—	6.7	—	内面は白化粧。見込みは蛇の目釉剥ぎ で、重ね焼きの跡。
	131	沖縄産 施釉陶器	小碗	口縁～ 底部	8.2	3.6	4.5	内外面とも白化粧。
第31図 図版73	132	沖縄産 施釉陶器	小碗	底部	—	3.6	—	畠付は露胎。
	133	沖縄産 施釉陶器	小碗	底部	—	4.8	—	見込みは蛇の目釉剥ぎで、重ね焼きの 跡。
	134	沖縄産 施釉陶器	小碗	口縁部	8.8	—	—	素地は黄灰色。
	135	沖縄産 施釉陶器	小杯	底部	—	2.4	—	底部外面は露胎。
	136	沖縄産 施釉陶器	皿	口縁～ 底部	13.5	5.9	3.7	底部内外面は露胎。

第8表 摂乱層出土遺物観察一覧 c

挿図番号 図版番号	種類	器種	部位	口径・ 長さ	底径・ 幅	器高・ 厚さ	所 見	出土地
第31図 図版73	137	沖縄産 施釉陶器	皿	口縁部	15.8	—	素地は灰色。	トレンチ7 I層
	138	沖縄産 施釉陶器	鉢	底部	—	7.0	—	胴部外面に重ね焼きの際に付着し た、別の鉢の胴部片が付着。
	139	沖縄産 施釉陶器	鉢	口縁部	9.2	—	—	外面に飛び鉢文。
	140	沖縄産 施釉陶器	鉢	底部	—	9.0	—	内外面とも白化粧で、見込は蛇の目 釉剥ぎ。
	141	沖縄産 施釉陶器	鉢	口縁部	25.0	—	—	内面に白色の文様あり。
第32図 図版73	142	沖縄産 施釉陶器	鉢	底部	—	—	—	内面に貫入が多い。
	143	沖縄産 施釉陶器	鍋	口縁部	—	—	—	口縁部内面は露胎。
第32図 図版74	144	沖縄産 施釉陶器	鍋	口縁部	—	—	—	口縁部内面は露胎。
	145	沖縄産 施釉陶器	瓶	口縁部	3.7	—	—	内面頸部～胴部は露胎。
	146	沖縄産 施釉陶器	瓶	底部	—	5.8	—	疊付と内面は露胎。
	147	沖縄産 施釉陶器	壺	口縁部	12.0	—	—	口縁部内面は露胎。
	148	沖縄産 施釉陶器	油壺	底部	—	5.0	—	高台周辺は露胎。
	149	沖縄産 施釉陶器	壺	底部	—	13.0	—	疊付と内面は露胎。
	150	沖縄産 施釉陶器	火取	底部	—	6.0	—	底部外面は露胎。
	151	沖縄産 施釉陶器	灯明具	底部	—	4.4	—	内外面とも白化粧。
	152	沖縄産 施釉陶器	火炉	口縁部	15.2	—	—	素地は灰白色。
	153	沖縄産 施釉陶器	蓋	—	—	—	疊付周辺は露胎。撮み径5.2cm。	トレンチ1 I層
第32図 図版75	154	沖縄産 施釉陶器	蓋	—	—	—	蛇の目釉剥ぎ。重ね焼きの跡。	トレンチ7 I層
	155	沖縄産 施釉陶器	蓋	—	—	—	撮み付近に穴が1個あけられている。	トレンチ7 I層
	156	沖縄産 施釉陶器	蓋	—	—	—	蛇の目状に露胎。	トレンチ7 I層
	157	沖縄産 無釉陶器	器種不明	取手	—	—	—	外面はナデ。
	158	沖縄産 施釉陶器	器種不明	底部	—	8.3	—	内外面とも黒色釉。
	159	沖縄産 施釉陶器	器種不明 (イスか)	底部	—	23.0	—	18世紀以降。
第33図 図版75	160	沖縄産 無釉陶器	灯明皿	口縁～ 底部	11.6	5.2	2.8	口縁部に煤が付着。
								トレンチ7 I層

第8表 摂乱層出土遺物観察一覧 d

挿図番号 図版番号	種類	器種	部位	口径・ 長さ	底径・ 幅	器高・ 厚さ	所 見	出土地	
第33図 図版75	161	沖縄産 無釉陶器	鉢	口縁部	25.4	—	外面に圈線。	トレンチ7 I層	
	162	沖縄産 無釉陶器	鉢	口縁部	—	—	口唇部に刻み目文様。	トレンチ1 I層	
	163	沖縄産 無釉陶器	鉢	口縁部	—	—	口唇部に2段の刻み目文様。	トレンチ7 I層	
	164	沖縄産 無釉陶器	水鉢	口縁部	19.4	—	内外面とも轆轤ナデ。	トレンチ5 I層	
第33図 図版76	165	沖縄産 無釉陶器	水鉢	口縁部	19.8	—	口縁部外面に波状文。	トレンチ5 I層	
	166	沖縄産 無釉陶器	擂り鉢	口縁部	—	—	擂り目の上端はナデ消されていない。	トレンチ5 I層	
	167	沖縄産 無釉陶器	擂り鉢	底部	—	8.8	—	底部外面はナデ・圧痕。	トレンチ1 I層
	168	沖縄産 無釉陶器	瓶	口縁部	6.0	—	—	内外面とも轆轤ナデ。	トレンチ7 I層
	169	沖縄産 無釉陶器	擂り鉢	底部	—	—	—	底部外面はナデ・圧痕。	トレンチ5 I層
	170	沖縄産 無釉陶器	火炉	底部	—	14.8	—	外面はナデ、内面は轆轤ナデ。	トレンチ7 I層
	171	沖縄産 無釉陶器	壺	口縁部	14.8	—	—	大形の壺。	トレンチ6 I層
第33図 図版77	172	沖縄産 無釉陶器	壺	口縁部	9.0	—	—	小形の壺。	トレンチ5 I層
	173	沖縄産 無釉陶器	壺	口縁部	10.4	—	—	小形の壺。	トレンチ7 I層
	174	沖縄産 無釉陶器	壺	口縁部	12.0	—	—	小形の壺。	トレンチ7 I層
	175	沖縄産 無釉陶器	甕	口縁部	—	—	—	口縁部外面に円形の貼り付け文。	トレンチ7 I層
第34図 図版77	176	陶質土器	鉢	口縁部	—	—	—	外面に波状文。	トレンチ7 I層
	177	陶質土器	鉢	底部	—	8.0	—	底部外面に圧痕。	トレンチ7 I層
	178	陶質土器	鍋	口縁部	—	—	—	内外面とも轆轤ナデ。	トレンチ1 I層
	179	陶質土器	火炉	底部	—	9.0	—	底部外面に白線がめぐる。	トレンチ7 I層
	180	陶質土器	火炉	底部	—	8.3	—	底部外面に白線がめぐる。	トレンチ5 I層
第34図 図版78	181	陶質土器	土瓶	注口	—	—	—	外面はナデ、工具痕。	トレンチ5 I層
	182	陶質土器	土瓶	耳	—	—	—	内面に沈線状の調整痕が残る。	トレンチ7 I層
	183	陶質土器	フライパン状 製品	口縁部	15.0	—	—	内外面とも轆轤ナデ。	トレンチ7 I層
	184	陶質土器	蓋	—	—	—	—	内外面とも轆轤ナデ。	トレンチ7 I層

第8表 搅乱層出土遺物観察一覧 e

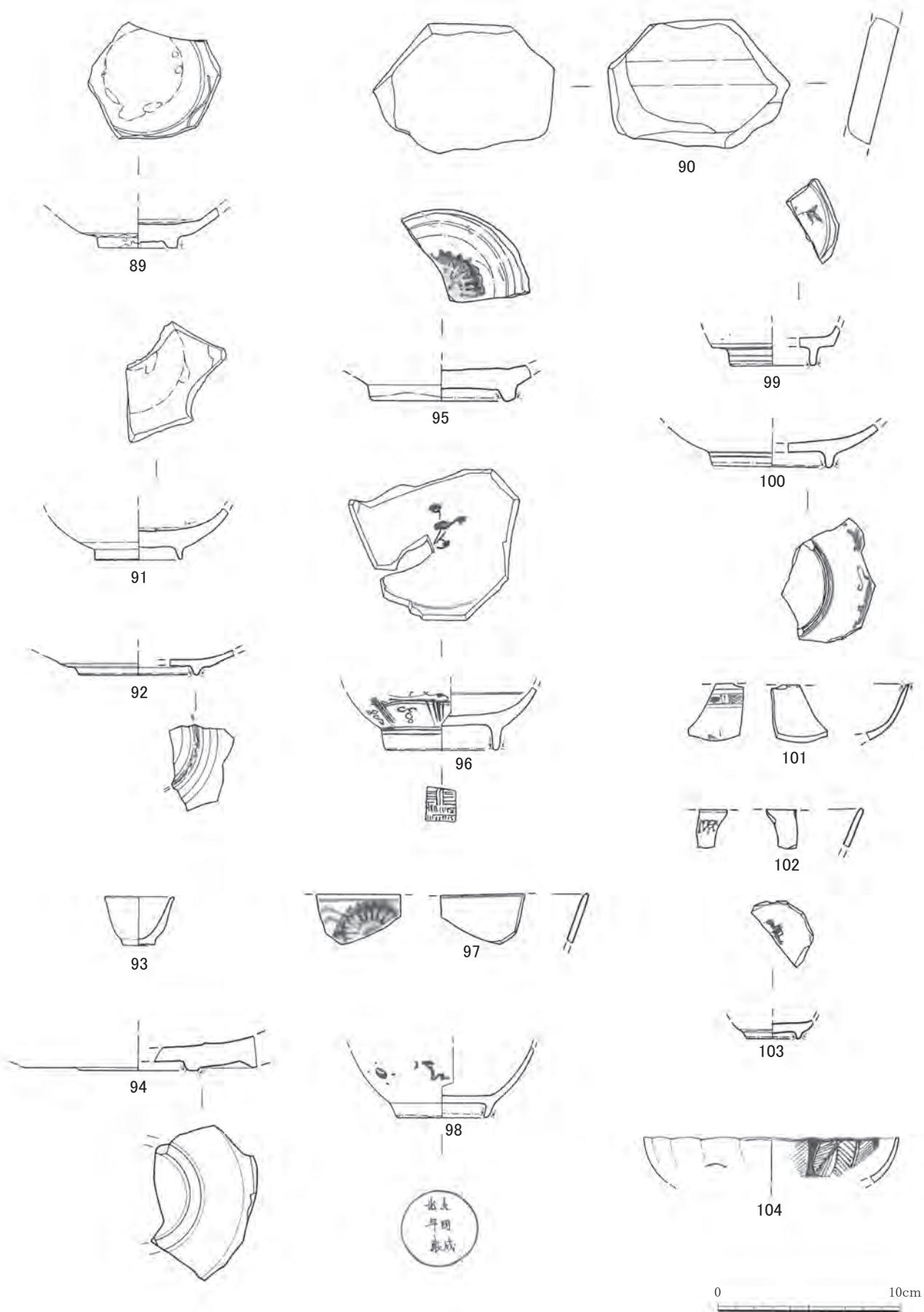
挿図番号 図版番号	種類	器種	部位	口径・ 長さ	底径・ 幅	器高・ 厚さ	所 見	出土地	
第34図 図版78	185	陶質土器	蓋	—	—	—	内外面とも轆轤ナデ。	トレンチ7 I層	
	186	煙管	沖縄産 無釉陶器	雁首	—	—	外面には面取りしたような調整痕が残る。火皿径1.7cm、羅宇接続部径1.7cm、雁首長3.2cm。重量7.2g。	トレンチ5 I層	
	187	煙管	沖縄産 無釉陶器	雁首	—	—	外面には面取りしたような調整痕が残る。火皿径1.5cm、羅宇接続部径1.4cm、雁首長3.2cm。重量6.9g。	トレンチ5 I層	
	188	煙管	沖縄産 施釉陶器	雁首	—	—	羅宇接続部は露胎。接続部径1.3cm。重量6.8g	トレンチ5 I層	
	189	円盤状 製品	陶質土器	—	—	—	縦1.9cm、横1.9cm、厚さ0.5cm。重量2.3g。	トレンチ5 I層	
	190	円盤状 製品	染付	—	—	—	胴部を利用している。縦1.6cm、横1.6cm、厚さ0.4cm。重量1.5g。	トレンチ7 I層	
	191	円盤状 製品	染付	—	—	—	口縁部を利用している。縦1.8cm、横1.9cm、厚さ0.3cm。重量1.6g。	トレンチ5 I層	
	192	円盤状 製品	沖縄産 無釉陶器	—	—	—	擂り鉢を転用。縦4.7cm、横4.7cm、厚さ1.0cm。重量28.8g。	トレンチ7 I層	
	193	ガラス 製品	瓶	口縁～ 底部	1.6	縦3.8 横1.6	5.9	中に赤色のインクが残っている。重量90.2g。	トレンチ6 I層
	194	本土産 陶器	蓋物	口縁～ 底部	5.4	6.2	3.8	「MENUMA POMADE」の文字。	トレンチ6 I層
	195	ガラス 製品	瓶	口縁～ 底部	4.8	5.4	4.2	底部外面に「日靴塗○」のエンボス。重量75.8g。	トレンチ5 I層
	196	ガラス 製品	—	口縁～ 底部	—	2.0	4.7	蓋をされているが、内容物は無い。重量19.4g。	トレンチ1 I層
	197	ガラス 製品	—	口縁～ 底部	—	—	—	重量9.4g。	トレンチ1 I層
第35図 図版79	198	ガラス 製品	—	—	—	—	底部外面にエンボス。重量94.5g。	トレンチ7 I層	
	199	ガラス 製品	—	—	—	—	13.0 底部外面にエンボス。重量179.8g。	トレンチ1 I層	
	200	ガラス 製品	—	—	3.9	5.0	14.5 底部外面にエンボス。重量246.1g。	トレンチ1 I層	
	201	ガラス 製品	瓶	—	—	—	胴部・底部外面にエンボス。重量308.1g。	トレンチ3 I層	
	202	碍子	—	—	—	—	8.1 近代。日本産。重量246.4g。	トレンチ2 I層	
	203	碍子	—	—	—	—	6.4 重量248.6g。	トレンチ5 I層	
	204	石製品	碁石	—	—	—	縦2.3cm、厚さ0.4cm。重量3.5g。	トレンチ1 I層	
	205	石製品	碁石	—	—	—	縦2.2cm、横2.2cm、厚さ0.4cm。重量3.8g。	トレンチ2 I層	
	206	石製品	硯	—	—	—	「○章」の線刻がある。重量27.3g。	トレンチ5 I層	
	207	石器	石斧	—	7.6	4.4	2.0 表面は滑らかに加工されているが、刃部は鋭さが無い。重量100.3g。	トレンチ5 I層	

第8表 摂乱層出土遺物観察一覧

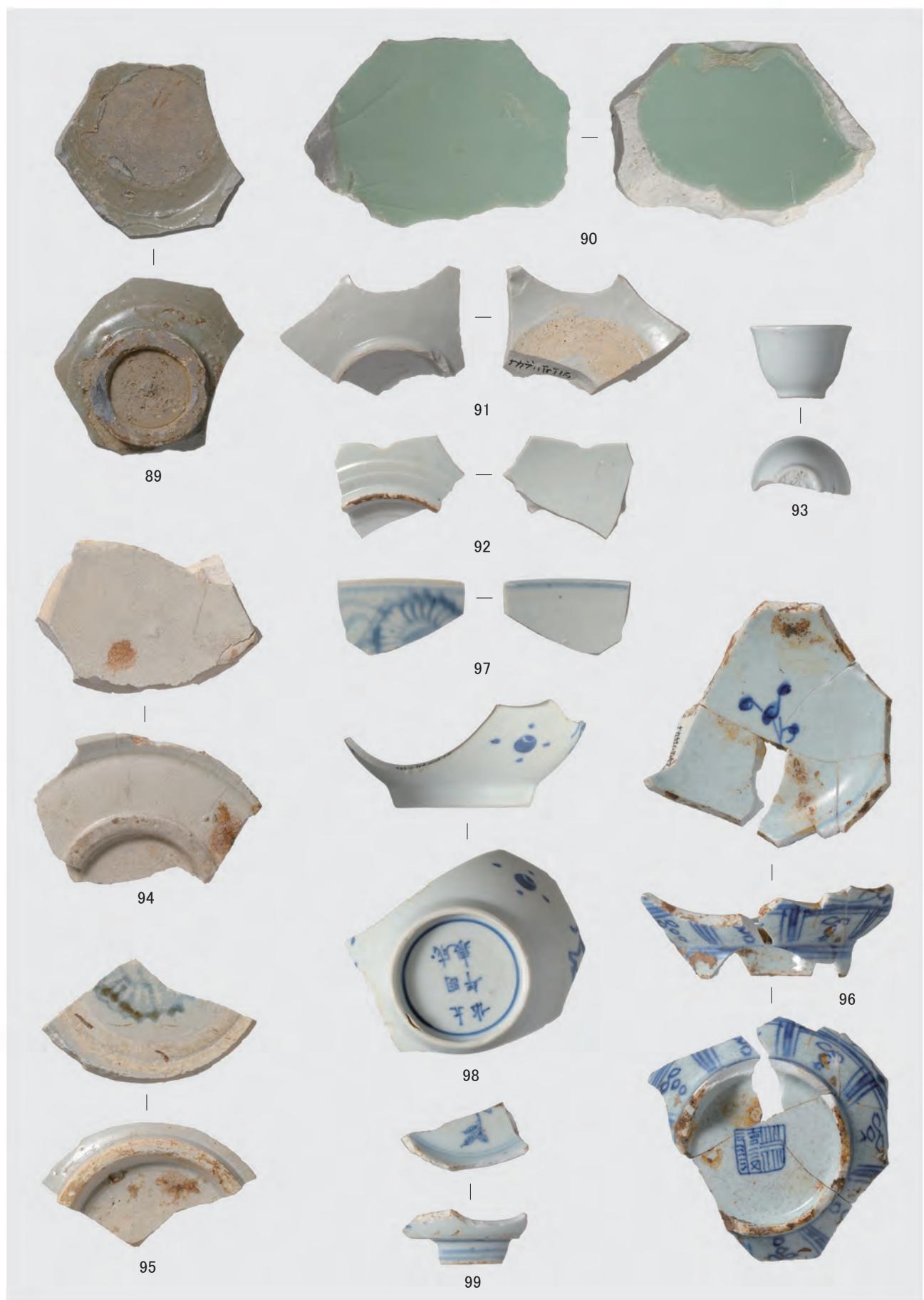
挿図番号 図版番号	種類	器種	部位	口径・ 長さ	底径・ 幅	器高・ 厚さ	所見	出土地	
第35図 図版80	208	青銅製品	匙	—	20.7	—	—	重量59.8g。	トレンチ5 I層
第36図 図版80	209	青銅製品	—	—	—	—	重量10.5g。	トレンチ7 I層	
	210	青銅製品	器種不明	—	—	—	鉢が1本残っている。重量15.0g。	トレンチ6 I層	
	211	青銅製品	器種不明	—	—	—	重量18.3g。	トレンチ6 I層	
	212	青銅製品	—	—	—	—	重量113.3g。	トレンチ5 I層	
	213	鉄製品	器種不明	—	—	—	全体に錆びていて。長さ7.5cm、 高さ7.3cm。重量1043.3g。	トレンチ3 I層	
	214	青銅製品	釘	—	6.3	—	—	重量8.5g。	トレンチ1 I層
	215	青銅製品	釘	—	—	—	頭部を欠損。重量1.3g。	トレンチ7 I層	
	216	青銅製品	釘	—	3.7	—	—	重量2.8g。	トレンチ1 I層
	217	鉄製品	角釘	—	6.1	—	—	重量5.4g。	トレンチ3 I層
	218	鉄製品	器種不明	—	7.4	—	—	重量12.1g。	トレンチ1 I層
	219	青銅製品	弾丸	—	6.1	1.3	—	付着物に覆われている。重量38.7g。	トレンチ2 I層
	220	青銅製品	弾丸	—	3.5	0.8	—	重量13.0g。	トレンチ7 I層
	221	青銅製品	器種不明	—	1.1	—	—	鉢か。重量1.7g。	トレンチ6 I層
	222	アルミ 製品	ボタン	—	1.7	—	—	重量1.3g。	トレンチ1 I層
第36図 図版81	223	青銅製品	鍵	—	—	—	—	重量4.8g。	トレンチ1 I層
	224	貝製品	ボタン	—	1.9	—	—	重量0.7g。	トレンチ1 I層
	225	焼土	—	—	—	—	沈線が並行して走る圧痕がある。重量 9.0g。	トレンチ1 I層	
第37図 図版81	226	焼土	—	—	—	—	重量95.6g。	トレンチ1 I層	
	227	鉄製品	鉄滓	—	—	—	碗形滓か。重量86.2g。	トレンチ5 I層	
	228	錢貨	無文錢	—	—	—	縦2.0cm、厚さ0.1cm。重量1.2g。	トレンチ7 I層	
第37図 図版81	229	錢貨	5セント	—	—	—	縦2.1cm、厚さ0.2cm。重量4.8g。	トレンチ7 I層	
	230	錢貨	—	—	—	—	表面が一部剥離している。縦1.9cm、 厚さ0.45cm。重量1.2g。	トレンチ1 I層	
	231	玉	—	—	—	—	水色。縦0.4cm、横0.4cm、高さ0.4cm。 重量0.07g。	トレンチ5 I層	

第8表 摹乱層出土遺物観察一覧 g

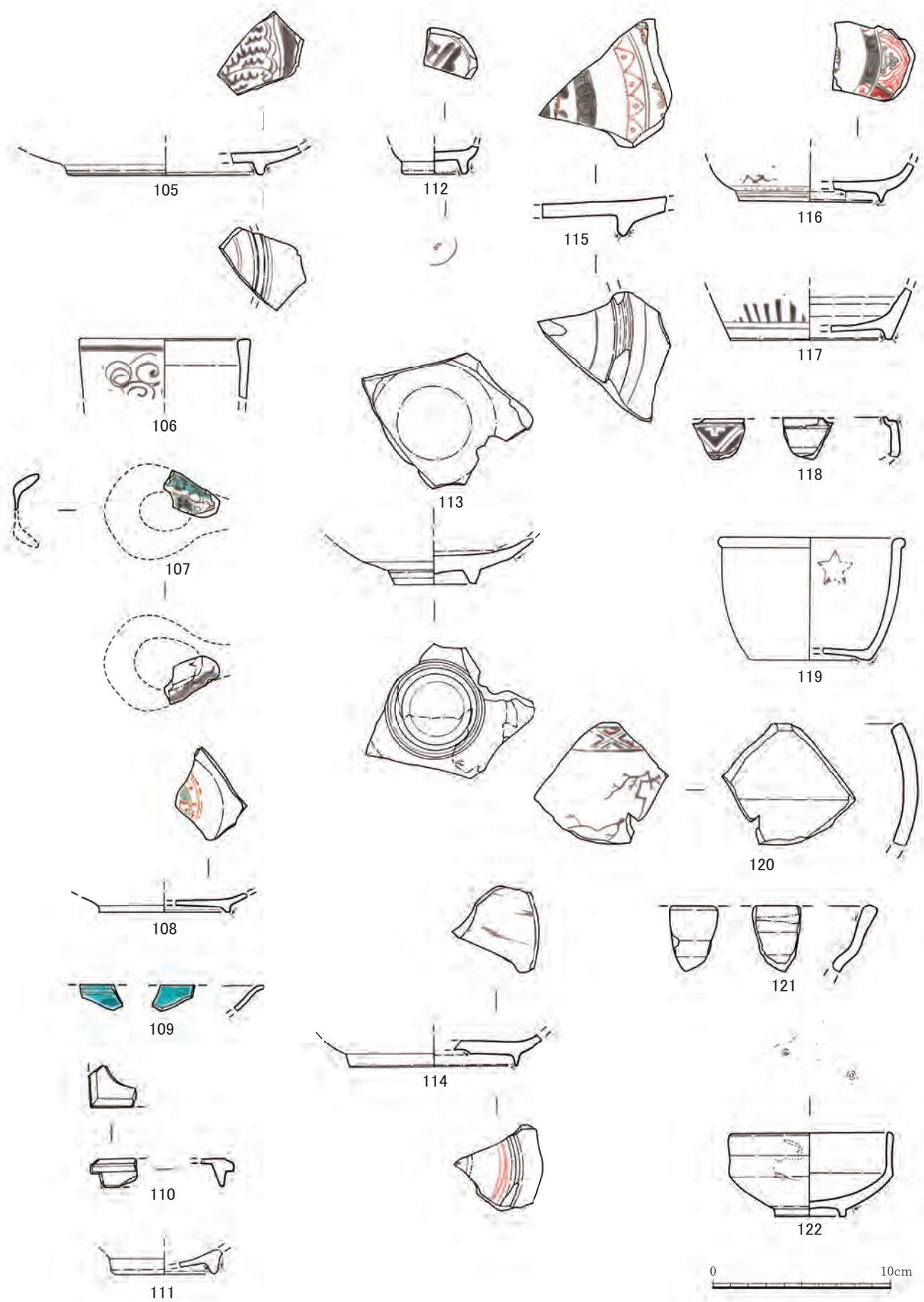
挿図番号 図版番号	種類	器種	部位	口径・ 長さ	底径・ 幅	器高・ 厚さ	所 見	出土地
第37図 図版81	232	玉	—	—	—	—	紺色。縦0.4cm、横0.5cm、高さ0.35cm。重量0.1g。	トレンチ5 I層
	233	玉	—	—	—	—	水色。縦0.45cm、横0.5cm、高さ0.4cm。重量0.1g。	トレンチ7 I層
	234	玉	—	—	—	—	水色。縦0.5cm、横0.5cm、高さ0.4cm。重量0.11g。	トレンチ5 I層
	235	玉	—	—	—	—	黄色。縦0.45cm、横0.5cm、高さ0.35cm。重量0.14g。	トレンチ6 I層
	236	玉	—	—	—	—	濃い水色。縦0.45cm、横0.45cm、高さ0.3cm。重量0.12g。	トレンチ1 I層
	237	瓦	明朝系 軒平瓦 赤色	—	—	—	凹面は布目。	トレンチ6 I層
	238	瓦	明朝系 軒平瓦 赤色	—	—	—	瓦頭幅20cm。	トレンチ6 I層
	239	瓦	明朝系 軒丸瓦 赤色	—	—	—	瓦頭径15.2cm。	トレンチ6 I層
第37図 図版82	240	瓦	明朝系 軒丸瓦 赤色	—	—	—	瓦頭径15.5cm。	トレンチ6 I層
第38図 図版82	241	瓦	明朝系 軒丸瓦 灰色	—	—	—	瓦頭径15.0cm。	トレンチ6 I層
	242	瓦	明朝系 軒丸瓦 赤色	—	—	—	瓦頭径8.5cm。小形。	トレンチ6 I層
	243	瓦	明朝系 丸瓦 灰色	—	—	—	漆喰が付着している。釘穴にも漆喰がある。	トレンチ6 I層
第38図 図版83	244	瓦	明朝系 丸瓦 赤色	—	—	—	筒部外面に刻み目が1本ある。	トレンチ6 I層
第39図 図版83	245	瓦	明朝系 丸瓦 赤色	—	—	—	玉縁部外面に刻み目が2本ある。	トレンチ6 I層
	246	瓦	明朝系 丸瓦 灰色	—	—	—	玉縁部外面に刻み目が3本ある。	トレンチ6 I層
	247	瓦	明朝系 丸瓦 赤色	—	31.0	—	1.3 凹面は布目、凸面はナデ。	トレンチ4 I層
第40図 図版84	248	瓦	明朝系 丸瓦 赤色	—	—	—	漆喰が付着している。	トレンチ4 I層
	249	墓誌	—	—	—	—	「墓」などの文字が刻まれている。重量524.8g。	トレンチ4 I層
	250	埠	灰色	—	—	—	正方形の埠を三角形に加工か。重量1320.8g。	トレンチ6 I層



第29図 搅乱層出土遺物 1



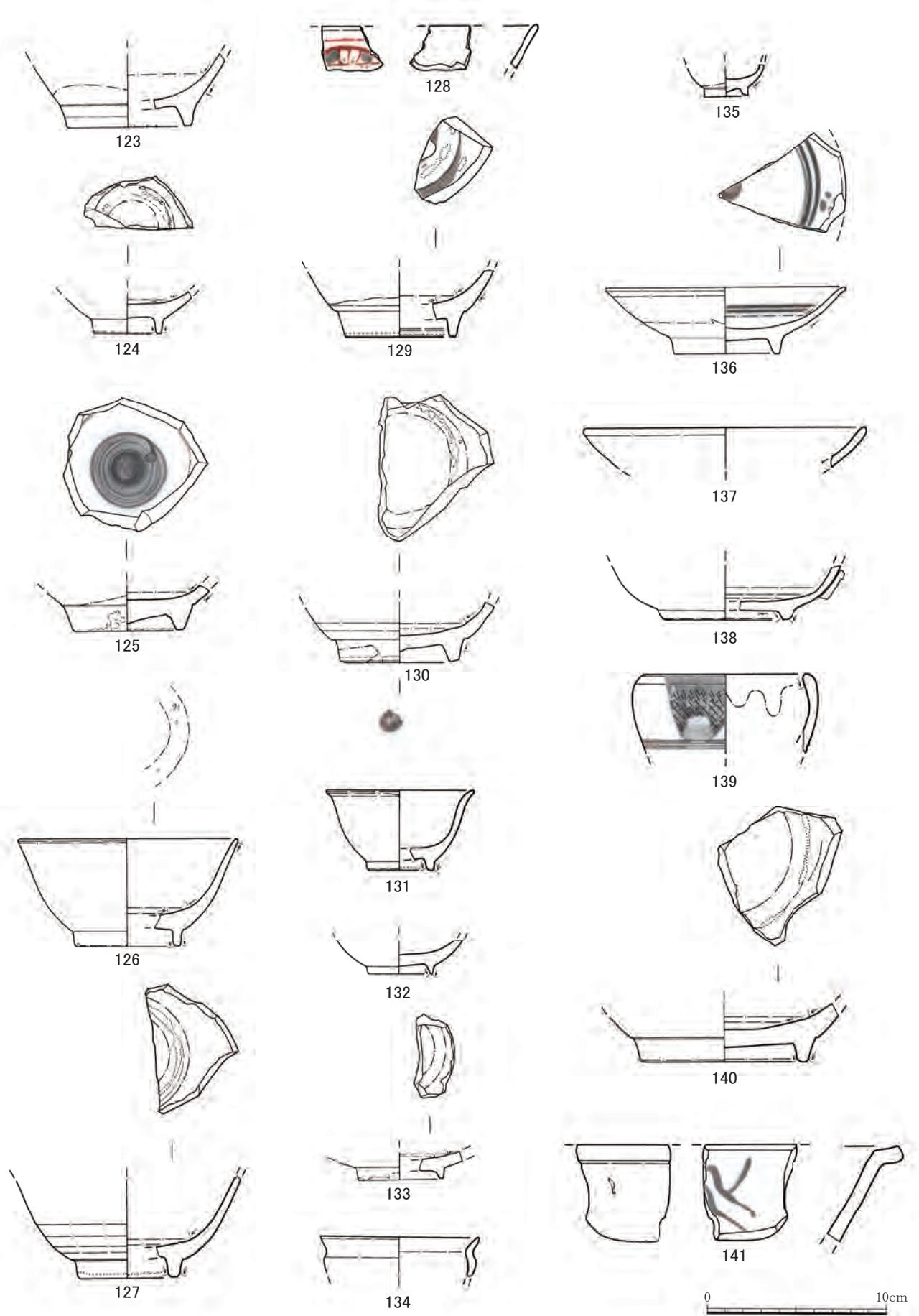
図版 69 搅乱層出土遺物 1



第30図 搅乱層出土遺物 2



図版 70 搅乱層出土遺物 2



第31図 搅乱層出土遺物 3



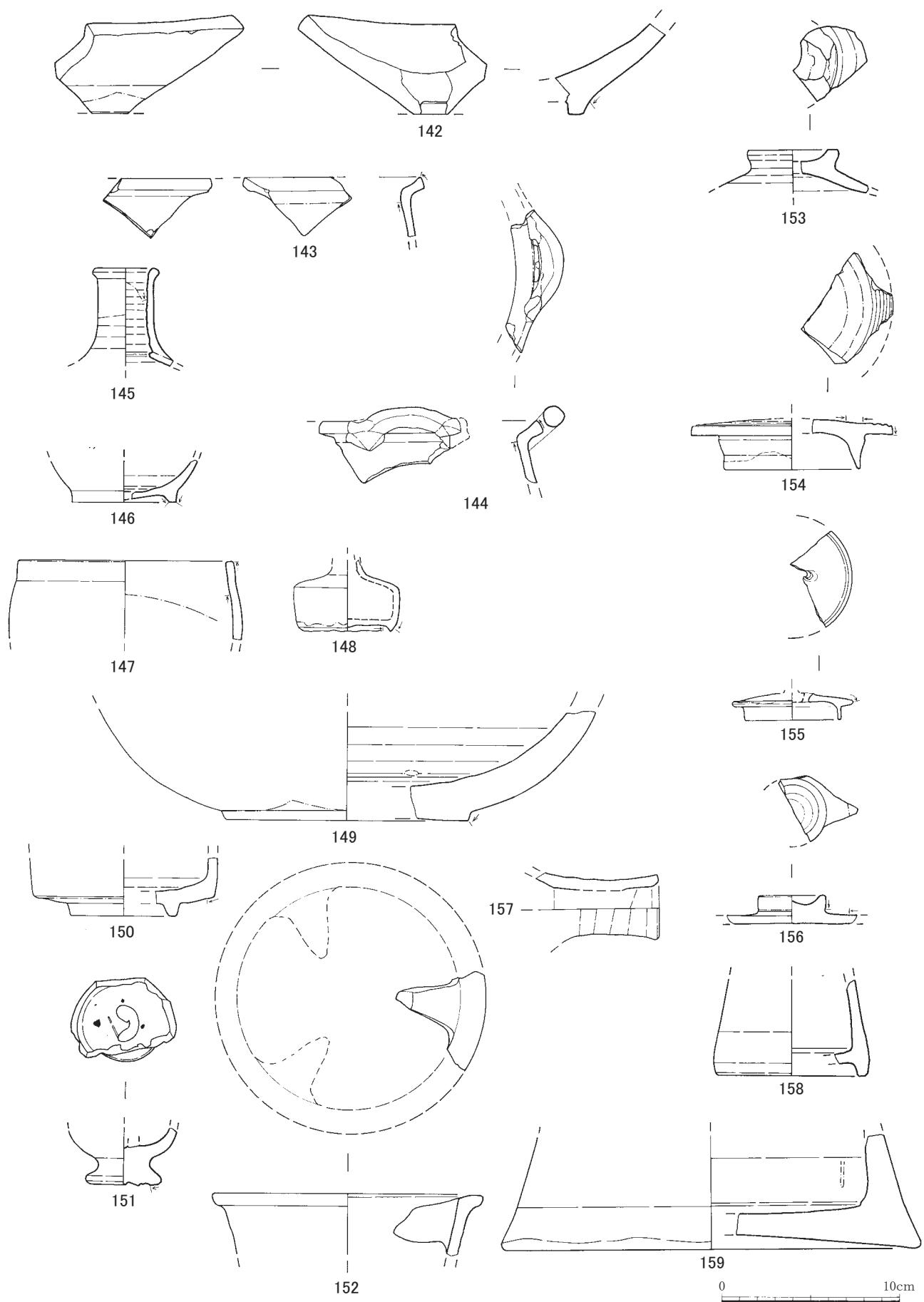
図版 71 搅乱層出土遺物 3



図版 72 搅乱層出土遺物 4



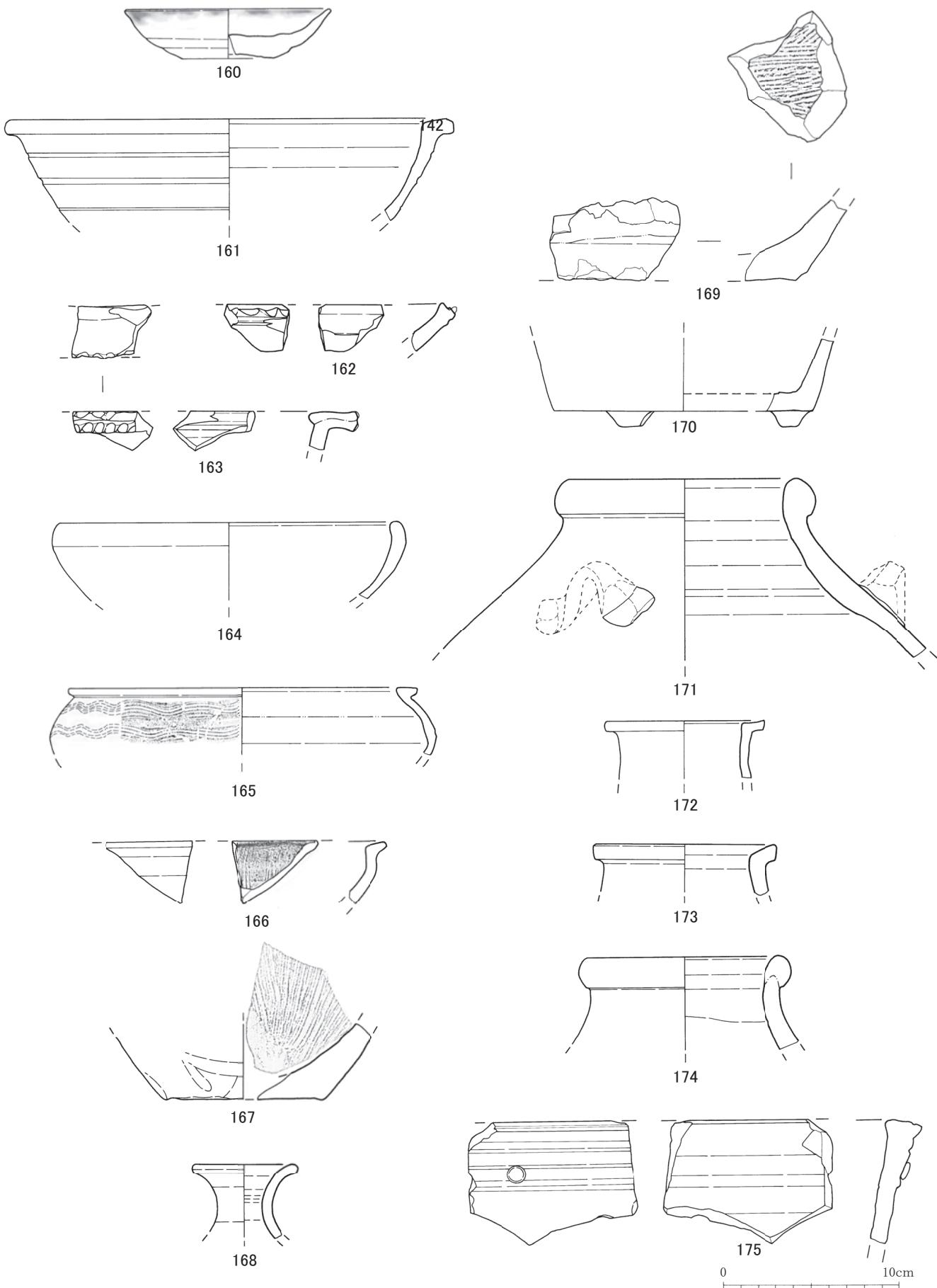
図版 73　攪乱層出土遺物 5



第32図 搅乱層出土遺物 4



図版 74 搅乱層出土遺物 6



第33図 搅乱層出土遺物 5



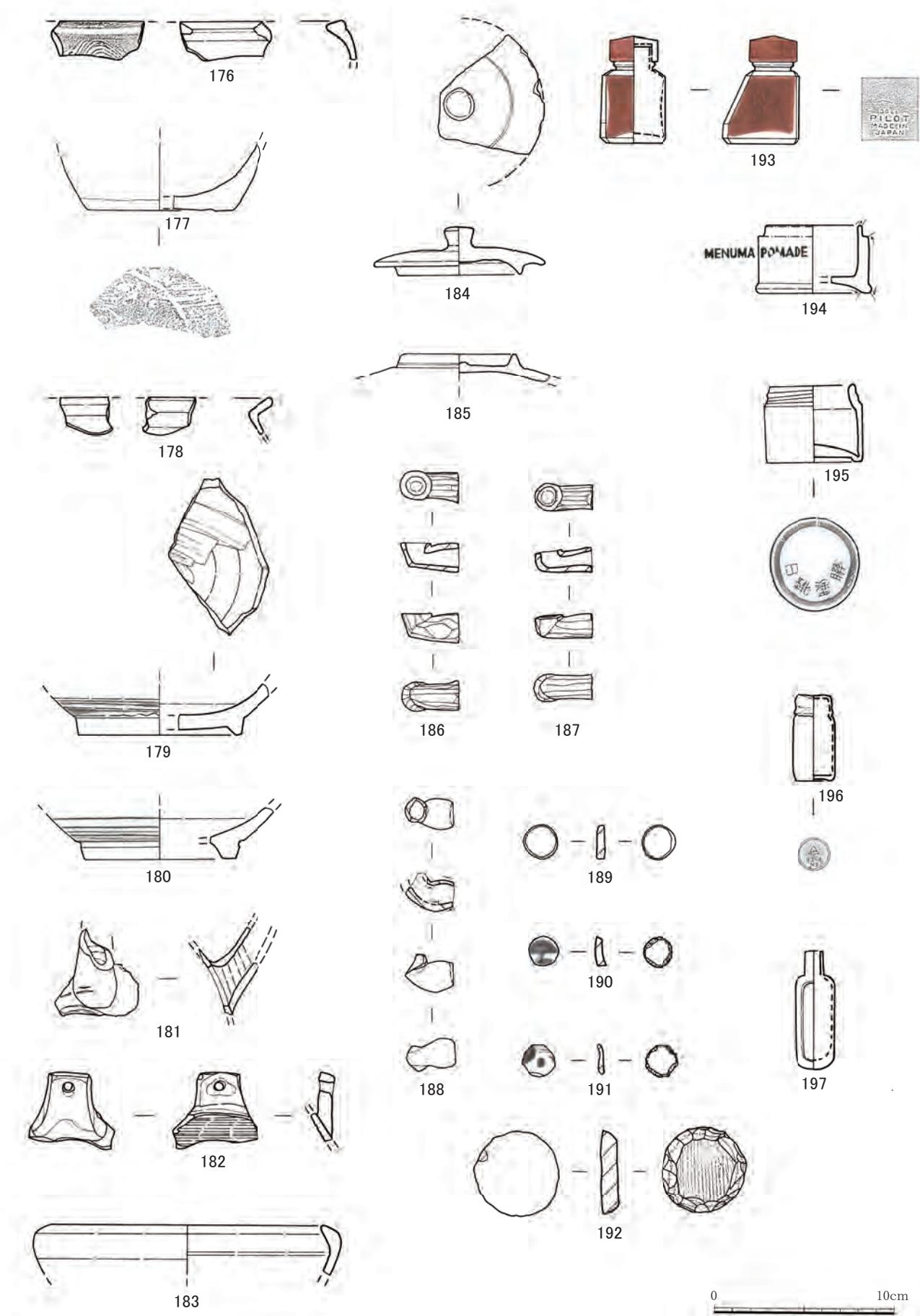
図版 75 搅乱層出土遺物 7



図版 76 搅乱層出土遺物 8



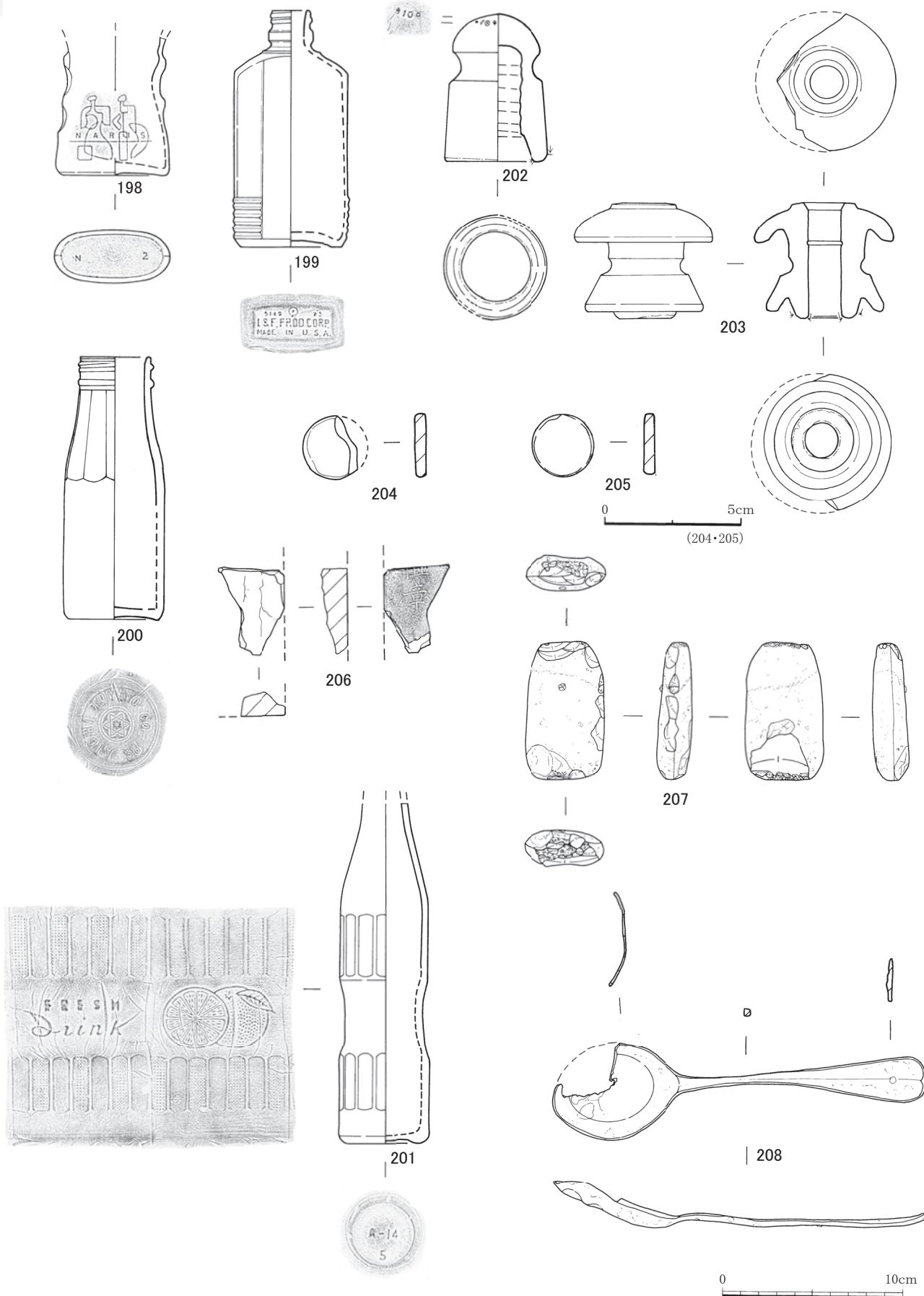
図版 77 搅乱層出土遺物 9



第34図 搅乱層出土遺物 6



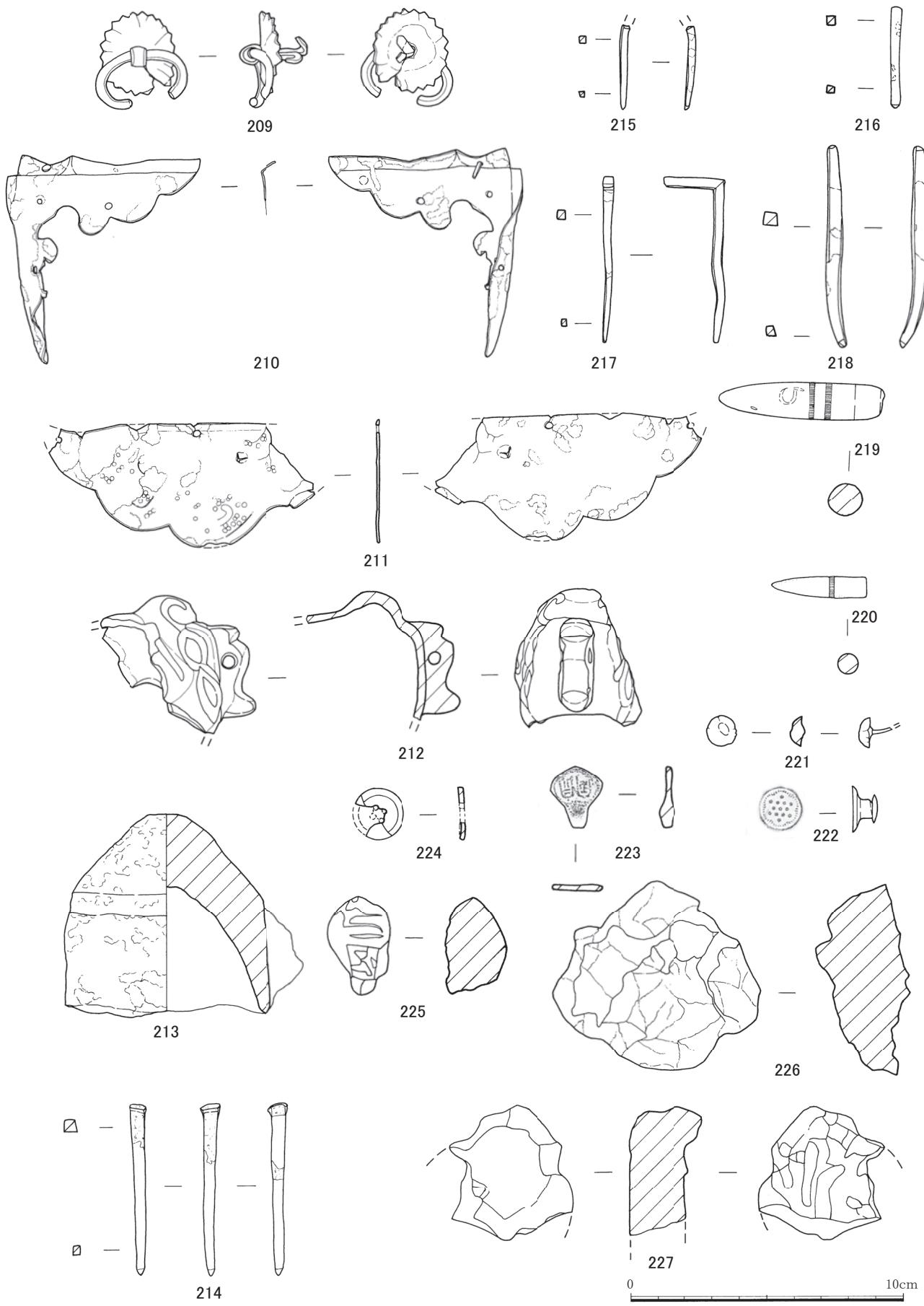
図版 78 搅乱層出土遺物 10



第35図 搅乱層出土遺物 7



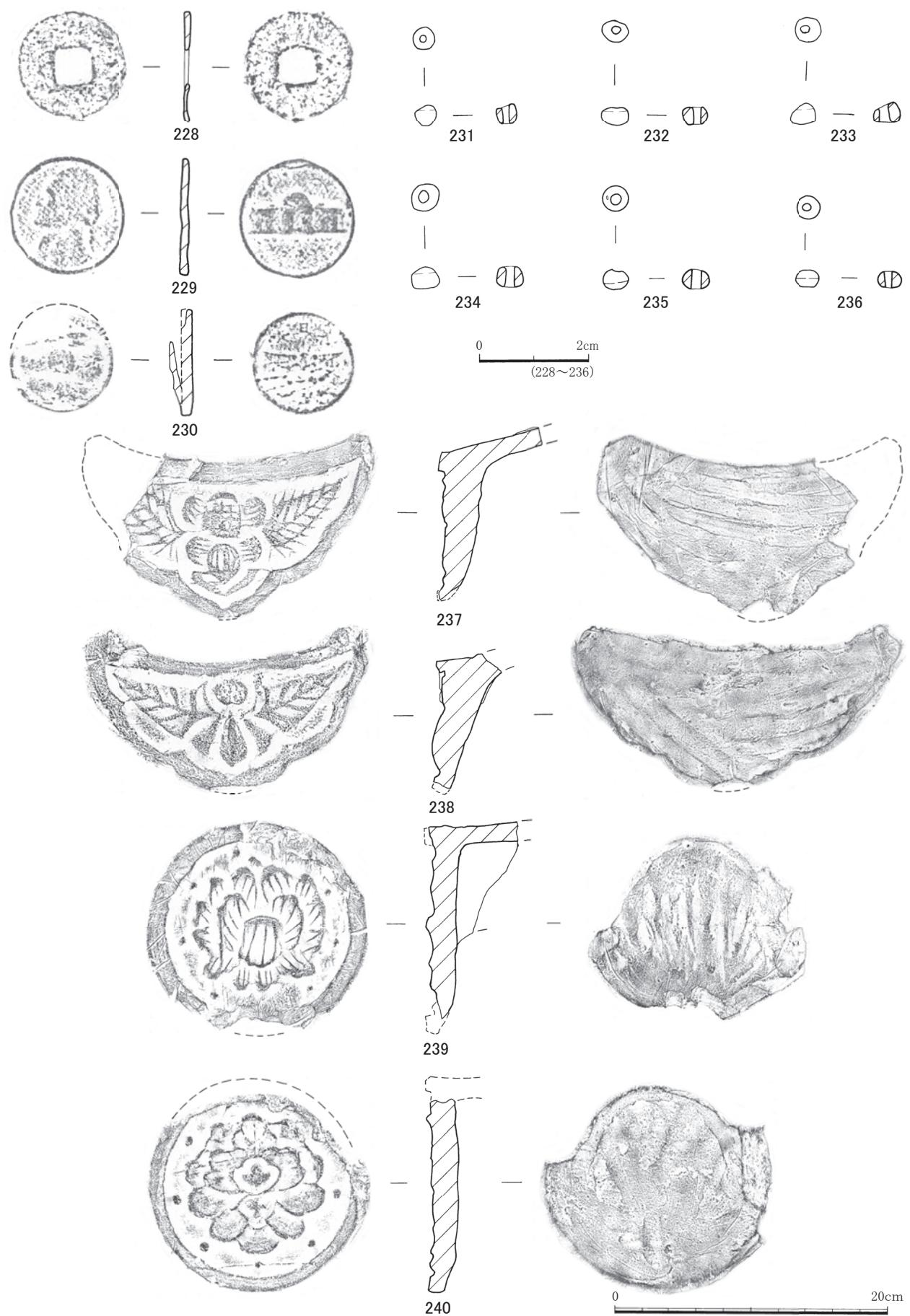
図版 79 搅乱層出土遺物 11



第36図 搅乱層出土遺物 8



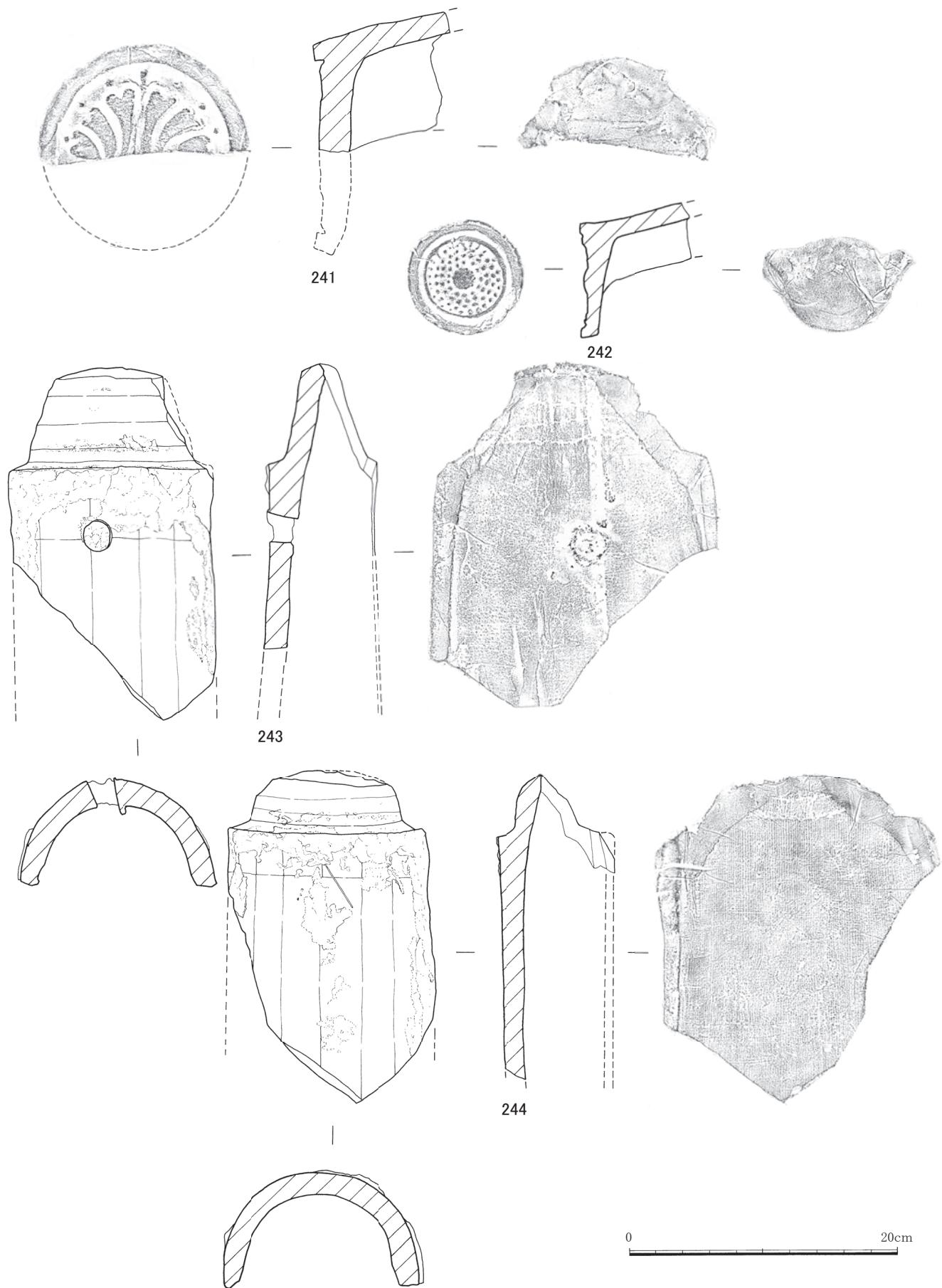
図版 80 搅乱層出土遺物 12



第37図 搅乱層出土遺物 9



図版 81 搅乱層出土遺物 13



第38図 搅乱層出土遺物10



240



241

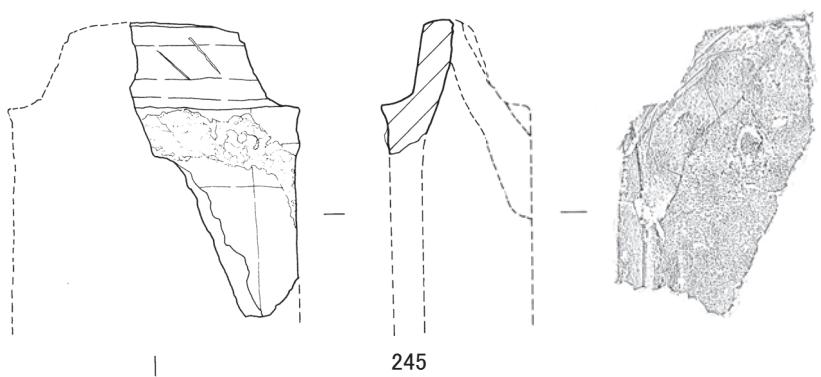


242

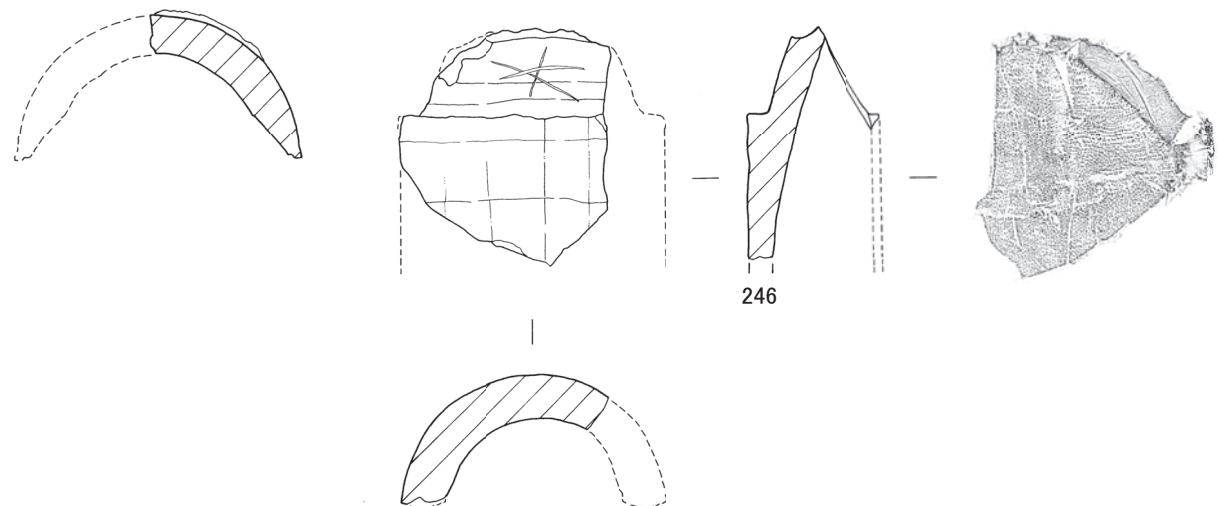


243

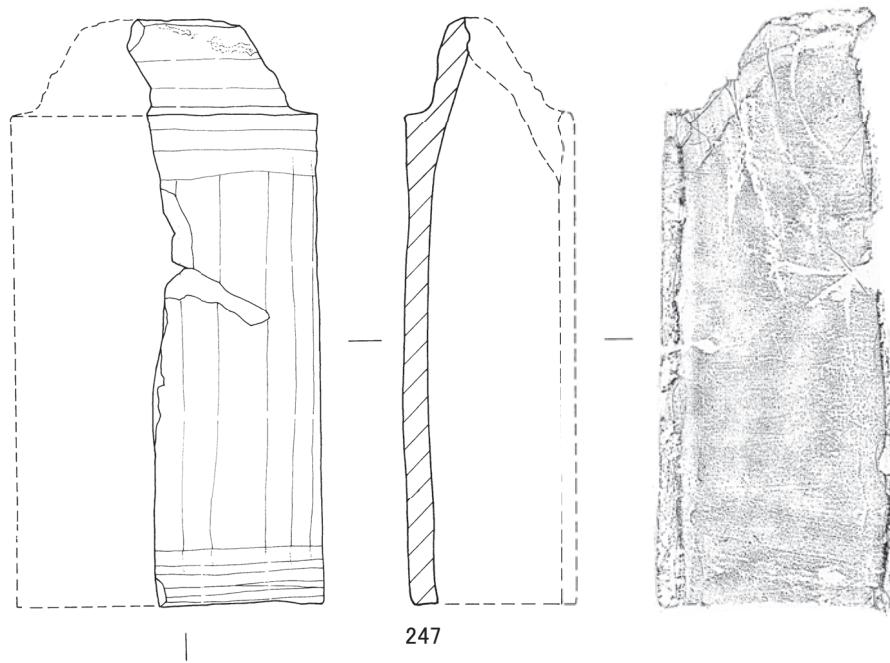
図版 82 搅乱層出土遺物 14



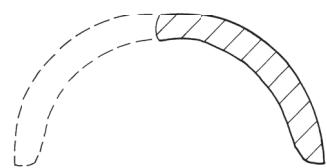
245



246



247



0 20cm

第39図 搅乱層出土遺物11



244



245

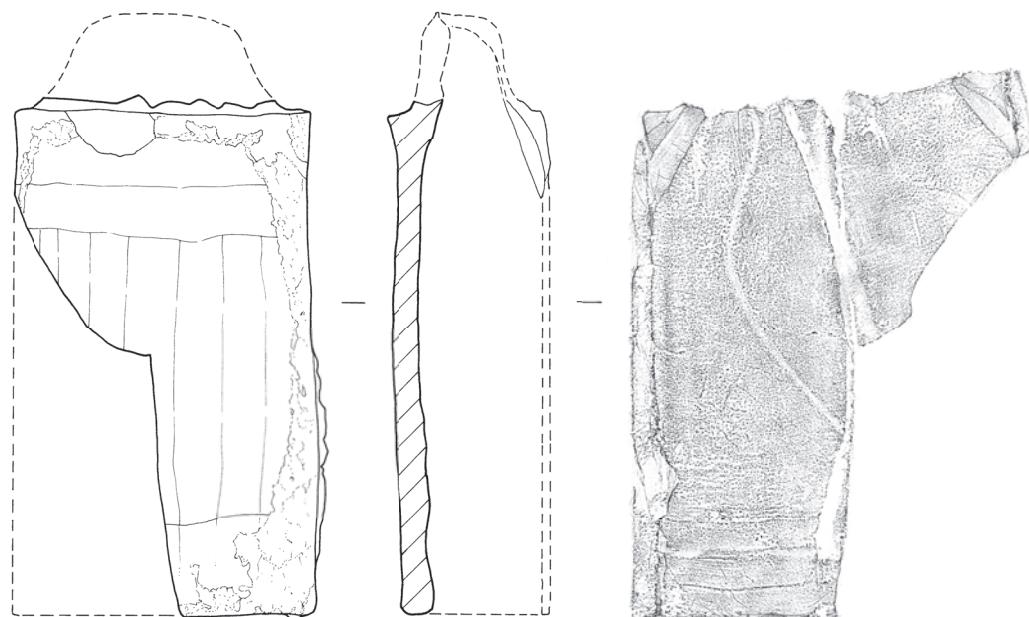


246

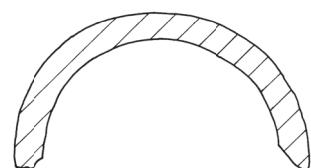


247

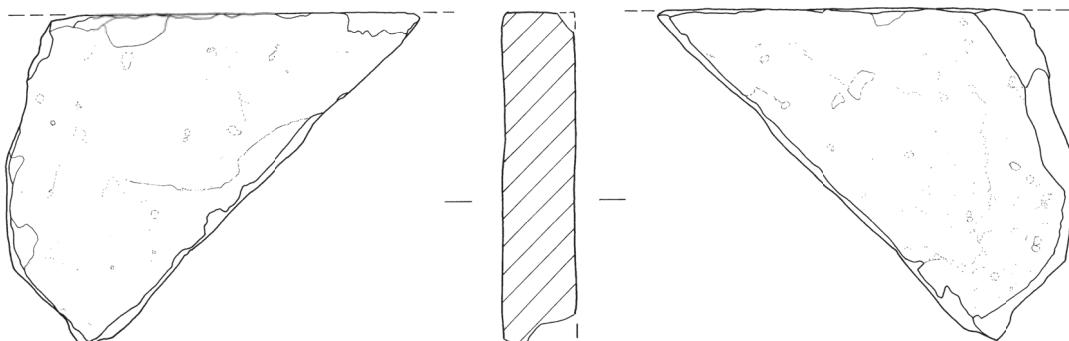
図版 83 搅乱層出土遺物 15



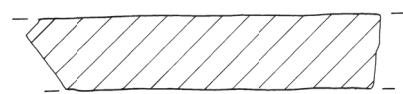
248



249



250



0 20cm

第40図 搅乱層出土遺物12



248



249



250

図版 84 搅乱層出土遺物 16

## 第10節 遺物の概観

### 1 陶磁器

中国産陶磁器では17世紀以降の染付が多い。タイ産陶磁器では褐釉陶器の壺が少量出土している。日本産陶磁器は18世紀以降の磁器が多い。

### 2 建築部材

瓦はほとんどが明朝系瓦であった。埠はわずかであった。

### 3 その他の人工品

墓誌と考えられる土製品が1点出土している。円盤状製品は97点と比較的多く出土した。先史時代の石斧が1点出土しており、おはじきやガラス瓶などの現代遺物も少量出土している。

### 4 自然遺物

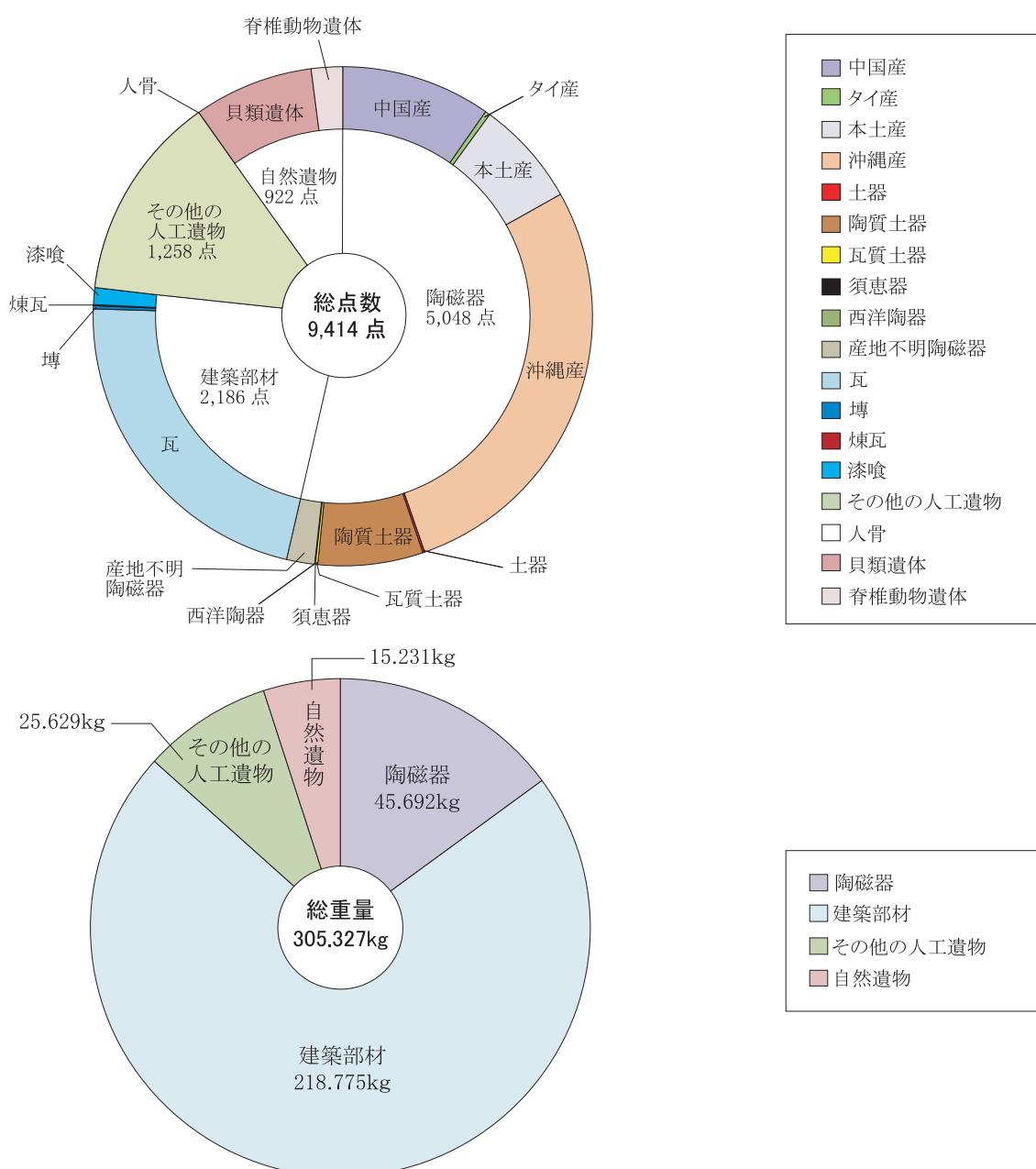
レンチ7北側の造成層から人の歯が1点出土している。

### <検出された動物遺体種名一覧>

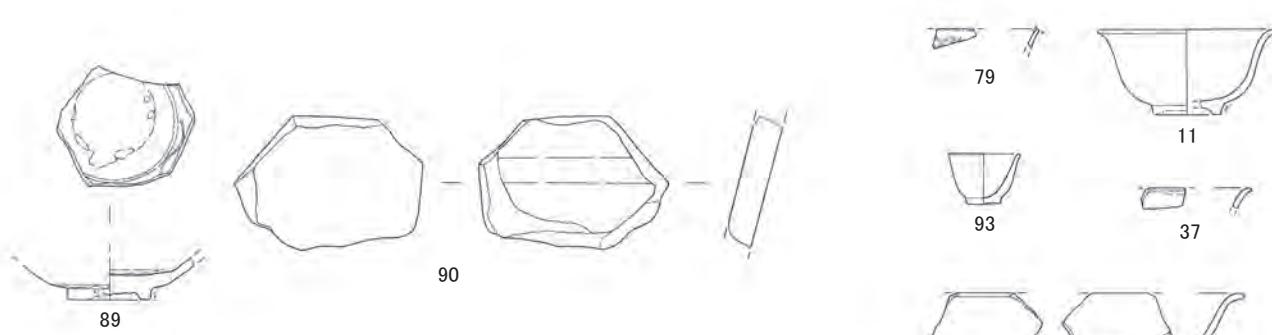
脊椎動物門 Phylum VERTEBRATA	キジ科 Family Phasianidae
軟骨魚綱 Class Chondrichthyes	ニワトリ <i>Gallus gallus var. domesticus</i>
メジロザメ目 Order Carcharhiniformes	科・属不明 Fam.et gen.indet
メジロザメ科 Family Carcharhinidae	哺乳綱 Class Mammalia
属・種不明 Gen.et sp.indet.	靈長目 Order Primates
硬骨魚綱 Class Osteichthyes	ヒト科 Family Hominidae
ダツ目 Order Beloniformes	ヒト <i>Home sapiens</i>
ダツ科 Family Belonidae	齧齒目 Order Rodentia
属・種不明 Gen.et sp.indet.	ネズミ科 Family Muridae
スズキ目 Order Perciformes	属・種不明 Gen.et sp.indet
ハタ科 Family Serranidae	食肉目 Order Carnivora
属・種不明 Gen.et sp.indet	イヌ科 Family Canidae
タイ科 Family Sparidae	イヌ <i>Canis familiaris</i>
クロダイ <i>Acanthopagrus schlegeli</i>	偶蹄目 Order Artiodactyla
ベラ科 Family Labridae	イノシシ科 Family Suidae
コブダイ <i>Semicossyphus reticulatus</i>	ブタ <i>Sus scrofa var. domesticus</i>
ブダイ科 Family Scaridae	ウシ科 Family Bovidae
ナンヨウブダイ <i>Chlorurus microrhinos</i>	ウシ <i>Bos Taurus</i>
鳥綱 Class Aves	ヤギ <i>Capra hircus</i>
キジ目 Order Galliformes	

＜貝の生息地の分類＞

外洋～内湾	水深	底質
I 外洋・サンゴ礁域	0 潮間帯上部 (Iではノッチ、IIIではマングローブ)	a 岩盤
II 内湾・転石地域	1 潮間帯中・下部	b 転石
III 河口干潟・マングローブ域	2 亜潮間帯上縁部 (Iではイノー) 3 干潮 (Iにのみ適用) 4 礁斜面およびその下部	c 岩礫底、砂泥底、砂底 d マングローブ植物上 e 淡水の流入する礫底
IV 淡水域	5 止水 6 流水	
V 陸行き	7 林内 8 林内・林縁部 9 林縁部 10 海浜域	
VI その他	11 打ち上げ物 12 化石	



第41図 出土遺物点数・重量の割合

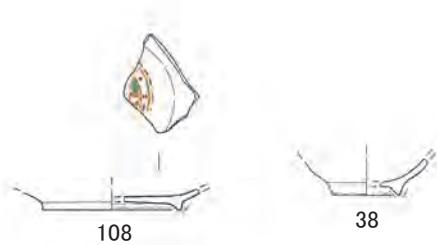


第42図 青磁

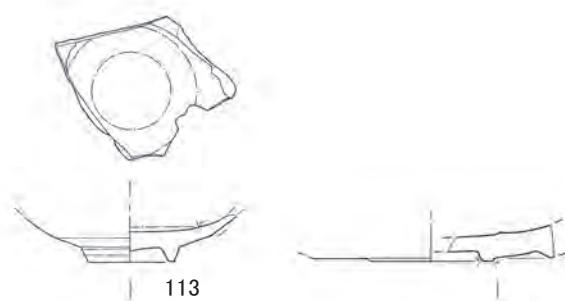
第43図 白磁



第44図 染付



第45図 色絵



第46図 翡翠釉



第47図 褐釉染付

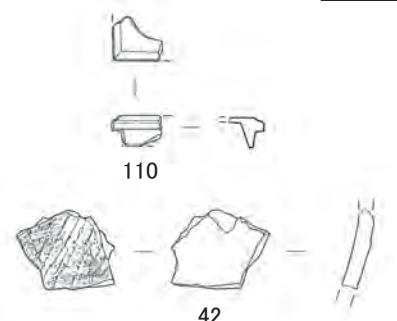


第48図 中国産褐釉磁器

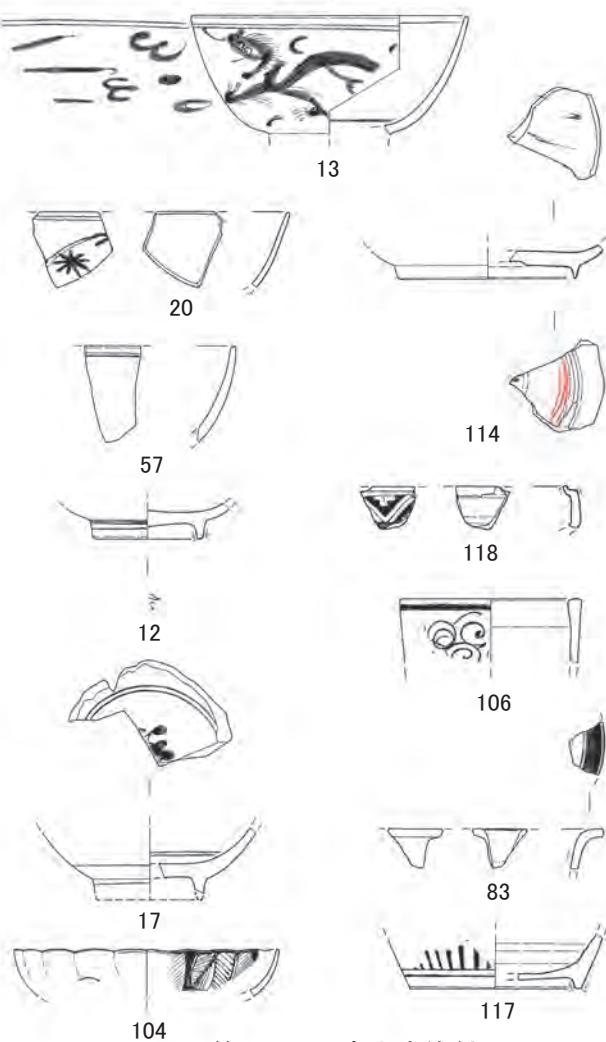


第49図 中国産陶器

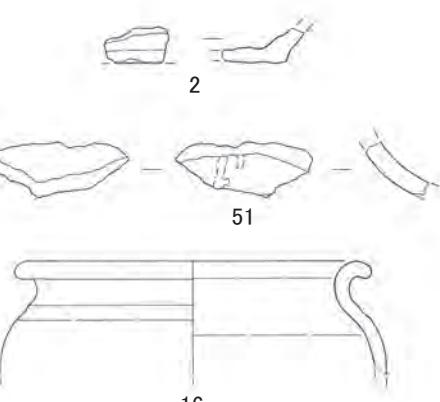
0 10cm



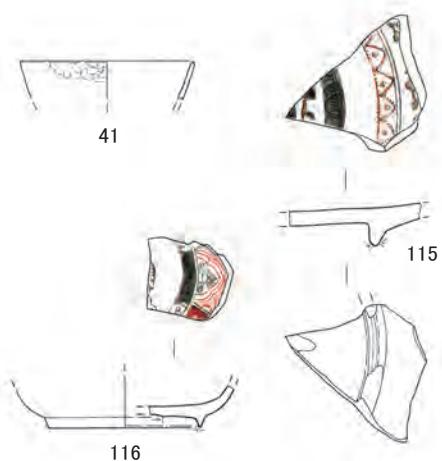
第50図 タイ産褐釉陶器



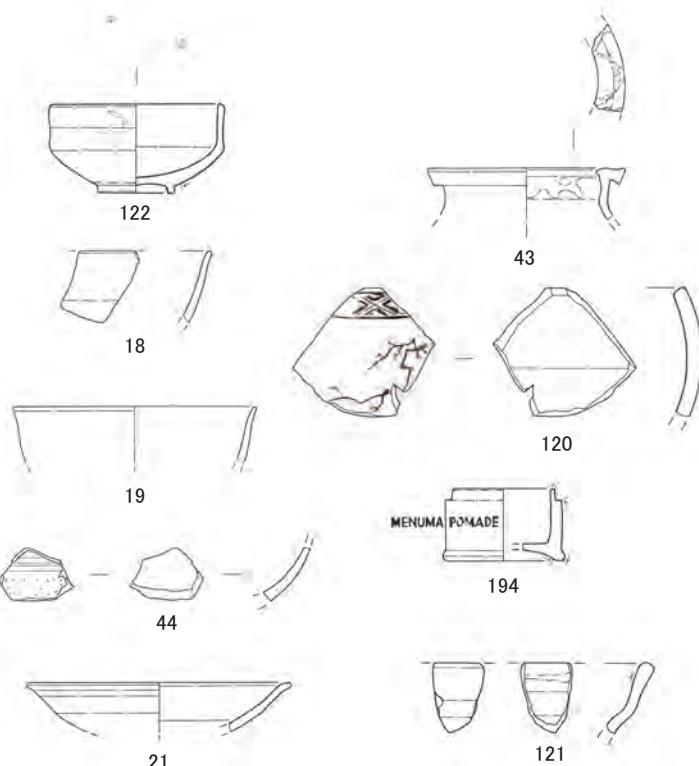
第51図 本土産白磁



第52図 本土産染付

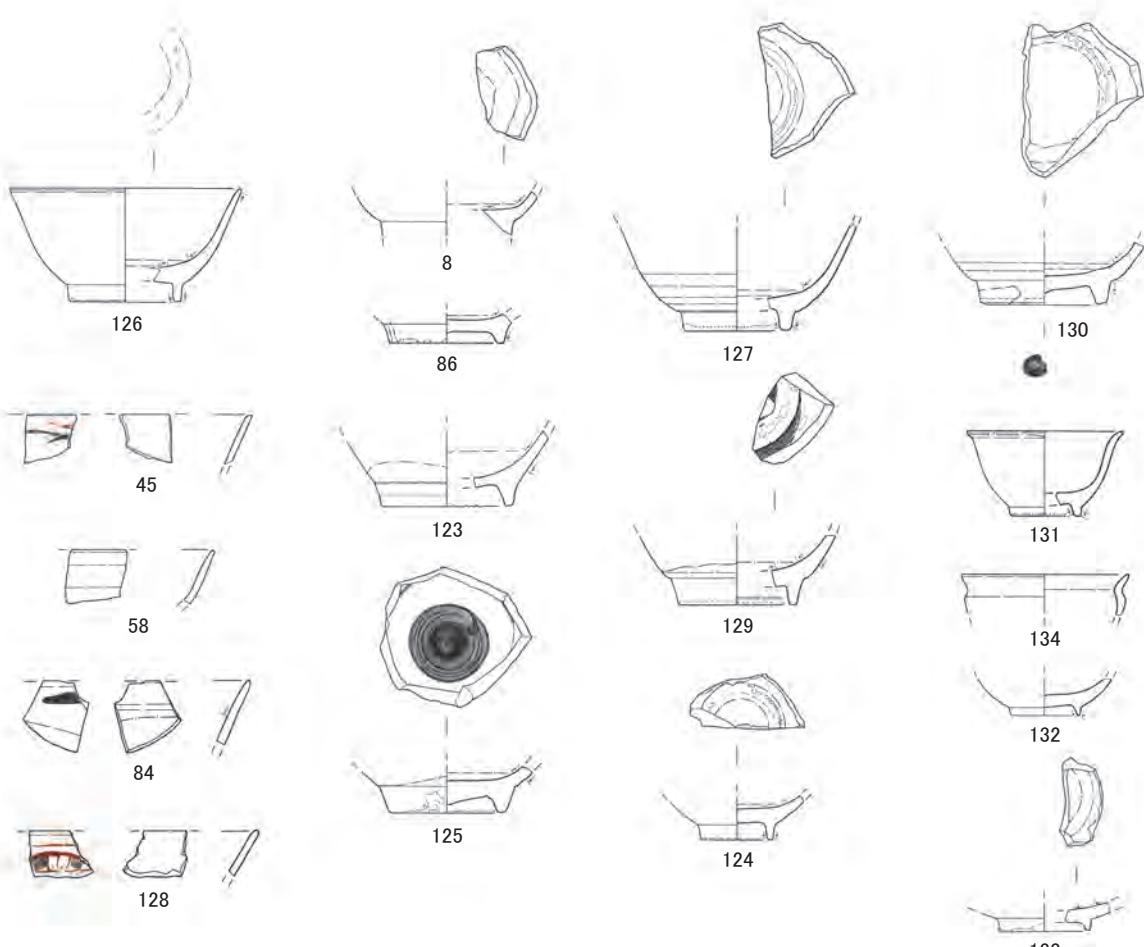


第53図 本土産色絵



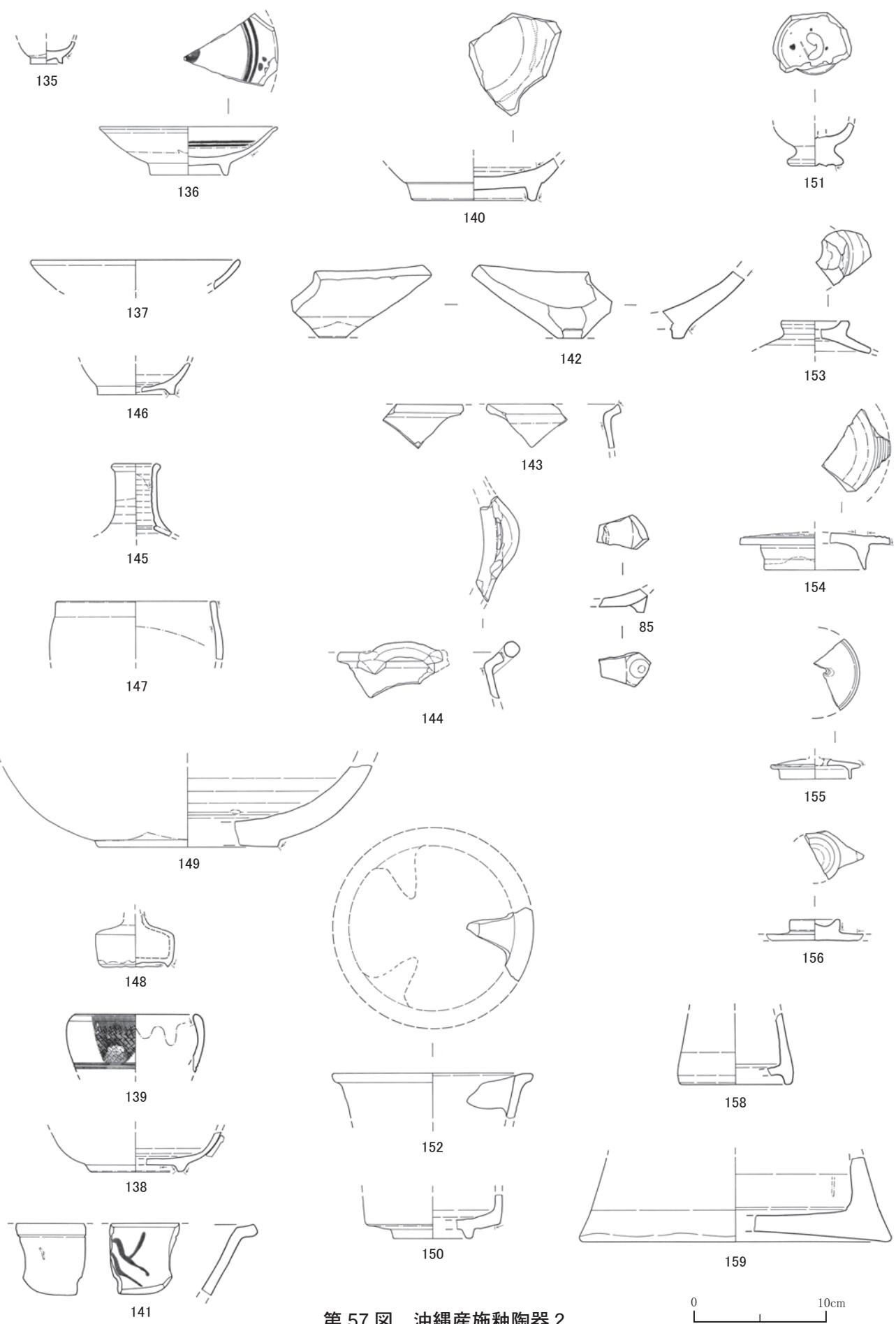
第54図 本土産磁器

第55図 本土産陶器

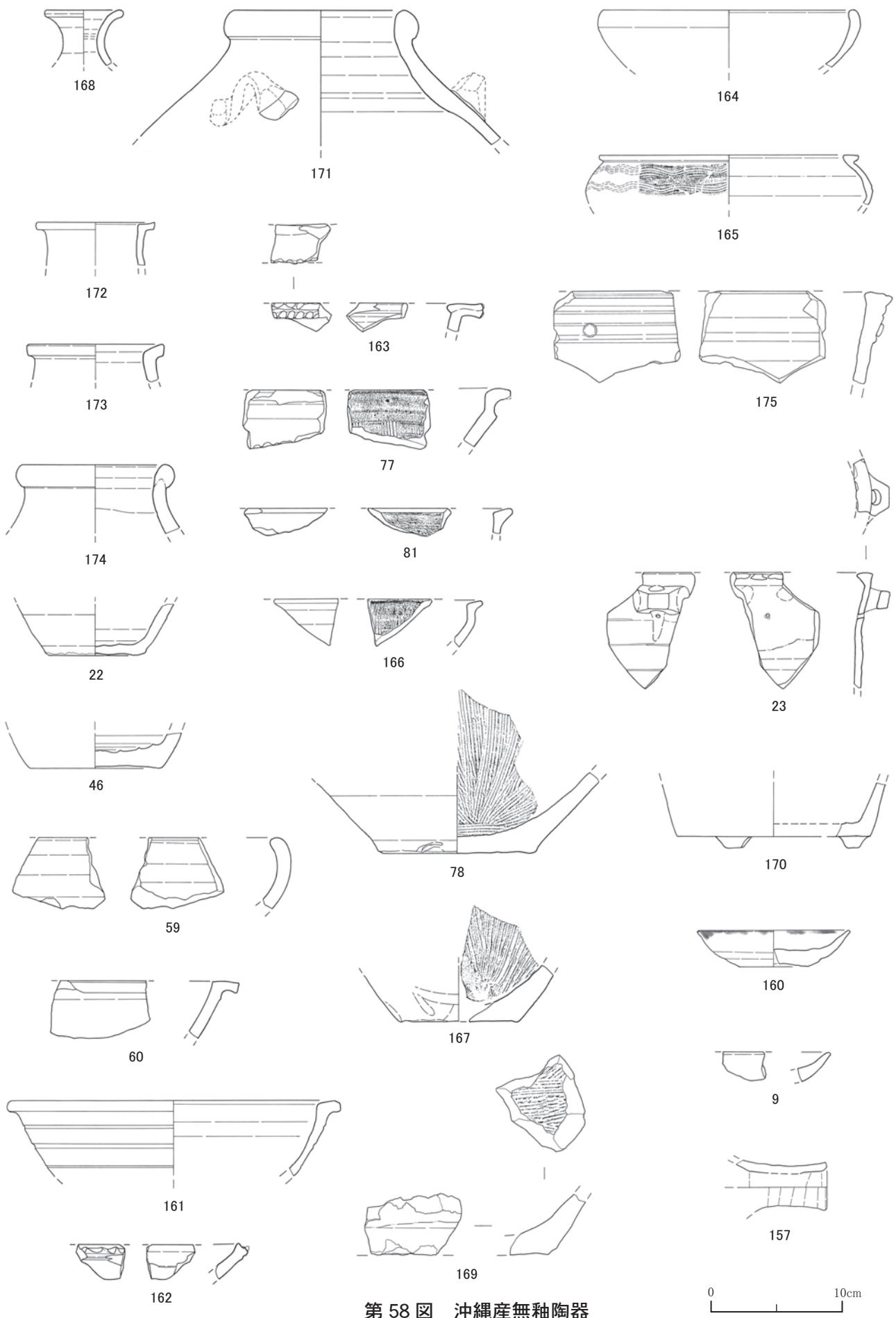


0 10cm

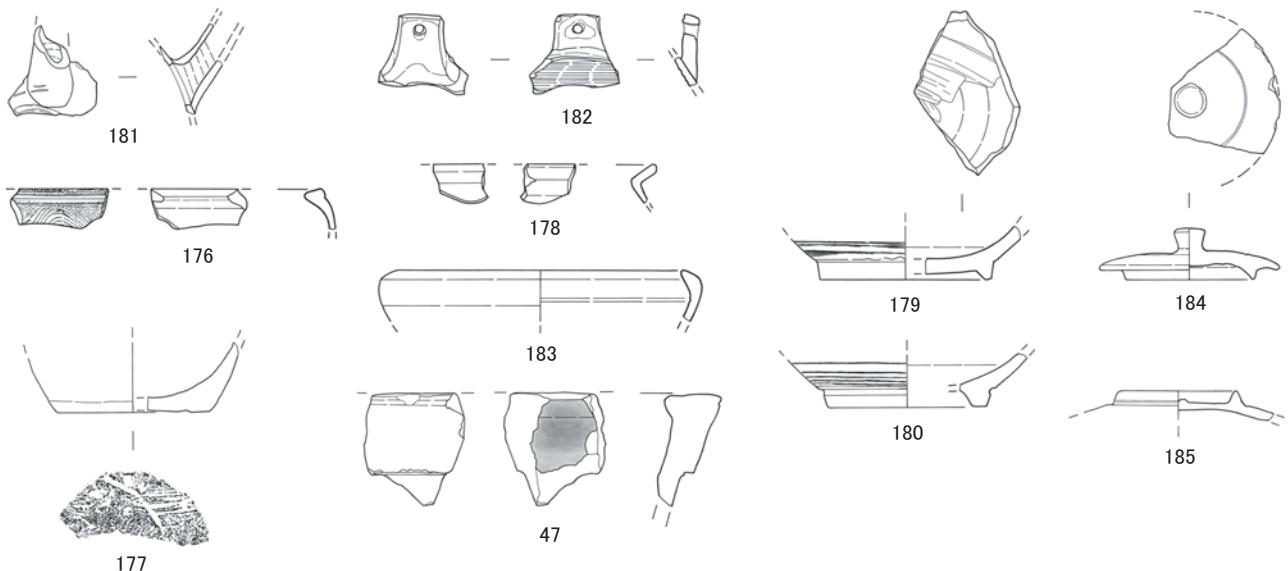
第56図 沖縄産施釉陶器 1



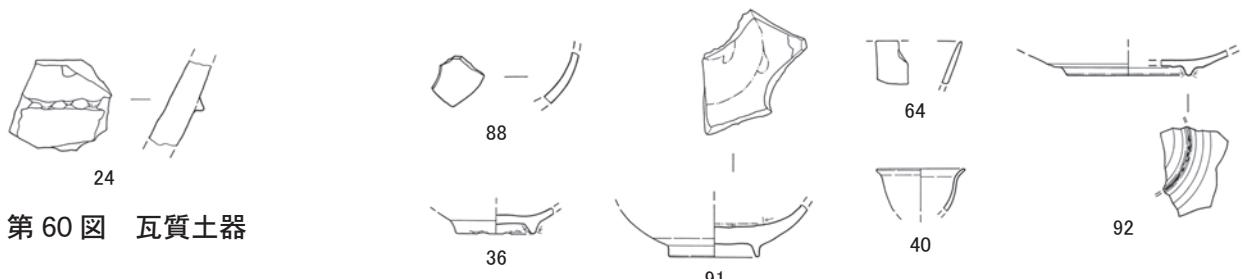
第57図 沖縄産施釉陶器2



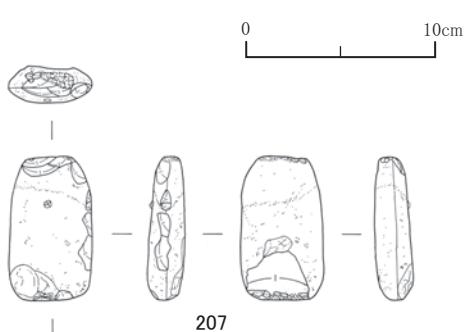
第 58 図 沖縄産無釉陶器



第59図 陶質土器



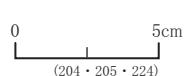
第60図 瓦質土器



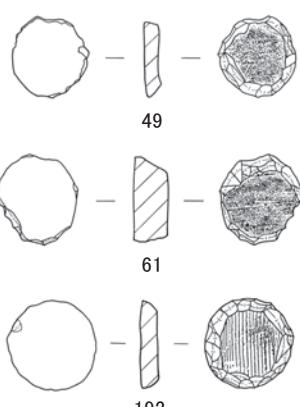
第61図 産地不明陶磁器



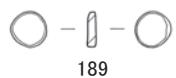
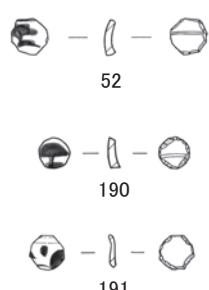
第62図 石器

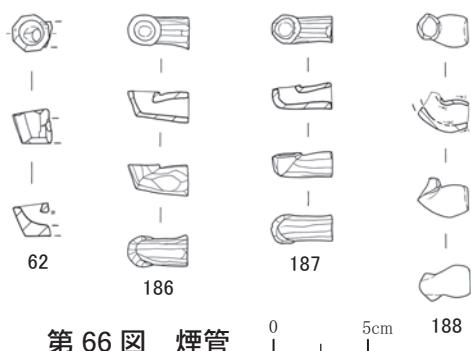


第64図 石製品



第63図 貝製品

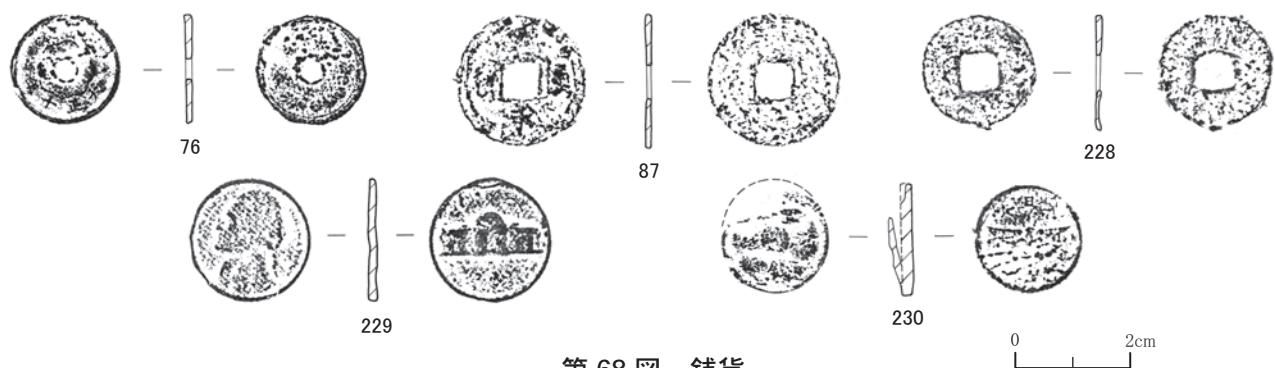




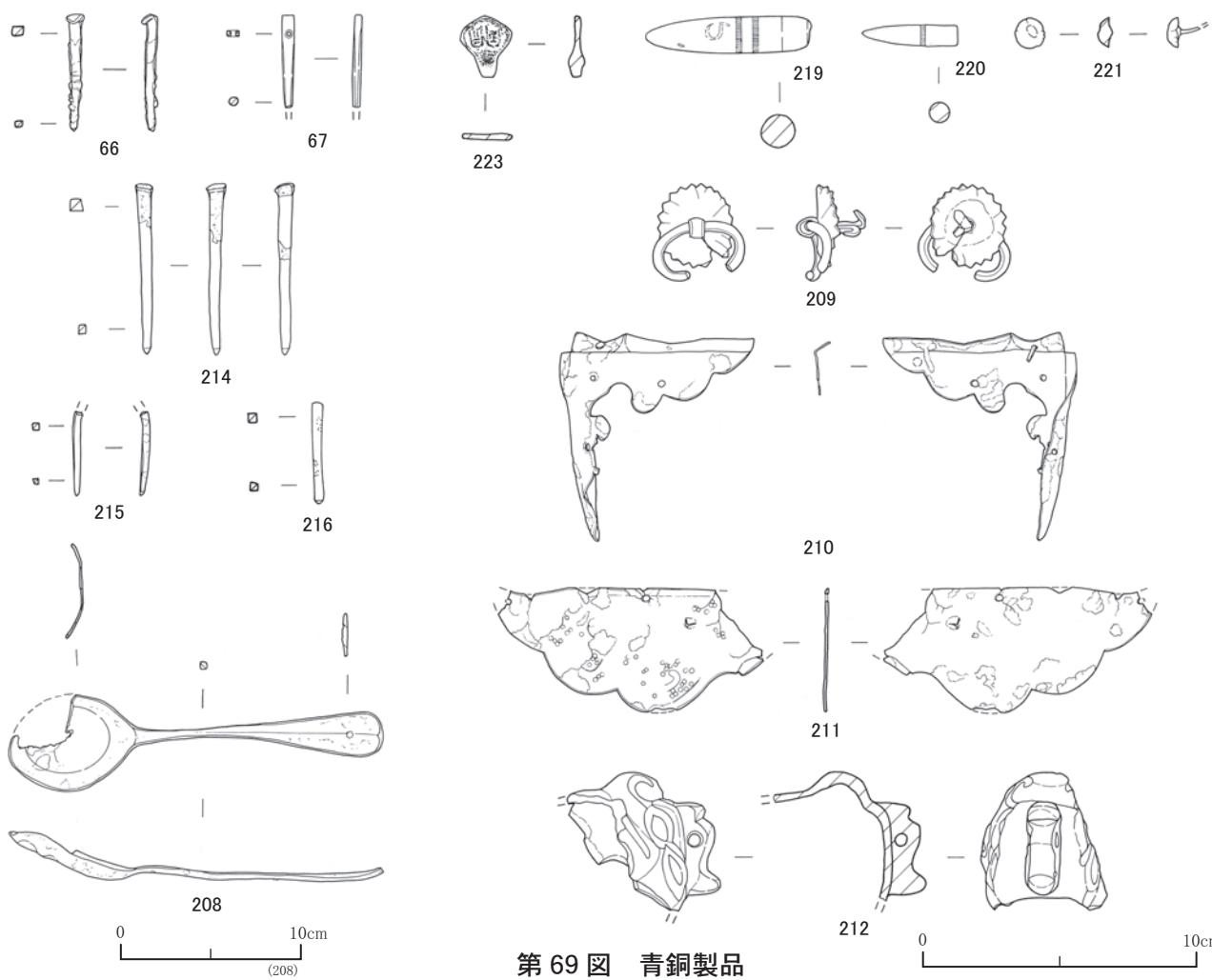
第66図 煙管



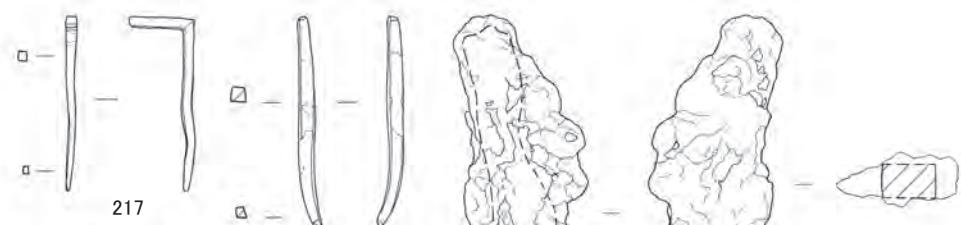
第67図 玉



第68図 錢貨



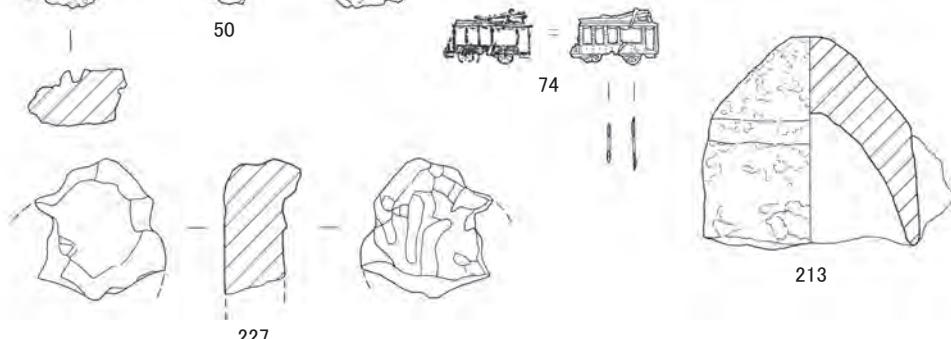
第69図 青銅製品



第71図 金属製品

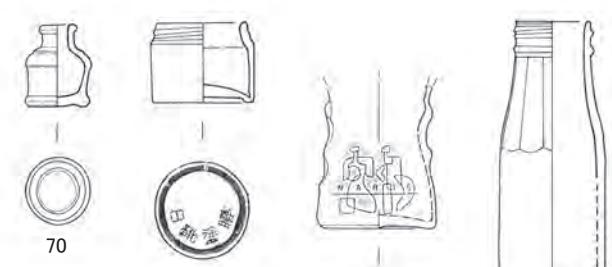


第72図 アルミ製品



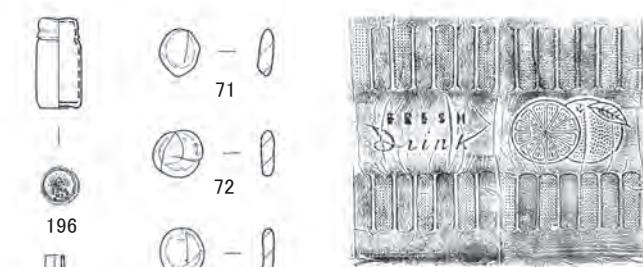
第70図 鉄製品

0 10cm  
(鉄製品・金属製品・アルミ製品)



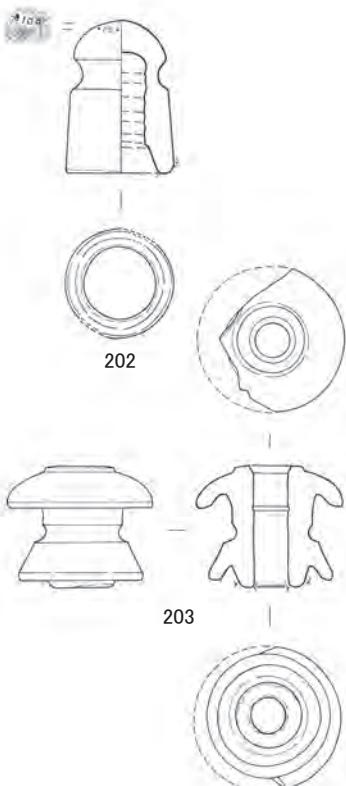
199

200



0 5cm  
(71・72・73)

第73図 ガラス製品



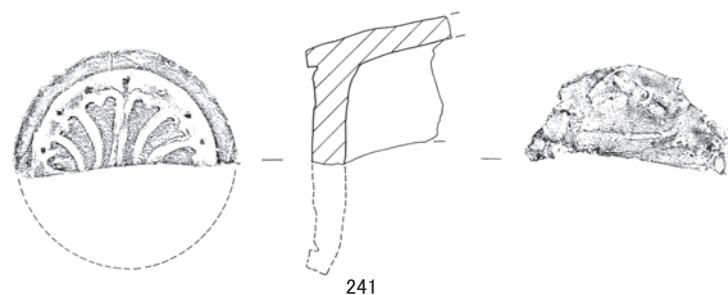
第74図 碓子

0 10cm  
(ガラス製品・碓子)

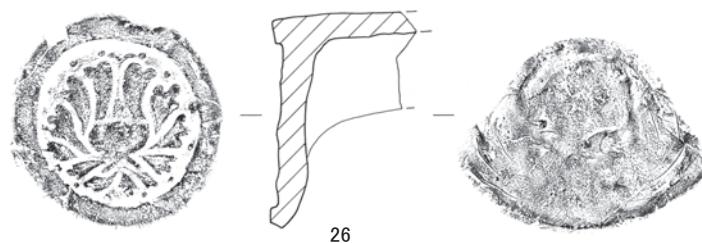


第75図 焼土

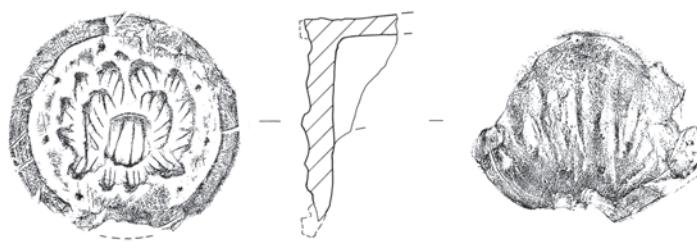
0 5cm



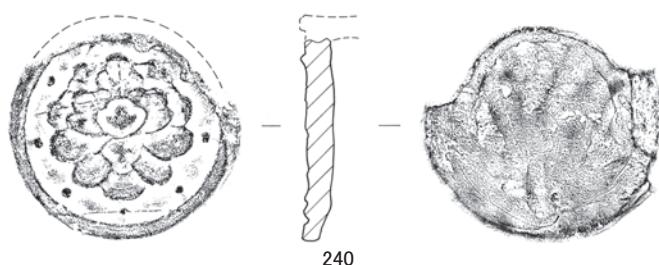
241



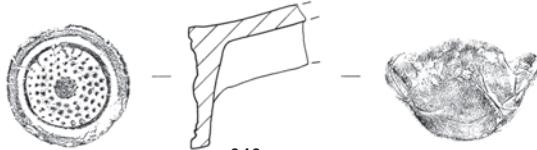
26



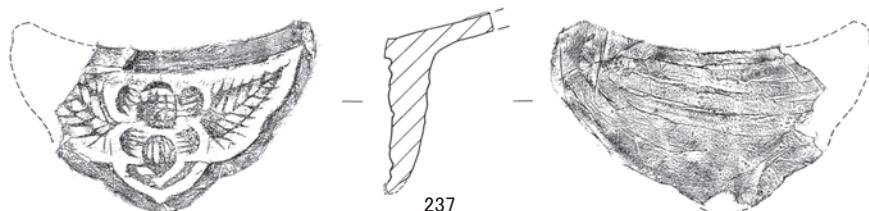
239



240



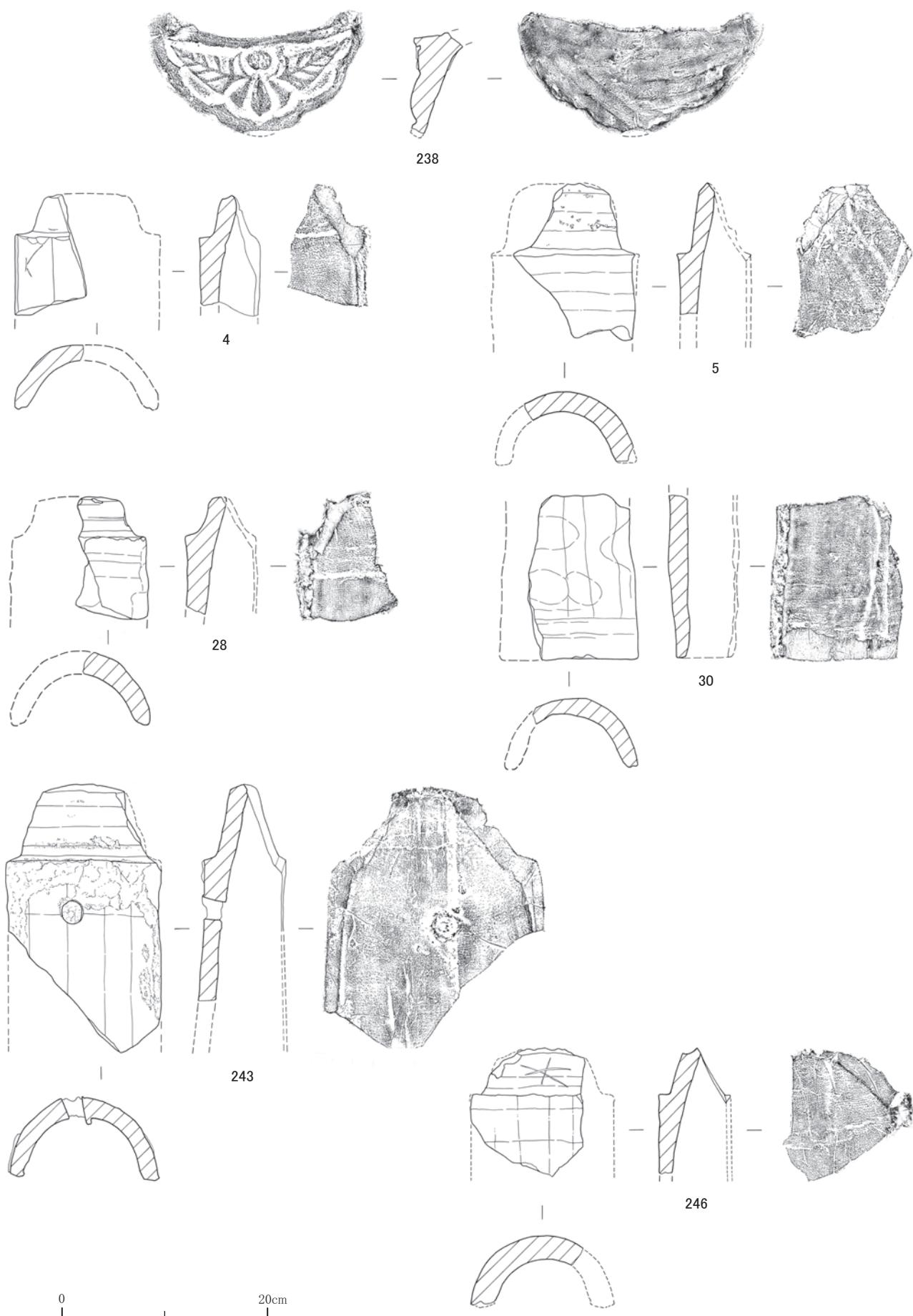
242



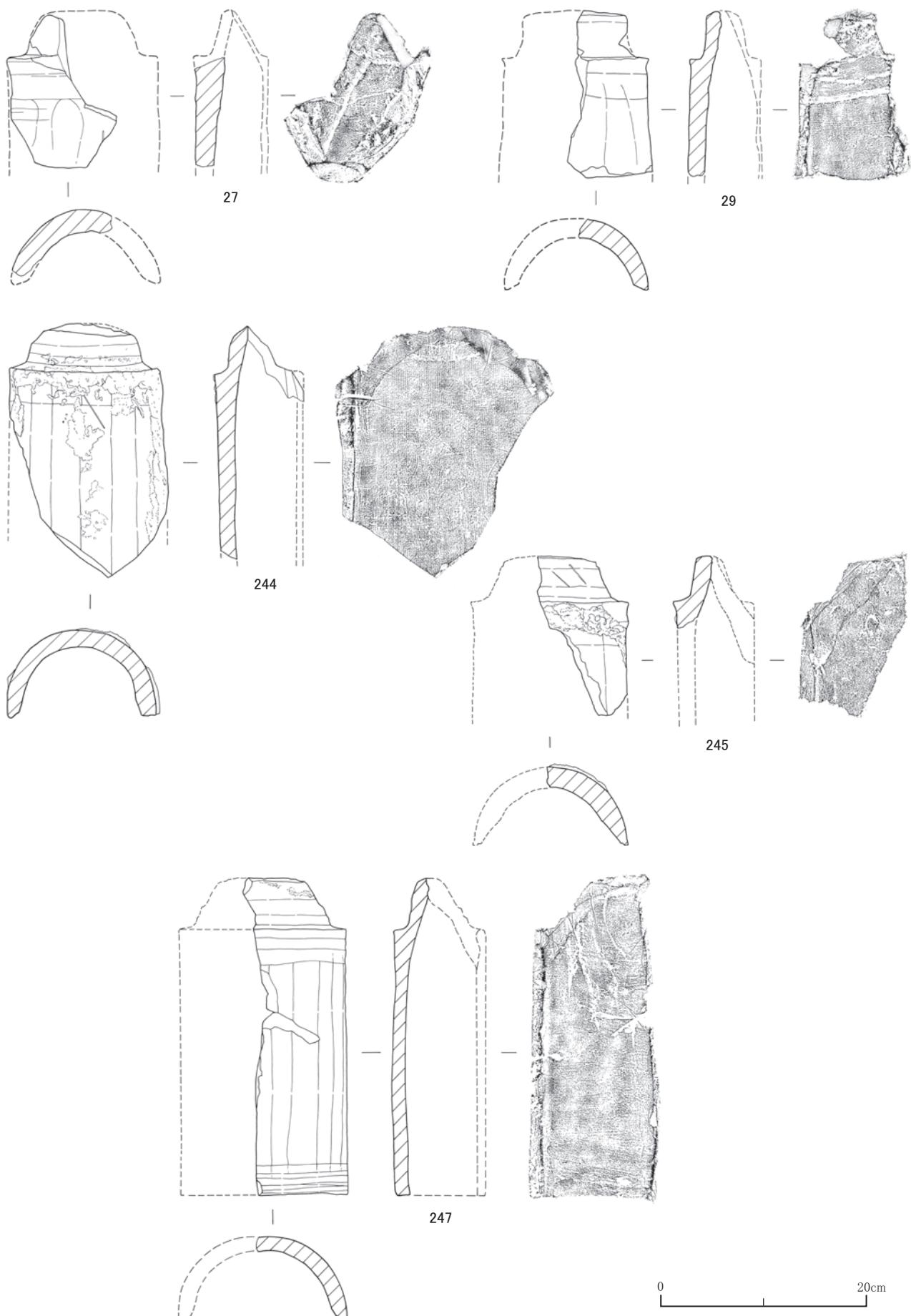
237

第76図 瓦1

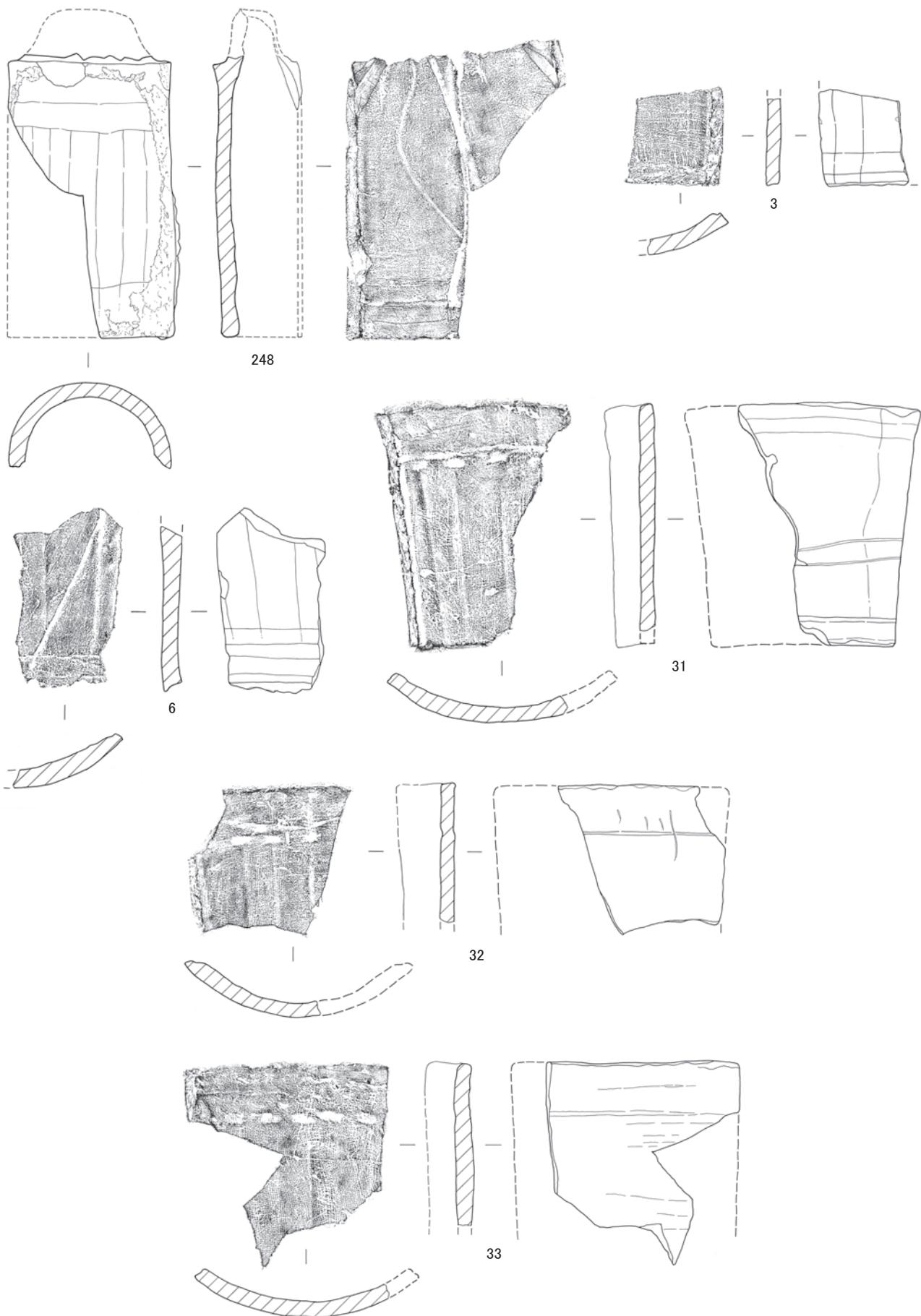
0 20cm



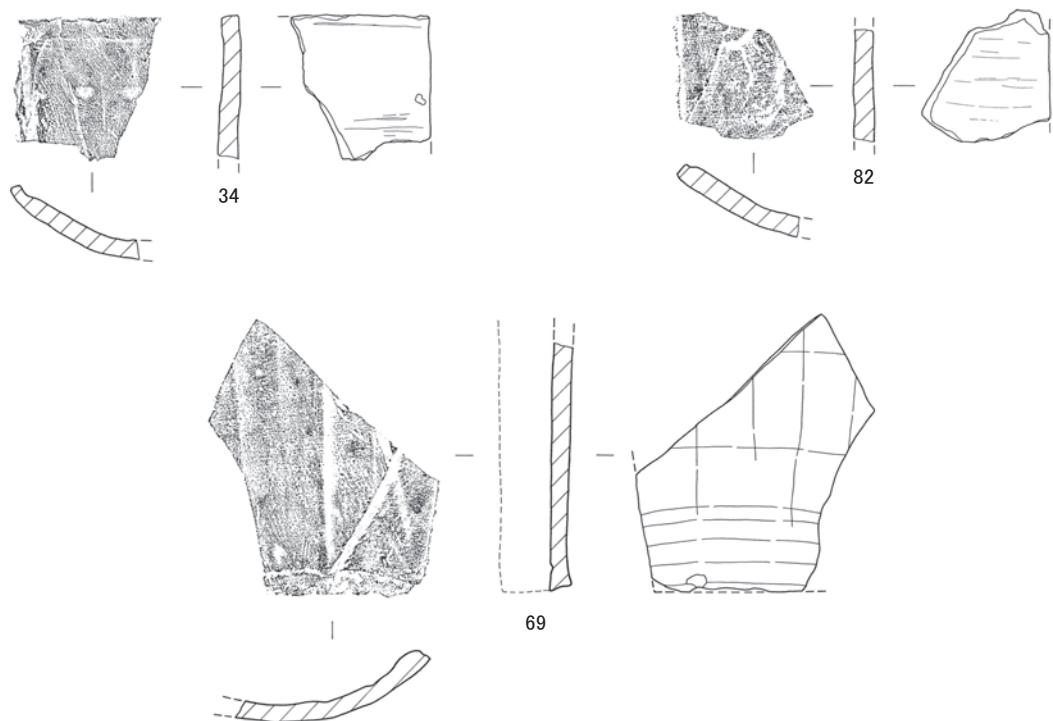
第77図 瓦2



第78図 瓦3

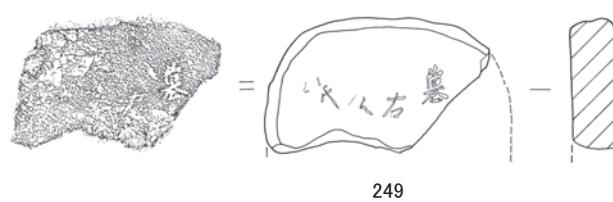


第79図 瓦4

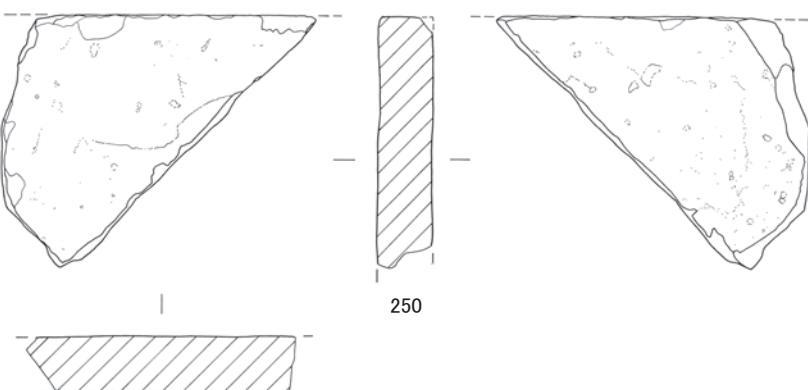


第80図 瓦5

0 20cm



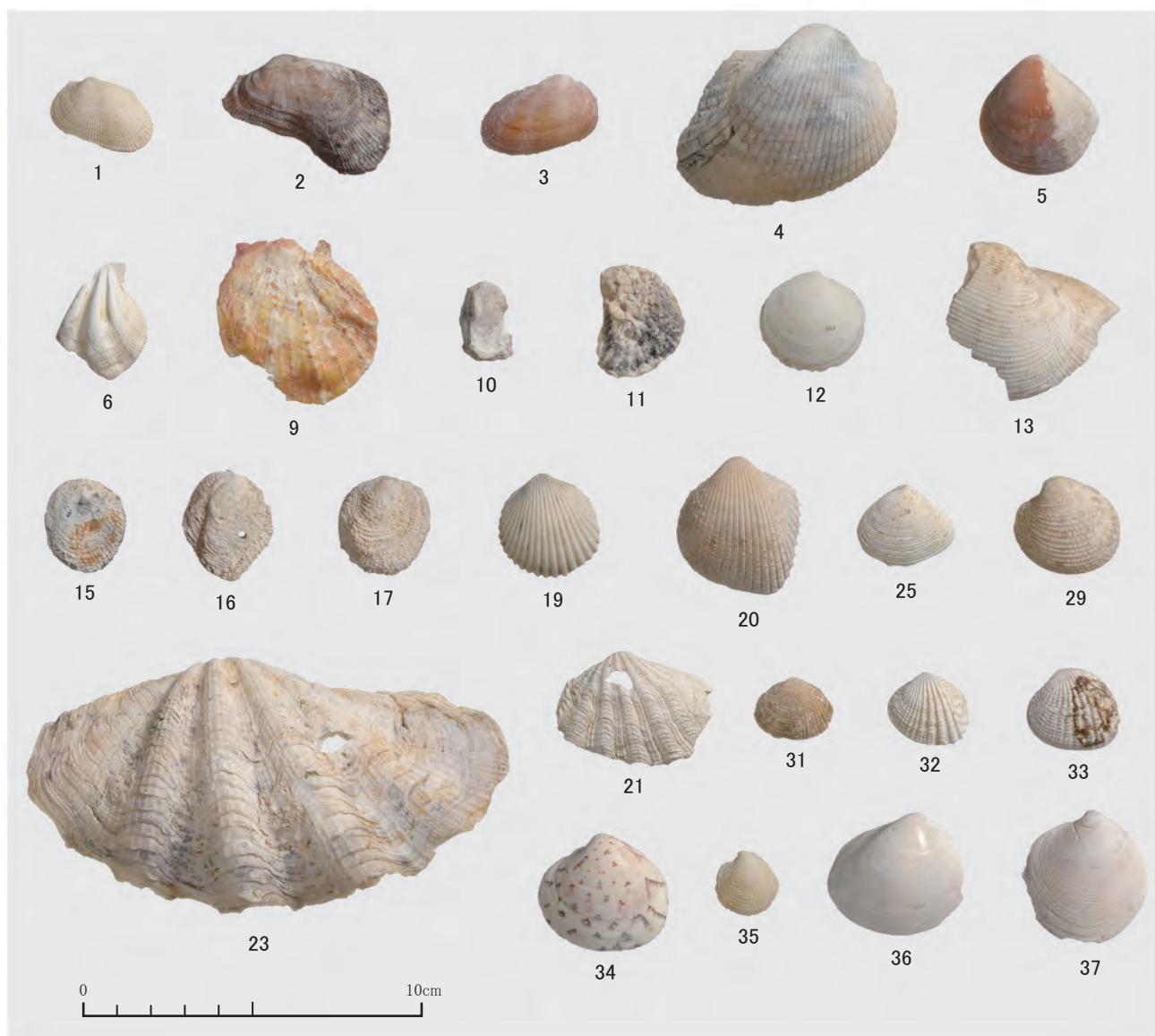
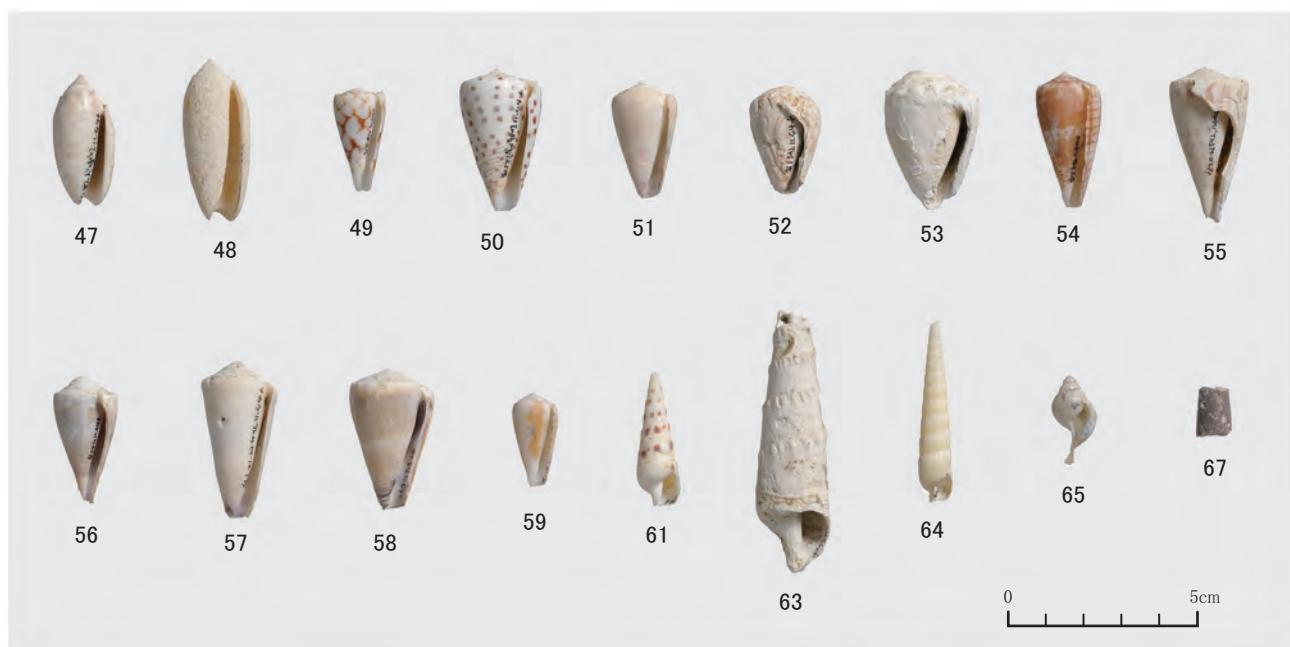
第81図 墓誌



第82図 墓誌



図版 85 貝類遺体 1 (巻貝 1) ※ 番号は表と一致。



図版 86 貝類遺体 2 (上：巻貝 2、下：二枚貝) ※ 番号は表と一致。



図版 87 脊椎動物遺体

メジロザメ 1. 脊椎骨 ダツ科 2. 右前上顎骨 クロダイ 3. 右歯骨 コブダイ 4. 下咽頭骨 ナンヨウズダイ 5. 左前上顎骨 ハタ科 6. 左歯骨 ニワトリ 7. 右中手骨 近位端 8. 左中足骨 完形 イヌ 9. 環椎 10. 右尺骨 近位部 11. 右脛骨 遠位端 ブタ 12. 左頭頂骨 13. 右下顎骨 大歯♂ 14. 右下顎骨 M<sub>1</sub> 15. 右下顎骨 M<sub>2</sub> 16. 左橈骨 近位端～遠位骨端はずれ 17. 左尺骨 近位骨端はずれ～骨体 18. 左寛骨 白部～坐骨 19. 左脛骨 近位部～遠位骨端はずれ 20. 右距骨 完形 ウシ 21. 右上顎骨 dm<sup>4</sup> 22. 右下顎骨 P<sub>4</sub> 23. 左膝蓋骨 ヤギ 24. 右肩甲骨 骨体～遠位端 25. 右上腕骨 骨体～遠位端 26. 左大腿骨 近位骨端はずれ～骨体 27. 右中足骨 近位端～遠位骨端はずれ





第10表 青磁出土状況

出土地 器種・部位	トレンチ1	トレンチ2	トレンチ3		トレンチ4	トレンチ5			トレンチ6		トレンチ7		合計			
	I層	I層	I層	III層 赤褐色土	石組3	I層	石組2	石積6		I層	石積2	I層	III層 褐色土			
				北側 III層 赤褐色土			III層 暗褐色土	南側 III層 暗褐色土	北側 III層 褐色土		西側 III層 暗褐色土					
碗	口縁部	3	2			2	3							10		
	胴部	1		3	2			1			1			8		
	底部			1								2		3		
小碗	底部											1		1		
皿	口縁部						1			1				2		
	胴部						2							2		
	底部											1		1		
壺	口縁部						1							1		
器種不明	口縁部						1		1			4		6		
	胴部	8	1	1		1	4	16	1	1	1	7	14	1	56	
	底部	1										1		2		
	部位不明										1			1		
合計		13	3	5	2	1	6	24	2	2	1	9	1	23	1	93

第11表 白磁出土状況

出土地 器種・部位	トレンチ3		トレンチ5				トレンチ6		トレンチ7		合計	
	I層	III層 赤褐色土	I層	III層 褐色土	石組2	石積6		I層	I層	III層 ユーラル		
					III層 暗褐色土	北側 III層 褐色土	南側 III層 暗褐色土					
碗	口縁部			4						3	1	8
	胴部							1				1
	底部		4						1			5
小碗	口縁～底部				1							1
	口縁部									4		4
	底部									1		1
皿	口縁～底部									1		1
	口縁部	2			1	1				1		5
	胴部									4		4
杯	底部		4									4
小杯	口縁～底部									1		1
	口縁部									1		1
袋物	底部								1			1
器種不明	口縁部			1								1
	胴部	1	8	1		2				29		41
	底部						1		1			2
合計		2	1	22	2	2	3	2	2	46	1	83

第12表 染付出土状況

器種・部位	出土地	トレンチ1		トレンチ2		トレンチ3		トレンチ4		トレンチ5		トレンチ6		トレンチ7		合計									
		I層	I層	I層	III層 赤褐色土	石組3	北側 III層 赤褐色土	I層	III層 褐色土	石組2	西側 III層 暗褐色土	石積5	南側 III層 暗褐色土	石積6	北側 III層 褐色土	石積2	西側 III層 暗褐色土	I層	褐色土	黒褐色土	コーラル	石積7	不明		
碗	口縁部	2	1	1				17				3	19			2	23						1	70	
	胴部	5	8			1	3		32	2	1	2	36				33		1		1		1	125	
	底部	5	2	5				3	1	13			14				15							58	
小碗	口縁部										1						6							7	
	胴部										1						2							3	
	底部									4							1							5	
皿	口縁部			2					3	1		1	1				3							11	
	胴部							1								4								5	
	底部	1						7	7	2		7				7				12				36	
小皿	口縁部								2							1									3
	胴部								1															1	
	底部							1																3	
杯	口縁部																								1
	胴部																								1
	底部							1		2														3	
小杯	底部			1												1								2	
	胴部															1								1	
	瓶										1								1					1	
鉢	胴部															1								1	
	底部																							1	
	蓋																1							1	
急須	胴部										1													1	
袋物	胴部											1												1	
蓮華	口縁～底部																2							2	
	口縁部										1							1						2	
器種不明	底部																							49	
	口縁部	7							14		24					1								1	
	胴部	13							16		58	1	1			20	1		2	30	1	1	1	146	
合計		26	9	18	1	1	48	1	181	1	8	1	7	106	1	1	4	133	1	1	1	2	1	554	

第13表 その他中国産陶磁器出土状況

種類・器種・部位			出土地		トレンチ1	トレンチ3	トレンチ4	トレンチ5			トレンチ6	トレンチ7		合計
					I層	I層	I層	I層	Ⅲ層 サンゴ層	石積6 南側 Ⅲ層 暗褐色土	I層	I層		
瑠璃釉	碗	胴部					1							1
		底部				1								1
	杯	口縁部										1		1
		底部										1		1
	袋物	胴部					1						1	2
	器種不明	胴部	3									3		6
合 計			3	0	1	2	0	0	0	0	5	1	12	
色絵	碗	口縁部			1		2							3
		胴部					2					2		4
		底部					1					1		2
	小碗	胴部										1		1
		底部										1		2
	皿	胴部										1		1
		底部										3		3
	瓶	胴部										1		1
	袋物	胴部					1							1
	器種不明	口縁部					1	1						2
		胴部	1			8					1			10
		底部										1		1
合 計			1	1	0	15	1	1	1	1	11	0	31	
中国産	青磁染付 (1点)	碗	口縁部				1							1
	色絵染付 (1点)	器種不明	口縁部			1								1
	三彩 (2点)	器種不明	胴部		1							1		2
	緑釉 (1点)	器種不明	胴部				1							1
翡翠釉 (2点)	皿	口縁部										1		1
	小皿	口縁部										1		1
褐釉染付	小碗	底部										1		1
	小杯	口縁部				1								1
		底部				1								1
合 計			0	0	0	2	0	0	0	0	1	0	3	
褐釉磁器 (1点)	器種不明	底部										1		1
陶器	急須	胴部	1									1		2
		底部	1											1
	急須 (紫砂)	胴部										2		2
	(茶器) 蓋		1											1
	蓋											1		1
	器種不明	胴部							1					1
合 計			3	0	0	0	0	1	0	4	0	0	8	

第14表 中国産褐釉陶器・タイ産褐釉陶器・西洋陶器・産地不明陶磁器出土状況

		出土地		トレンチ1		トレンチ3		トレンチ4		トレンチ5		トレンチ6		トレンチ7		合計		
種類・器種・部位		1層	1層 赤褐色土	石組3 北側 赤褐色土	石組3 北側 赤褐色土	溝2 1層 赤褐色土	溝2 1層 赤褐色土	石組2 南側 暗褐色土	石積6 南側 暗褐色土	石積1 北側 褐色土	石積1 北側 褐色土	Ⅲ層 褐色土	Ⅲ層 黒褐色土	石組1 Ⅲ層 暗褐色土	石積7 南側 黄褐色土	不明		
中国産褐釉陶器	壺	口縁部				1											1	
	壺	胴部	12	9	1	14	40			4		17	1			1	117	
	底部									1		2					3	
タイ産褐釉陶器	壺	口縁部				1		0	0	0	0	18	0	19	1	0	1	121
	壺	胴部	4	2		2	1	3	1	1		2	1	3			20	
	底部				1				1	1			1				4	
器種不明	壺	口縁部								1		3					1	
	合計		12	9	1	0	15	0	40	0	0	4	0	18	0	1	5	
	皿	口縁部								1								
西洋陶器	鉢	胴部															20	
	皿	口縁部			1												4	
	合計		4	2	0	1	2	1	4	1	0	3	2	0	5	1	1	
西洋陶器	碗	胴部															1	
	小瓶	底部															1	
	皿	口縁～底部				1						1					1	
产地不明陶磁器	灯明皿	口縁部															1	
	小杯	口縁部										1					1	
	壺	胴部			1							2					2	
器種不明	チヨク	口縁部															1	
	急須	口縁部															1	
	合子	注口	1							1					1		1	
部位不明	耳	口縁部								2							2	
	壺	胴部	4	5		4	19	1	5		44	57					139	
	底部					1	3		1							5		
部位不明	合計		6	5	0	0	9	0	28	0	1	7	1	52	0	59	0	
															1	1	0	
															0	0	171	

第15表 本土産陶器・本土産染付出土状況

種類・器種・部位	出土地	トレンチ			トレンチ		トレンチ			トレンチ		トレンチ		合計	
		I層	I層	I層	I層		溝2	I層	石組2	石積6	I層	石積2	I層	石積7	
							I層 赤褐色土		III層 暗褐色土	南側 III層 暗褐色土		西側 III層 暗褐色土		北側 III層 褐色土	
本土産陶器	碗	口縁～底部									1				1
		口縁部							2		1		1		4
		胴部			5				1	1			1		8
		底部									1				1
	小碗	口縁部									1				1
		底部			1										1
	皿	口縁部					4		1		5				10
		胴部									3		1		4
		底部									5		2		7
	瓶	口縁部		1											1
	壺	口縁部								1			1		2
		胴部						2							2
	鍋	耳									2				2
	蓋	撮み									1				1
	急須	胴部		2									2		4
		底部											1		1
	蓋物	口縁～底部									1				1
		胴部									1				1
	器種不明	口縁部			1						2				3
		胴部	3								5		4		12
	合計		3	3	1	6	0	4	6	2	29	0	13	0	67
本土産染付	碗	口縁部					3	2				1	1		7
		胴部		1	1						2	5			9
		底部		1			1	2			2				8
	小碗	口縁部					2				5				7
		胴部			1								1		2
		底部									4				4
	皿	口縁部					1				2				3
		胴部									2				2
		底部					10				1				11
	小杯	口縁部					3								3
		胴部					1								1
		底部					4								4
	瓶	口縁部					1								1
		胴部											1		1
	火入れ	口縁部											1		1
	蓋						1								1
	蓋物	口縁部											1		1
	袋物	底部					3								3
	器種不明	口縁部				1	3				4			1	9
		頸部									20				20
		胴部				14	2						13		29
		底部									1		3		4
	合計		0	2	2	0	1	47	6	2	46	1	23	1	131

第16表 本土産白磁・本土産色絵・本土産磁器出土状況

種類・器種・部位		出土地		トレンチ1	トレンチ2	トレンチ3		トレンチ4		トレンチ5		トレンチ6	トレンチ7		合計
		I層	I層	I層	III層 赤褐色土	I層	溝2	I層	石積6	I層	南側 赤褐色土	III層 暗褐色土	I層	石組1	
本土産 白磁	小碗	口縁部											7		7
	皿	胴部			1										1
		底部						1							1
	杯	口縁～底部						1							1
		胴部						4							4
	器種 不明	口縁部						6							6
		胴部						11							11
		底部										1			1
	合 計		0	0	1	0	0	0	23	0	1	7	0	32	
本土産 色絵	碗	口縁部								1					1
	皿	口縁部						1							1
		胴部			1								1		2
		底部		1				1				1	2		5
	蓋												1		1
	器種 不明	口縁部										2	3		5
		胴部						1				1	2		4
	合 計		0	1	1	0	0	0	3	1	4	9	0	19	
本土産 磁器	碗	口縁～底部							1						1
		口縁部			1		2		2			4	3		12
		胴部		1	5		3		6			3	6		24
		底部	2				1		2			11			16
	小碗	口縁～底部	1												1
		口縁部	4		1		10		2			2			19
		胴部	5		6		5		8			3			27
		底部	1		1				4			2	1		9
	皿	口縁～底部					2						1		3
		口縁部	2		1				12				6		21
		胴部	3				1								4
		底部	3	1			3		16			2	1		26
	杯	底部					1								1
	瓶	胴部	1												1
	鉢	口縁部	1												1
	香炉	口縁部										1			1
		底部										1			1
	蓋				1							3			4
	急須	口縁部										5	1		6
		胴部										1			1
	合子	身							1						1
	カップ								1						1
	器種 不明	口縁部	1		3		5		12			40	7	1	69
		胴部	10			1	1	1	20	1		61	22		117
		底部					1					15			16
		部位不明							13			1			14
合 計		34	2	19	1	35	1	100	1	153	50	1	397		

第17表 沖縄産施釉陶器出土状況

器種・部位	出土地	トレンチ1	トレンチ2	トレンチ3			トレンチ4		トレンチ5					トレンチ6	
		I層	I層	I層	Ⅲ層 赤褐色土	石組3 北側 Ⅲ層 赤褐色土	I層	溝2 I層 赤褐色土	I層	Ⅲ層 褐色土	石組2 Ⅲ層 暗褐色土	石積5 西側 Ⅲ層 暗褐色土	石積6 南側 Ⅲ層 暗褐色土	I層	Ⅲ層 黄褐色土
碗	口縁～底部								1						
	口縁部	2	2	3			2		75				8	30	
	胴部	21	3	4				1	114		2		10	26	
	底部	9	1	2			3		22					9	
小碗	口縁～底部														
	口縁部							27						11	
	胴部							37					1	9	
	底部		1				1		10					6	
皿	口縁～底部							1							
	口縁部							2						3	
	胴部							2		1				1	
	底部			1				3							
杯	口縁部						1								
小杯	口縁部								1						
	胴部						1								
	底部														
瓶	口縁部						2		4					2	
	胴部						1							3	
	底部								1						
壺	口縁部		1				3		1						
	耳						1								
	胴部			1					3				1		
	底部						1		2				2	2	
油壺	耳													1	
	胴部								1						
	底部														
鉢	口縁部	1					1		5					4	
	胴部			2					20					6	
	底部	1					1		5				1	2	
鍋	口縁部						2		16					2	
	耳													2	
	胴部								52				1	10	
	底部								2					1	
香炉	口縁部								3					3	
	胴部								2					2	
酒ビン	胴部								1						
	底部														
火炉	口縁部														
火取	口縁部														
	胴部												1		
	底部														
灯明具	底部	1													
急須	口縁部								4					6	
	注口								6						
	把手								1					1	
	耳								2					2	
	胴部	3					1						1	14	
	底部	1		1					30					3	
蓋	撮み	1							2						
	蓋	1					2		12				1	5	
袋物	口縁部								3						
	胴部						4		27		1		5	5	
	底部												1	1	
器種不明	口縁部	11					6		6				1	1	
	耳						1								
	胴部	47		1	1	1	36	1	63	7		1		37	1
	底部	4								1	1				
合計		105	8	13	1	1	70	2	569	8	5	1	34	210	1

トレンチ6				トレンチ7								合計		
石積1		石積2		I 層	III層				石組1		石積7			合計
Ⅲ層 赤褐色土	北側 Ⅲ層 褐色土	直下 Ⅲ層 暗褐色土	西側 Ⅲ層 暗褐色土		赤褐色土	暗褐色土	褐色土	コーラル	Ⅲ層	Ⅲ層 暗褐色土	北側 Ⅲ層 褐色土	南側 Ⅲ層 暗褐色土	南側 Ⅲ層 褐色土	
														1
			195			1							1	319
1	1		1	49							1			234
				82							1			129
				2										2
				8										46
	1			8										56
				9										27
														1
				2										7
				1										5
				1										5
														1
														1
														1
				1										1
				7										15
				23										27
				2										3
				3										8
				1										2
				13										18
				1										8
														1
				6										7
				2										2
				23										34
				11										39
				5										15
		1		15				1						37
				3										5
				46	1							1		111
				7		1								11
														6
														4
				9										10
				1										1
				1										1
				12										12
				7										8
				2										2
														1
				3										13
				7										13
														2
				2										6
				13										32
														35
														3
				24						1				46
														3
				1						1				44
														2
1	2			4										32
				1					1					3
				1	281	1								479
1				1				1						9
3	4	1	3	894	2	2	1	1	1	2	2	1	1	1946

第18表 沖縄産無釉陶器出土状況

器種・部位	出土地	トレンチ1			トレンチ2			トレンチ3			トレンチ4			トレンチ5			トレンチ6			トレンチ7			石積7 合計				
		I層	1層	1層	III層	赤褐色土	石組3	I層	II層	1層	赤褐色土	石組2	石積5	石積6	II層	III層	西側 暗褐色土	北側 灰褐色土	北側 III層 暗褐色土	石積2	III層	III層	石組1	南側 III層 暗褐色土	南側 III層 暗褐色土	北側 III層 褐色土	
瓶	口縁部																									3	
壺	耳																									1	
鉢	脇部	32						26		48																15	
	底部	3						1		6			1													1	
搗り鉢	脇部	1						3	10								1	6								2	
水鉢	底部	1															6									118	
甕	口縁部																									26	
厨子甕	脇部																									49	
鍋	底部																									10	
火炉	口縁部																									3	
	底部																									1	
急須	口縁部																									14	
灯明皿	口縁～底部																									72	
灯明具	口縁部																									9	
袋物	口縁部																									7	
器皿	底部	2	11	1	2	22	2	67	2	4	2	6	19	8	1	1	2	71	1	1	3	1	1	1	1	56	
不明	底部							1																		7	
部位不明								3									2									5	
合計		49	4	12	2	2	58	3	187	3	6	2	10	116	9	2	1	4	187	1	1	2	1	1	3	2	671

第19表 土器・陶質土器・瓦質土器・須恵器出土状況

種類・器種・部位	出土地	トレンチ1	トレンチ2	トレンチ3	トレンチ4	トレンチ5	トレンチ6	トレンチ7	合計											
		I層	I層	I層	III層 赤褐色土	I層	III層 暗褐色土	石積1												
グスク土器	胴部					1													1	
宮古式土器	胴部						2												2	
バナリ焼壺	胴部							1											1	
壺	胴部								1										1	
器種不明	胴部					2	2	3	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	7	
	合計	0	0	0	0	2	2	3	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	12	
碗	底部																		2	
皿	底部																		3	
土瓶	口縁部					1													8	
	耳					1													4	
																			4	
																			4	
																			18	
鉢	口縁部					4													5	
	底部																		2	
																			2	
																			34	
鍋	口縁部					12					3								3	
	耳	1																	66	
																			4	
																			3	
陶質土器	胴部					50					9									18
フライハニ状製品	口縁部					1					3									1
	底部																		41	
																			16	
																			51	
																			5	
																			341	
																			10	
火炉	口縁部					4					2								1	
	耳	1									5	23	1	1	2				341	
											11		1	1					10	
											14		2	3					1	
																			1	
																			640	
器種不明	胴部					1	4												1	
	底部					5	68				1	19	46	2	2	1	2	183	1	
	部位不明	1					2						2				5		1	
	合計	15	1	1	0	18	193	1	0	1	25	78	2	2	1	2	294	1	1	
						1													3	
瓦質土器	口縁部																		1	
	耳	1																	1	
																			1	
須恵器	壺	胴部																	14	
(3点)																			0	
																			3	

第20表 錢貨・煙管・円盤状製品・石製品・玉・貝製品・石器・木製品出土状況

種類・器種・部位	出土地	トレンチ1		トレンチ2		トレンチ3		トレンチ4		トレンチ5		トレンチ6		トレンチ7	
		I層	I層	I層	I層	土坑1	I層	III層 灰褐色土	石組2	石積6	I層 南側 暗褐色土	II層 北側 灰褐色土	II層 北側 暗褐色土	II層 西側 暗褐色土	II層 西側 暗褐色土
錢貨	寛永通寶						1								
	無文錢												1		
	米5セント												1		
	錢種不明	1		0	0	0	0	4	0	0	1	0	0	4	1
煙管	沖施	雁首					2						3		
	吸口												2		
	火皿	雁首	2	1			5					1	1		
	合計		2	0	1	0	0	7	0	0	0	1	6	0	0
内盤状 製品	青磁												1		
	白磁												4		
	染付						1						1		
	色絵												8		
褐釉陶器	褐釉陶器												1		
	本土産染付						1								
	本土産磁器												1		
	沖縄産施釉陶器					1	2								
沖縄産無釉陶器	沖縄産無釉陶器						7				1	3			
	陶質土器						3						5		
	瓦					4	9	1		2	10	1		9	
	合計		0	0	0	5	23	1	0	3	16	1	1	45	0
石製品	硯						1							1	0
	碁石	1	1										1		
	器種不明					1		0	1	0	0	2	0	1	0
	合計		1	1	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0
玉(38点)	玉	1	2				11		1		11		1		38
	貝製品 (1点)	ボタン	1												1
	石器 (1点)	石斧					1								1
	木製品 (13点)	ボタン												2	2
貝製品	器種不明	4											7		11
	合計														
	出土地														
	合計														

第21表 青銅製品・鉄製品・金属製品・アルミ製品・ガラス製品出土状況

種類・器種	出土地	トレンチ1		トレンチ2		トレンチ3		トレンチ4		トレンチ5		トレンチ6		トレンチ7		表採 出土地 不明	合計	
		1層	1層	1層	1層	土坑1	1層	溝2	1層	石組2	石積6	1層	石積1	III層	III層	石組1		
青銅 製品	簪																4	
	匙																1	
	釘	2					7										19	
	角釘	16	2				1										41	
	針																1	
	鍵	1															1	
	弾丸	1	1				2										9	
	薬莢	1	1														5	
	器種不明	2	3	3		1	1	4		39				16		2	1	
	合計	7	21	5	0	1	1	14	0	0	0	0	0	35	0	0	193	
鉄製品	釘	7				1	8						1			4		21
	角釘		10			6	1		19		3		32		9		81	
	丸釘		2			11	1		6		5		2				27	
	弾丸		1														1	
	針金											1					1	
	ボタン	1															1	
	鉄錠								1								2	
	器種不明	10	12	2	1	5	2	4	1	1	18	12	2	37	3	1	124	
金属 製品 (4点)	合計	18	13	14	1	5	3	29	3	1	44	12	0	5	1	15	1	258
	指輪															1	1	
	器種不明														1		2	
アルミ 製品 (1点)	ガラス瓶 インク入り													1			1	
	ガラス製品 器種不明	22	86	12	3	1	80			23	1		18		31	1	1	
	合計	22	86	12	0	3	1	80	0	0	24	0	1	0	31	0	1	
															0	1	289	

第22表 その他遺物出土状況

種類	出土地	トレンチ1	トレンチ2	トレンチ3			トレンチ4		トレンチ5						
				I層	I層	I層	Ⅲ層	石組3	土坑1	I層	溝2	I層	Ⅲ層	石組2	石積6
							赤褐色土	北側Ⅲ層 赤褐色土	I層 暗褐色土		I層 赤褐色土		褐色土	サンゴ層	Ⅲ層 暗褐色土
墓誌 (1点)									1						
碍子 (21点)		4	2								1				
タイル (20点)		3	1						9						
プラスチック (17点)									3		7				
土管 (45点)									9		16				
土壁 (1点)								1							
石材 (90点)		2		3	3	5			2		17	1	1	8	2
炭 (37点)					1				4	2	3			16	1
焼土 (92点)		5			4					3		1		8	
不明 (2点)		2													

種類	出土地	トレンチ6		トレンチ7									合計	
		I層	石積2	I層	Ⅲ層			石組1			石積7			
			西側Ⅲ層 暗褐色土		赤褐色土	褐色土	黒褐色土	Ⅲ層	Ⅲ層 暗褐色土	Ⅲ層 褐色土	Ⅲ層 瓦層	南側Ⅲ層 褐色土	南側Ⅲ層 黄褐色土	
墓誌														1
碍子	6		8											21
タイル	6		1											20
プラスチック	2		5											17
土管	8		12											45
土壁														1
石材	12	3	7	2		1			14	4	1	1	1	90
炭	2		1			2	1	1	1	2				37
焼土					1			2	13	1	54			92
不明														2





トレンチ5				トレンチ6												トレンチ7												合計			個体数					
石積6				I層		石積1						石積2						I層		石積7						出土地 不明			個体数							
南側		北側				III層 赤褐色土			北側			III層 灰褐色土			北側			III層 褐色土			西側			III層 暗褐色土			南側		III層 黄褐色土		南側		III層 褐色土		個体数	
完形	殻頂	破片	完形	殻頂	破片	完形	殻頂	破片	完形	殻頂	破片	完形	殻頂	破片	完形	殻頂	破片	完形	殻頂	破片	完形	殻頂	破片	完形	殻頂	破片	完形	殻頂	破片	合計	個体数					
0	0	1	0	1	1	11	8	35	1	2	1	0	0	2	0	1	1	0	0	1	26	7	28	1	0	0	0	0	1	4	1	3	156	65	168	230





第25表 見類出土状況(二枚貝)c

番号	網名	科名	貝種名	生息地	トレンチ7								石棟7								出土地 不明								個体 数
					南側 III層 褐色土				北側 III層 褐色土				南側 III層 黄褐色土				完形 破片				完形 破片				完形 破片				
					完形	縫頂	破	L R	完形	縫頂	破	L R	完形	縫頂	破	L R	完形	縫頂	破	L R	完形	縫頂	破	L R	完形	縫頂	破		
1		エガイ科	エガイ オオミノエガイ	I-1-a	1																	2	1	0	0	0	0	0	2
2		フネガイ科	ベニエガイ リユウキョウサルボオ	I-2-a II-2-c																		1	0	0	0	0	0	0	1
3		タマキガイ科	ソメワタリ	II-2-c																		0	1	0	0	0	0	0	1
4		イタヤガイ科	イタヤガイ イタヤガイの一種																			0	2	0	0	0	0	0	2
5		ウミヂク科	ムンガイの一種																			12	2	1	0	9	13		
6		イタボガキ科	ニセマガキ ノヨリガキ	II-1-b																		1	1	0	1	0	0	0	2
7		ツキガイ科	ウラキツキガイ	II-2-c		1																0	1	0	0	0	0	0	1
8		カゴガイ科	カゴガイ																			20	25	2	10	9	35		
9		ケイドガイ?																				0	0	0	1	2	1		
10		シロキクザル	シシガシラキクザル	I-2-a																		0	4	0	0	0	0	0	4
11		キクザルガイ科	シラガザル																			0	2	0	0	0	0	0	2
12		キクザル	キクザルの一種																			0	1	0	0	0	0	0	2
13		ザルガイ科	リュウキョウザル	II-2-c																		0	0	0	1	0	0	0	1
14		カワラガイ科	カワラガイ	II-2-c																		2	0	0	1	0	0	0	2
15		ヒビヤコガイ科	ヒビヤコガイ	I-2-a																		1	1	0	1	0	0	0	4
16		シャコガイ科	オオシナナミ	I-2-c																		1	1	0	0	0	0	0	2
17		チャコガイ科	シャコガイ科不明	I-2-a																		0	2	0	0	0	0	0	2
18		ニシコウガイ科	イソハマグ	I-1-c																		0	0	0	1	0	0	1	1
19		シオサザニミ科	ニシコウガイ	II-2-c																		2	0	0	1	0	0	0	2
20		マルズダレガイ科	リュウキョウランブトリ	II-1-c																		2	1	0	0	0	4	2	
21		マルズダレガイ科	リュウキョウマヌスキ	II-1-c																		1	1	0	1	0	0	1	2
22		スノマガイ科	スノマガイ	I-2-c																		0	0	4	22	4			
23		カノコアサリ	カノコアサリ	I-1-c																		1	1	0	0	0	0	1	1
24		マルズダレガイ科	マルズダレガイ科	III-1-c																		0	0	0	0	0	0	13	1
25		アラシシマニガイ	アラシシマニガイ	I-1-c																		4	1	1	2	0	5		
26		ホソスジナミガイ	ホソスジナミガイ	I-2-c																		0	0	1	0	0	0	1	1
27		オイカガミ	オイカガミ	II-1-c																		0	0	0	0	0	0	1	1
28		シオサザニミ科	リュウキョウマヌスキ	II-1-c																		0	0	0	0	0	4	1	
29		マルズダレガイ科	マルズダレガイ	I-2-c																		1	1	0	0	0	1		
30		カノコアサリ	カノコアサリ	I-1-c																		0	0	1	0	1	1		
31		マルズダレガイ科	マルズダレガイ科	III-1-c																		1	0	0	0	0	0	1	
32		アラシシマニガイ	アラシシマニガイ	I-1-c																		16	15	3	2	2	19		
33		マルズダレガイ科	マルズダレガイ科	I-2-a																		2	0	0	0	0	2		
34		オイカガミ	オイカガミ	I-1-c																		3	2	1	1	8	4		
35		ハマグリの一種	ハマグリの一種	II-1-c																		1	0	0	0	0	1	10	4
36		オキシジミ	オキシジミ	III-1-c																		1	0	0	2	0	2		
37		二枚貝不明	二枚貝不明																		1	1	0	0	0	16	1		
38		合 計	合 計		1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	5	3	0	1	0	94	91	15	36	105	157	

第26表 魚類出土量

目/科/種名	出土地			トレンチ1		トレンチ4		トレンチ5		トレンチ6		トレンチ7			出土地 不明	合計	個体数		
				I層		I層 褐色土		I層		石組2		I層		石組1					
			III層 暗褐色土												III層 瓦層		III層 褐色土		
メジロザメ目	メジロザメ科	メジロザメ	脊椎骨												4		4	1	
ダツ目	ダツ科		前上顎骨	R	L	1												1	0
スズキ目	ハタ科		歯骨	R	L						1							0	1
	タイ科	クロダイ	歯骨	R	L					1								1	0
	フエキダイ科?		脊椎骨								2			1				3	1
	ベラ科	コブダイ	下咽頭骨				1											1	1
	ブダイ科	ナンヨウブダイ	前上顎骨	R	L				1									0	1
科・種不明			前鰓蓋骨	R	L								1					1	0
			鱗棘									1						1	
			脊椎骨						2									2	
			部位不明						1	2(1)		1(2)			1	1(1)	1(1)	2	14
合 計						2		1	6		7		1	7		2	2	30	8

注 ( ):破片

第27表 ヒト出土一覧

部位	残存部位	出土地	個数
上顎骨	小白歯	トレンチ7 III層 褐色土	1

第28表 トリ類出土量

種/部位/残存部位	出土地			トレンチ5			トレンチ7			出土地 不明			合計					
				石組2		I層		石組1										
	III層 暗褐色土						III層 褐色土											
L	R	不明	L	R	不明	L	R	不明	L	R	不明	L	R	不明	L	R	不明	
ニワトリ	中手骨	近位端			1							0	1	0				
	脛骨	遠位部									1	1	0	0				
	中足骨	完存				1						1	0	0				
ニワトリ?	大腿骨	遠位部	1									1	0	0				
ニワトリ? (鳥類)	指骨							12				0	0	12				
合 計			1	0	0	0	1	0	12	1	0	0	3	1	12			

第29表 イヌ出土量

部位/残存部位	出土地			トレンチ5				トレンチ7				合計			
				I層		石組2		I層		石組1					
	L	R	不明	L	R	不明	L	R	不明	L	R	不明			
椎体	環椎		1							0	0	1			
上腕骨	遠位端はずれ	1								0	1	0			
尺骨	近位部			1						0	1	0			
大腿骨	骨体				1					1	0	0			
脛骨	遠位端					1				0	1	0			
中足骨	II 近位端						1			0	1	0			
合 計			0	1	1	0	1	0	1	2	0	1	4	1	

第30表 プタ歯出土一覧

部位	左/右	残存部位	出土地		個数
			切歯		
上顎骨	右	M <sup>1</sup>	トレンチ5 I層	(1)	
			トレンチ7 I層	1	
	左	M <sub>1</sub>	トレンチ5 I層	1	
下顎骨	犬歯		トレンチ6 I層	♂ 1	
	左	P <sub>4</sub>	トレンチ7 I層	1	
	右	M <sub>1</sub>	トレンチ5 I層	1	
	右	M <sub>2</sub>	トレンチ5 I層	1	
			左	M <sub>3</sub>	トレンチ5 I層 (1)
歯			トレンチ5 I層	(1)	

注 ( ):破片、♂:オス。



第34表 ウシカウマ出土量

部位/残存部位	出土地		トレンチ2		トレンチ4		トレンチ5		トレンチ6		トレンチ7		合計
	L	R	1層	III層 褐色土	1層	石組2 暗褐色土	1層	石組2 暗褐色土	1層	石組2 暗褐色土	1層	石組1 褐色土	
椎体	不	明					不	L	R	不	L	R	不
胸椎							明			明			明
椎体 破片											1	0	1
肩甲骨	不	明					明			明			明
肩甲骨 破片											2	0	2
尺骨	骨体										1	0	1
四肢骨	破片										1	0	1
部位不明	破片										1	0	1
合計	0	0	1	0	0	1	0	0	3	0	0	1	14

注 ( ) : 破片

第35表 ヤギ出土量

部位/残存部位	出土地		トレンチ7		トレンチ5		トレンチ6		トレンチ6		トレンチ7		合計		
			I層		石組2 暗褐色土		I層		石組2 暗褐色土		I層				
	L	R	不	明	L	R	不	明	L	R	不	明	L	R	不明
上頸骨	M												(2)	0	2
下頸骨	M <sub>1,or2</sub>												(1)	1	0
肩甲骨	M <sub>3</sub>												(1)	1	0
肩甲骨 遠位端														0	1
上腕骨														0	1
橈骨														0	1
寛骨														1	0
臼部														1	0
近位骨端はすれ～骨体														1	0
大腿骨														1	0
遠位骨端はすれ														1	0
近位端～遠位端はすれ														0	1
中足骨														0	1
基節骨														0	1
合計	0	0	1	0	0	1	0	0	3	0	0	1	1	6	14

注 ( ) : 破片

第36表 種不明出土量

部位/残存部位	出土地		トレンチ3		トレンチ4		トレンチ5		トレンチ6		トレンチ7		合計
	L	R	1層	ビックト1 I層 褐色土	III層 赤褐色土	1層	III層 褐色土	1層	石積6 南側 暗褐色土	石積6 南側 暗褐色土	1層	石積1 赤褐色土	
頭骨	側頭骨(岩様骨)								不	L	R	不	L
椎体	頸椎								明			明	明
椎体	椎体												0
肋骨	遠位端												2
肋骨?	破片												1
肋骨?													①
肩甲骨	破片												1
肩甲骨	遠位部												1
上腕骨	遠位部												1
寛骨	破片												1
大腿骨	遠位端												2
骨体													1
四肢骨	破片												1
部位不明	骨体												0
部位不明	破片												2
合計	0	0	2	0	0	1	0	0	3	0	0	4	14

注 ( ) : 破片、○:か少トマーク

## 第5章 自然科学分析

### はじめに

中城御殿は、沖縄県那覇市首里に所在し、首里城から北へ約250mほど離れた台地上に位置する。台地は第四紀更新世の琉球層群の那覇層を構成する碎屑性石灰岩（氏家・兼子, 2006）いわゆる琉球石灰岩からなる。発掘調査では、琉球国王の世子の邸宅とされる中城御殿に関わる多数の遺構や遺物が確認されている。

本報告では、調査区より検出された石組み遺構が、トイレの可能性が指摘されていることから、用途に関する検討を行うため、寄生虫卵分析、微細物分析、土壤理化学分析を実施する。

### 1. 試料

対象とする遺構は、平成23年度発掘調査トレンチの内、最も西側に位置するトレンチ7で検出された石組み1である。遺構覆土は一括してⅢ層とされているが、概ね3層に細分されており、上位より暗褐色土、瓦層、褐色土とされている。暗褐色土は砂質で締まりが無く、木片を含む。瓦層は赤褐色土を含む。褐色土は砂質で締まりが無く、瓦、ガラス、獸骨、木炭、石灰岩礫などを含む。

これら3点の土壤を対象に、寄生虫卵分析、微細物分析、土壤理化学分析を実施する。なお、微細物分析については、動物遺体の回収を試みるため、暗褐色土、瓦層、褐色土の一括試料も対象とする。

### 2. 分析方法

#### (1) 寄生虫卵分析

試料10ccを正確に秤り取る。これについて水酸化カリウムによる泥化、篩別、重液（臭化亜鉛、比重2.3）による有機物の分離の順に物理・化学的処理を施し、寄生虫卵および花粉・胞子を分離・濃集する。処理後の残渣を定容してから一部をとり、グリセリンで封入してプレパラートを作製し、400倍の光学顕微鏡下でプレパラート全面を走査して出現する全ての寄生虫卵と花粉・胞子化石について同定・計数する。同定に際しては、当社保有の現生標本の他、寄生虫卵は佐伯ほか(1998)、斎藤・田中(2007)等を、花粉化石は島倉(1973)、中村(1980)、藤木・小澤(2007)等を参考にする。

結果は、寄生虫卵については堆積物1ccあたりに含まれる寄生虫卵の個数を一覧表として、花粉・胞子化石については同定および計数結果の一覧表として表示する。また、花粉・胞子数については、堆積物1ccあたりに含まれる個数も併せて示す。寄生虫卵、および花粉・胞子数については有効数字を考慮し、10の位を四捨五入して100単位に丸める。また、100個体未満は「<100」で表示し、合計は各分類群の丸めない数字を合計した後に丸める。

#### (2) 微細物分析

試料450～1000gを容器に広げ、常温で数日乾燥させる。乾燥後の試料を肉眼やルーペで観察し、炭化物や動物遺存体などの遺物を拾い出す。水を満たした容器に乾燥抽出後の試料を投入し、浮いた炭化物をすくい取って回収する。容器を傾斜させて浮いた炭化物を粒径0.5mmの篩に回収する。容器内の残土に水を入れて軽く攪拌した後、容器を傾斜させて回収する作業を炭化物が浮かなくなるまで繰り返す(20回程度)。残土を粒径0.5mmの篩を通して水洗する。篩内の試料を粒径別にシャーレに集めて双眼実体顕微鏡下で観察し、ピンセットを用いて、種実や炭化材(主に径4mm以上)、動物遺存体、土製品、ガラス製品などの遺物を抽出する。

抽出された遺物は、状態に応じて、点数または乾燥後の重量を記録し、結果を一覧表で示す。

炭化材は最大径を併記し、一部を同定対象とする。種実遺体の同定は、現生標本と石川(1994)、中山ほか(2000)等との対照より実施する。動物遺体は、形態的特徴による大分類にとどめる。分析後は、抽出物と分析残渣を容器に入れて保存する。

### (3) 土壌理化学分析

対象とする石組み遺構は、トイレとして利用された可能性も考えらるため、尿中に含まれているであろう窒素、リン酸、カリウム、ナトリウム、塩素イオン、尿中のたんぱく質に含まれる硫酸イオン、硝酸イオンを中心検討するため、水溶性陽イオン(ナトリウム・カリウム)と陰イオン(塩素・硫酸・硝酸)、有機炭素、全窒素、全リン酸について分析を実施する。また、食していたものにもよるが、糞中には窒素やリン酸が多く含まれているとされている。

水溶性ナトリウム・カリウムは水抽出一原子吸光法、水溶性塩素・硫酸・硝酸イオンは水抽出一液体クロマトグラフィー法、有機炭素はチューリン法、全窒素量は硫酸分解一水蒸気蒸留法、全リン酸は硝酸・過塩素酸分解一バナドモリブデン酸比色法(土壤標準分析・測定法委員会, 1986; 土壤環境分析法編集委員会, 1997)に準ずる。以下に各項目の操作工程を示す。

#### 1) 試料調整

試料を風乾後、土塊を軽く崩して2mmの篩でふるい分けをする。この篩通過試料を風乾細土試料とし、分析に供する。また、風乾細土試料の一部を乳鉢で粉碎し、0.5mm篩を全通させ、粉碎土試料を作成する。風乾細土試料については、105°Cで4時間乾燥し、分析試料水分を求める。

#### 2) 水溶性ナトリウム・カリウムイオン [W- Na<sup>+</sup>, K<sup>+</sup>]

風乾細土試料10.0gを秤りとり、50mlの純水を加えて1時間振とうする。振とう後、抽出した水溶液をメンプランフィルターを用いて濾過した後、原子吸光法により各イオン濃度を測定する。この測定値と加熱減量法で求めた水分量から乾土あたりの水溶性ナトリウム・カリウム量を求める。結果はmg/kgで表示する。

#### 3) 水溶性塩素・硫酸・硝酸イオン [W-C1<sup>-</sup>, SO<sub>4</sub><sup>2-</sup>, NO<sub>3</sub><sup>-</sup>]

風乾細土試料10.0gを秤りとり、50mlの純水を加えて1時間振とうする。振とう後、抽出した水溶液をメンプランフィルターを用いて濾過した後、液体クロマトグラフィーにより各イオン濃度を測定する。これら測定値と加熱減量法で求めた水分量から乾土あたりの水溶性塩素・硫酸・硝酸イオン量を求める。結果はmg/kgで表示する。

#### 4) 有機炭素

粉碎土試料0.100~0.300gを100ml三角フラスコに正確に秤とり、0.4Nクロム酸・硫酸混液10mlを正確に加え、約200°Cの砂浴上で正確に5分間煮沸する。冷却後、0.2%フェニルアントラニル酸液を指示薬に0.2N硫酸第一鉄アンモニウム液で滴定する。滴定値および加熱減量法で求めた水分量から乾土あたりの有機炭素量(Org-C乾土%)を求める。これに1.724を乗じて腐植含量(%)を算出する。

#### 5) 全窒素

粉碎土試料1.00gをケルダール分解フラスコに秤とり、分解剤約3.0gと硫酸10mlを加え加熱分解する。分解後、蒸留水約30mlを加え放冷した後、分解液全量を供試し水蒸気蒸留法によって窒素を定量する。この定量値と加熱減量法で求めた水分量から乾土あたりの全窒素量(T-N%)を求める。また、有機炭素量を全窒素量で除し、C/N(炭素率)を算出する。

#### 6) リン酸含量

粉碎土試料1.00gをケルダール分解フラスコに秤量し、はじめに硝酸(HNO<sub>3</sub>)約10mlを加えて加熱分解する。放冷後、過塩素酸(HClO<sub>4</sub>)約10mlを加えて再び加熱分解を行う。分解終了後、水で100mlに定容し、濾過する。濾液の一定量を試験管に採取し、リン酸発色液を加えて分光光度計によりリン酸(P<sub>2</sub>O<sub>5</sub>)濃度を測定する。測定値と加熱減量法で求めた水分量から乾土あたりのリン酸含量(P<sub>2</sub>O<sub>5</sub>mg/g)を求める。

### 3. 結果

#### (1) 寄生虫卵分析

結果を第37表に示す。寄生虫卵は、最下位の褐色土より回虫卵が検出されるものの含有量は少なく、堆積物 1 ccあたり 100 個体未満である。花粉・胞子数は試料により大きく異なり、暗褐色土で約 7,100 個/cc、瓦層で約 100 個/cc、褐色土で約 400 個/cc である。

検出された花粉化石についてみると、瓦層、褐色土は花粉群集が類似しており、木本花粉の割合が高く、マツ属が多産する。その他ではコナラ属アカガシ亜属、イボタノキ属などが検出される。草本花粉は少ないながらもイネ科、カヤツリグサ科、サナエタデ節—ウナギツカミ節、タンポポ亜科が認められる。花粉化石の保存状態は全体的に悪く、花粉外膜が破損あるいは溶解しているものが多く認められる。

これに対し、最上位の暗褐色土では群集組成が大きく異なり、草本花粉が多産し、そのほとんどをアカザ科が占める。その他ではイネ科、カヤツリグサ科、サナエタデ節—ウナギツカミ節、ナデシコ科、アブラナ科、キク亜科、タンポポ亜科を伴う。木本花粉は少ないながらも、ソテツ属、マキ属、マツ属、アカガシ亜属、シイ属、ニレ属—ケヤキ属が認められた。保存状態は、下位試料と比較するとやや良好であるが、やはり花粉外膜が破損・溶解しているものが認められる。

#### (2) 微細物分析

結果を表38表に示す。3 試料を通じて、炭化材 8.7g、種実 6 点、貝類 2 g、骨片、昆虫、玉製品 3 点、ガラス片 6 点、金箔製品 0.5g、金属製品 9.4g、土製品 220g などの遺物が確認された。

炭化材は、褐色土と瓦層から多く確認され、最大径は、褐色土で 1.7 cm を測る。また、状態が良好な一部の炭化材を対象に樹種同定を試みた結果、マツ属複維管束亜属、アカテツ属に同定された。

種実遺体は、褐色土から草本のカタバミ属の種子が 1 点、瓦層から草本のエノコログサ属の果実が 2 点、暗褐色土から広葉樹のアカメガシワ属の種子が 3 点確認されるのみであった。その他に、一括試料から沈水植物(根が水に固着し、植物体全体が水中に沈む植物)のシャジクモ科の卵胞子が 5 点確認された。

動物遺存体は、一括試料から、環形動物のゴカイ類?や、マイマイ類、巻貝類(海産)、二枚貝類(海産)の貝殻(焼貝を含む)、魚類や鳥類?、獸類の骨片(焼骨を含む)などが確認された。褐色土から骨片が多く確認される傾向がある。

無機質遺物では、土製品が最も多く確認され、特に瓦層で多い。赤～灰褐色を呈し、緻密な作りと粗雑な作りが確認された。これらは、異なる製品(例えば瓦、土壁など)に由来する可能性があることから、大きく分けて取り扱っている。粗雑な土製品 1 点には装飾と考えられる模様が確認された。

その他に、金属製品が 3 試料から確認された。釘状の酸化鉄で、周辺には酸化鉄に置換された木

第37表 寄生虫卵分析結果

種類	トレンチ7石組み1		
	暗褐色土	Ⅲ層 瓦層	褐色土
寄生虫卵[個/cc]			<100
回虫卵	-	-	
木本花粉			
ソテツ属	1	-	-
マキ属	1	-	-
マツ属複維管束亜属	2	8	8
マツ属(不明)	7	36	46
コナラ属アカガシ亜属	2	1	1
シイ属	1	-	-
ニレ属—ケヤキ属	1	-	-
イボタノキ属	-	-	1
草本花粉			
イネ科	3	-	5
カヤツリグサ科	1	2	2
サナエタデ節—ウナギツカミ節	1	3	1
アカザ科	558	-	-
ナデシコ科	1	-	-
アブラナ科	1	-	-
キク亜科	3	-	-
タンポポ亜科	6	1	3
不明花粉	8	2	5
シダ類胞子			
イノモツウ属	1	7	6
他のシダ類胞子	25	17	24
合計			
木本花粉	15	45	56
草本花粉	574	6	11
不明花粉	8	2	5
シダ類胞子	26	24	30
総計	623	77	102
花粉・胞子数[個/cc]	7100	100	400

1)寄生虫卵、花粉・胞子数については、10の位を四捨五入して100単位に丸めている。

2)<100:100個体未満。

第38表 微細物分析結果

種類	トレンチ7 石組み1 Ⅲ層				備考
	暗褐色土	瓦層	褐色土	一括	
植物遺体					乾重
炭化材					
径2mm以上	0.78g	1.65g	2.00g	-	
0.8cm	1.0cm	1.7cm	-	-	最大径
マツ属複維管束亜属	2点	1点	2点	-	
アカテツ属	-	1点	-	-	
炭化材主体					
径2~1mm	-	-	1.19g	-	
径1~0.5mm	0.56g	0.60g	1.92g	-	
不明炭化物	-	-	0.01g	-	乾重, 昆虫類の糞?
種実					
アカメガシワ属 種子	-	-	3点	-	0.01g未満
エノコログサ属 果実	2点	-	-	-	0.01g未満
カタバミ属 種子	-	1点	-	-	0.01g未満
車軸藻類					
シャジクモ科 卵胞子	-	-	-	5点	0.01g未満
動物遺体					乾重
環形動物					
ゴカイ類? 破片	-	-	-	3点	
貝類					
マイマイ類	-	-	-	0.09g	
巻貝類(海産)	-	-	-	3点	コモンスソキレ, カンギクなど
巻貝類 破片	0.42g	0.03g	0.94g	1.55g 2.07g	6点+ 86点
巻貝類 破片(焼貝)	-	-	-	6点	トヤマガイ科 リュウキュウシラトリ?
二枚貝類(海産)					アラスジケマンガイ?など
二枚貝類 破片	-	<0.01g	<0.01g	0.71g	7点
二枚貝類 破片(焼貝)	-			0.09g	3点
貝類 破片	0.27g	0.13g	0.27g	0.49g	31点
貝類 破片(焼貝)	-			0.24g	13点
骨片					
魚類 破片	-	-	-	70点	ニシン科, コイ科・コイ科? フサカサゴ科?, サバ科?, ハタ科?など (歯・椎骨・鱗・鰓棘など)
魚類? 破片	-	-	-	1点	歯牙
鳥類? 破片	-	-	-	2点	中節骨近位端片, 四肢骨片
獸類 破片	-	-	-	6点	ネズミ類歯牙
獸類 破片(焼骨)	-	-	-	0.07g	種類不明四肢骨, 中節骨など
不明骨片 破片	-	-	-	0.30g	6点
昆虫類					
昆虫類 破片	-	-	1点	1点	0.01g未満
無機質遺物					乾重
玉製品	-	-	0.04g	-	完形2点, 破片1点
ガラス片	0.08g	-	0.14g	-	暗褐色土:1点, 褐色土:5点
金箔製品	-	-	0.51g	-	
金属製品(釘)	0.40g	5.54g	3.45g	-	金属に置換した木材片を含む
土製品(緻密)	5.76g	20.88g	28.64g	-	
土製品(粗雑)	5.64g	129.70g	29.79g	-	瓦層:1点装飾
岩片類(石灰岩・サンゴ片など)	30.08g	41.62g	87.37g	-	
その他(未分類; 径4mm以上)	18.25g	63.91g	45.86g	-	
残渣					
径4~2mm	38.37g	53.08g	50.14g	-	
径2~1mm	33.41g	15.49g	48.75g	-	
径1~0.5mm	6.25g	8.47g	3.80g	-	
分析量(g)	451g	900g	1012g	4302g	湿重

材片が残存していた。おそらく、建築部材の木材を釘打ちした状態で残存したと考えられる。

ガラス片は、暗褐色土から1点、褐色土から5点確認され、透明、白色、青色などの複数の色が確認される。

玉製品は、褐色土から3点確認された。1点は半分未満の破片で、緑色を呈すガラス製品と考えられる。1点は完形品で、無色透明のガラス製品である。1点は完形品で、透明感は皆無である。表面には微細な円形の窪みが密布し、真珠に似た光沢がある。一部は灰褐色の薄い膜が覆う。ガラス製ではない可能性がある。

金箔製品と考えられる破片は、褐色土より数点確認された。破片の表面および断面を実体顕微鏡下で確認した結果、灰色の泥の層の上に、灰褐色の植物繊維で微細な正方形の格子状に編まれた層、白色物質(漆喰の可能性)の層、金色を呈す層(金箔の可能性)の薄い膜などが確認され、これらの薄膜を重ねることによって製作された遺物に由来する可能性が高い。

### (3) 土壤理化学分析

結果を第39表に示す。野外土性(ペドロジスト懇談会編, 1984)は、暗褐色土でCL(埴壌土)、瓦層と褐色土でLiC(軽埴土)である。土色は、暗褐色土で7.5YR 3/2 黒褐、瓦層で7.5R 3/3 暗褐、褐色土で7.5YR 2/3 極暗褐である。また、試料全てにおいて、石灰岩の破片が混入しており、炭酸塩の反応も極強石灰質を呈した。炭酸塩の反応とは、炭酸カルシウムや菱鉄鉱〈炭酸第一鉄〉などが希酸と反応して炭酸ガスを放ち発泡することを利用して炭酸塩含量の判定を行うことである。炭酸カルシウムは、わが国では、石灰岩土壤中に石灰岩の破片として出現する。

水溶性イオンは、暗褐色土において、ナトリウムイオンが17mg/kg、カリウムイオンが24mg/kg、塩素イオンが7.9mg/kg、硫酸イオンが13mg/kg、硝酸イオンが5.8mg/kgである。瓦層では、ナトリウムイオンが24mg/kg、カリウムイオンが17mg/kg、塩素イオンが8.2mg/kg、硫酸イオンが14mg/kg、硝酸イオンが9.4mg/kgである。褐色土では、ナトリウムイオンが25mg/kg、カリウムイオンが19mg/kg、塩素イオンが6.4mg/kg、硫酸イオンが65mg/kg、硝酸イオンが47mg/kgである。陽イオンについては大きな変化がないが、陰イオン( $\text{SO}_4^{2-}$ ,  $\text{NO}_3^-$ )では、褐色土において若干高い値を示した。

腐植含量は、暗褐色土で1.29%、瓦層で1.72%、褐色土で3.34%である。全窒素は、暗褐色土で0.07%、瓦層で0.10%、褐色土で0.17%であり、C/N比はいずれも10前後であり一般的な値である。

全リン酸は、暗褐色土で6.79mg/g、瓦層で5.82mg/g、褐色土で28.9mg/gであり、褐色土では著しく高い値である。

第39表 土壤理化学分析結果

トレンチ	遺構名	層名	土色	土性	水溶性イオン(mg/kg)					有機炭素 (%)	腐植 (%)	全窒素 (%)	C/N	全リン酸 $\text{P}_2\text{O}_5$ (mg/g)	備考						
					陽イオン		陰イオン														
					$\text{Na}^+$	$\text{K}^+$	$\text{Cl}^-$	$\text{SO}_4^{2-}$	$\text{NO}_3^-$												
トレンチ7	石組み1	暗褐色土	7.5YR 3/2 黒褐	CL	17	12	7.9	13	5.8	0.75	1.29	0.07	11	6.79	極強石灰質						
		瓦層	7.5YR 3/3 暗褐	LiC	24	17	8.2	14	9.4	1.00	1.72	0.10	10	5.82	極強石灰質						
		褐色土	7.5YR 2/3 極暗褐	LiC	25	19	6.4	65	47.2	1.94	3.34	0.17	11	28.9	極強石灰質						

1) 土性: 土壤調査ハンドブック(ペドロジスト懇談会編, 1984)の野外土性による。

CL…埴壌土(粘土15~25%、シルト20~45%、砂3~65%)

LiC…軽埴土(粘土25~45%、シルト0~45%、砂10~55%)

2) 土色: マンセル表色系に準じた新版標準土色帖(農林省農林水産技術会議監修, 1967)による。

3) 腐植: 有機炭素量 × 1.724。

4) C/N: 有機炭素量 ÷ 全窒素量。

5) 炭酸塩の反応基準土壤調査ハンドブック(ペドロジスト懇談会編, 1984)。

区分	区分	基準
非石灰質	非石灰質	音によって発泡が認められない
弱石灰質	弱石灰質	音によってのみ発泡が認められる
中石灰質	中石灰質	発泡が認められる
強石灰質	強石灰質	激しく発泡し、泡が薄い層を形成する
極強石灰質	極強石灰質	非常に激しく発泡し、泡が厚い層を形成する

#### 4. 考察

調査区トレンチ7で検出された石組み1は、調査所見からトイレの可能性が指摘されたことから、自然科学分析より検証を試みる。

寄生虫卵は普通の土壤中にも含まれるが、糞便などの堆積物で多産する調査事例も報告されている(例えば金原・金原, 1992, 1993; 金原ほか, 1995aなど)ことから、トイレ遺構検証に有効である。

トイレ遺構の検証例については、福岡県の鴻臚館跡や石川県の大宮坊跡で報告されており、 $1\text{cm}^3$ あたり1万～数万個の寄生虫卵が検出されている(金原・金原, 1994; 金原ほか, 1995a)。また、 $1\text{cm}^3$ あたり100個未満については、ある程度の人口密度を持つ集落による汚染の範囲内とみなされている(金原ほか, 1995a, b)。

石組み1の結果をみると、最下位に当たる褐色土より回虫卵が検出されるが、その含有量は堆積物1ccあたり100個体未満である。寄生虫卵の分解に対する抵抗性は花粉化石と同程度とされているが(黒崎ほか, 1993)、各試料の花粉・胞子数をみると、暗褐色土で約7,100個/cc、瓦層で約100個/cc、褐色土で約400個/ccとなっており、褐色土の含量は多いとは言えない。このことから、花粉化石と同様に寄生虫卵も分解・消失した可能性があり、今回の結果が汚染の範囲内かどうかの判断は付けにくい。

花粉化石の産状についてみると、最上位の暗褐色土においてアカザ科が顕著に多産する。トイレ遺構などの場合、花ごと食べる種類(たとえばアブラナ科など)が多産することがあるが、アカザ科はそれに該当しないことから、アカザ科の植物体自体が遺構内に混入したことが窺える。種実遺体からも、食料残渣と思われる種類は検出されなかった。このことから、植物化石からトイレ遺構の可能性を支持することはできない。炭化材は、当時の本遺跡周辺域の森林などに生育していたものに由来すると推定されるが、遺構内で炭化したのか、別の場所で炭化した木材が遺構内に廃棄されたのかについては、現段階で判断することはできない。

一方、土壤の理化学性についてみると、褐色土のみで、尿中のたんぱく質に含まれる水溶性硫酸イオン、硝酸イオンが高いことが認められる。硝酸イオンは窒素量により増減するが、硫酸イオンは移動しにくく、動物性タンパク質に多く含まれる。このことから、尿成分を排泄したなどの外的要因による影響が考えられる。ただし、絶対量から見ると決して多いとは言えず、過去の類例から比較しても少ない。褐色土のリン酸含量は他の試料と比較し約4倍高い値である。沖縄土壤の一般的なリン酸含量の過去の類例(渡嘉敷, 1993)と比較しても高い値である。腐植含量の結果から、植物遺体由来のリン酸富化とも考えられるが、遺構内では糞尿成分やゴミ廃棄、遺体痕跡などによる動物遺体成分のリン酸の富化とも捉えられる。

動物遺存体は、一括試料から、環形動物のゴカイ類?や、マイマイ類、巻貝類(海産)、二枚貝類(海産)の貝殻(焼貝を含む)、魚類や鳥類?、獣類の骨片(焼骨を含む)などが確認された。陸産のマイマイ類は、遺構が埋まる過程において周辺から流れ込んだものとみられる。その他の種類をみると、海産の貝類、淡水生・海水性の魚類、鳥類の可能性がある骨、獣類などが様々な種類が産出する。また、中には灰色～灰黒色を呈しており、焼けている可能性がある貝類も含まれる。これらには食料残渣も含まれる可能性があるが、糞便に伴うものではなく、廃棄に伴う可能性が想定される。

以上の結果から、石組み1の褐色土では寄生虫卵が検出され、硫酸イオン、硝酸イオン、リン酸含量など糞尿成分に含まれるイオンが他の層より高く保持されたことから、トイレとして利用された可能性も想定される。ただし、寄生虫卵含量が少ないと、イオン組成における絶対量が少ないと、ナトリウムイオンなどの富化が確認されなかつたことなどから、トイレ遺構であるという確証までは至らない。

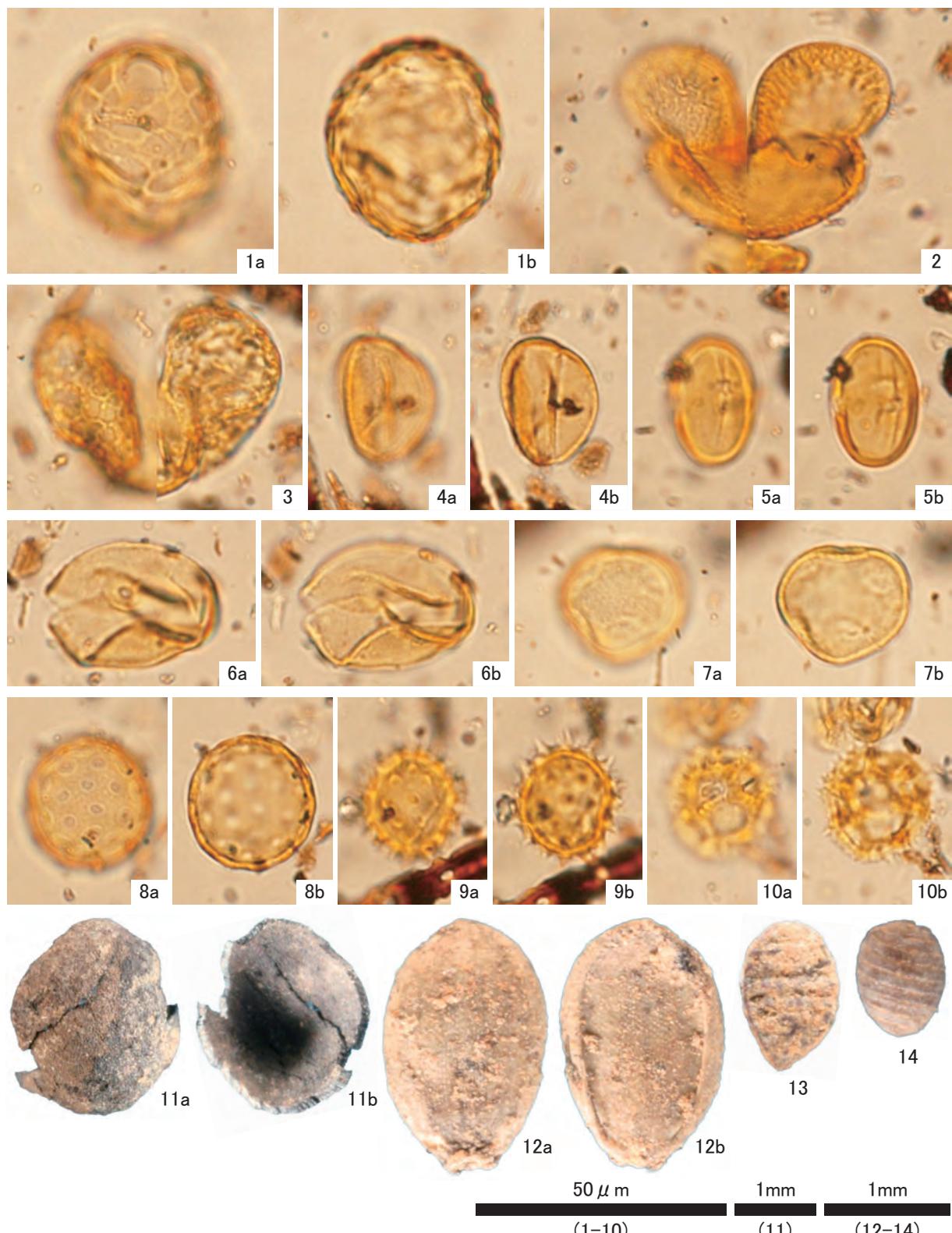
また、褐色土でアカザ科の植物体が混入していること、動物遺存体では焼けた骨や貝類も含まれること、土製品、金属製品、ガラス片、玉製品、金箔製品と考えられる破片などの無機質遺物も検出されることなどから、石組み1の瓦層、暗褐色土はゴミ穴としての利用されていた可能性が想定される。

よって、石組み1は、ゴミ穴として利用されていた、あるいはトイレとして使用していた場所をゴミ穴に変更したなどの可能性が考えられる。今後、同様の遺構における分析事例などを蓄積し、評価・検証を行っていきたい。

なお、花粉、種実、炭化材などから、木本類ではソテツ属、マキ属、マツ属複維管束亜属を含むマツ属、アカガシ亜属、シイ属、ニレ属－ケヤキ属、アカメガシワ属、アカテツ属、イボタノキ属が確認された。これらは周辺の森林や海岸植生、二次林に生育する種類や、庭木などに植栽される種類などを含むことから、中城御殿周辺に生育していたものに由来すると考えられる。草本類でも、花粉で多産するアカザ科を含め、エノコログサ属を含むイネ科、カヤツリグサ科、サンエタデ節－ウナギツカミ節、ナデシコ科、アブラナ科、カタバミ属、キク亜科、タンポポ亜科などは、いずれも開けた明るい場所に生育する「人里植物」を多く含む分類群であることから、庭や森林の林縁などに生育していたものに由来すると思われる。また、一括試料から沈水植物のシャジクモ科が確認された。シャジクモ科は、比較的水深がある水湿地環境を反映しており、周辺からの流入、または、前出の淡水生動物などとともに混入した可能性がある。

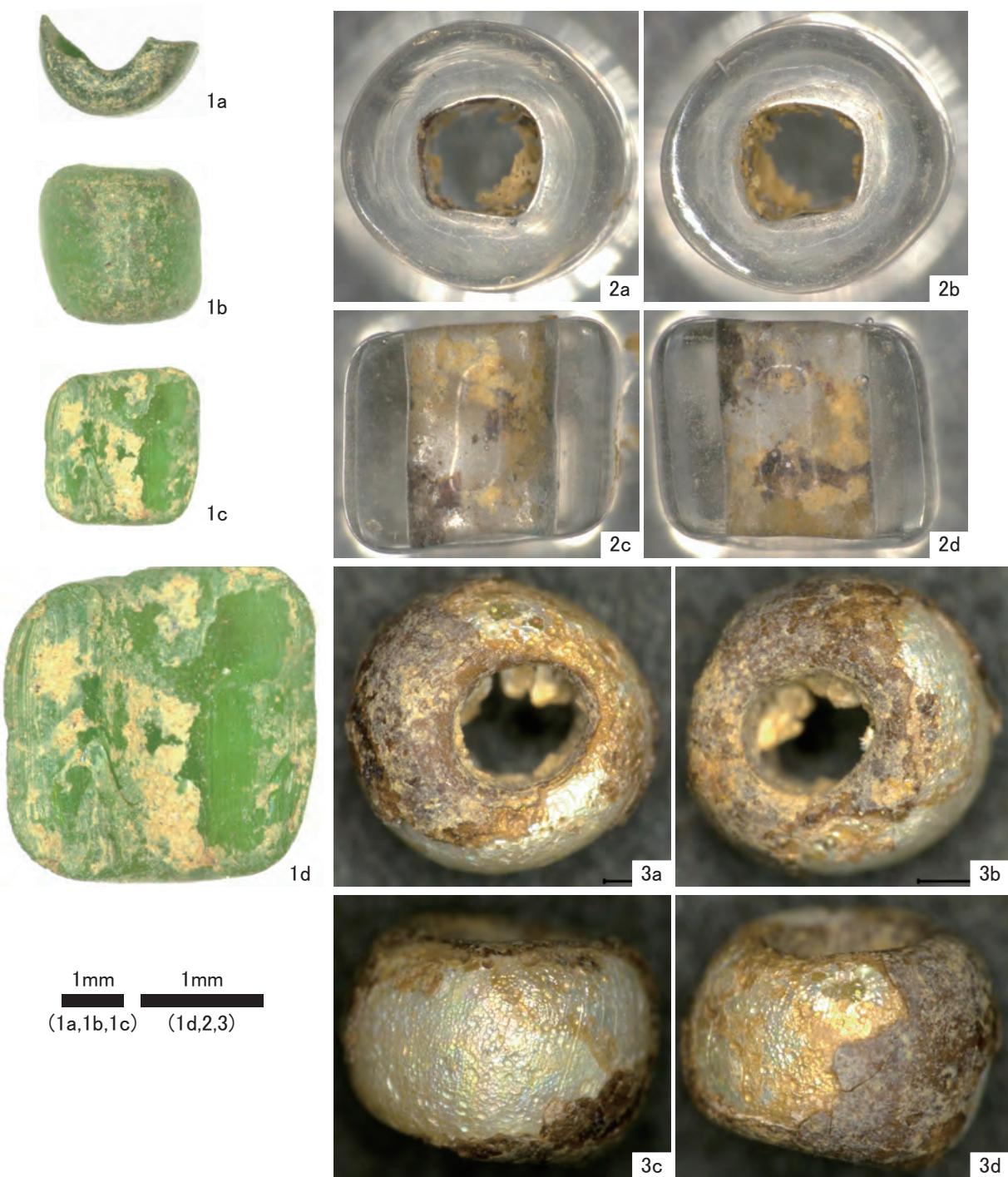
#### 引用文献

- 土壤環境分析法編集委員会編, 1997, 土壤環境分析法. 博友社, 427p.
- 土壤標準分析・測定法委員会編, 1986, 土壤標準分析・測定法. 博友社, 354p.
- 藤木利之・小澤智生, 2007, 琉球列島産植物花粉図鑑. アクアコーラル企画, 155p.
- 石川茂雄, 1994, 原色日本植物種子写真図鑑. 石川茂雄図鑑刊行委員会, 328p.
- 金原正明・金原正子, 1992, 花粉分析および寄生虫. 藤原京跡の便所遺構－右京七条一坊西北坪－, 奈良国立文化財研究所, 12-15.
- 金原正明・金原正子, 1993, 史跡松江城二ノ丸番所跡 SK-04 内堆積土の分析. 史跡松江城発掘調査報告書, 松江市教委委員会, 51-56.
- 金原正明・金原正子, 1994, 鴻臚館跡の土坑(便所遺構)における寄生虫卵・花粉・種実の同定分析. 福岡市埋蔵文化財調査報告書 第372集 鴻臚館跡4, 福岡市教育委員会, 25-38.
- 金原正明・金原正子・中村亮仁, 1995a, 大宮坊跡(廁跡)における自然科学的分析. 史跡石動山環境整備事業報告Ⅱ, 石川県鹿島町教育委員会, 51-70.
- 金原正明・金原正子・中村亮仁, 1995b, 川合遺跡八反田地区 SE402・SE405における寄生虫卵・植物遺体分析, 静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告 第63集 川合遺跡 八反田地区Ⅱ 本文編, 静岡県埋蔵文化財調査研究所, 341-354.
- 黒崎 直・松井 章・金原正明・金原正子, 1993, 糞便堆積物の分析－特に寄生虫卵分析について－. 日本文化財科学会第10回大会研究発表要旨集, 日本文化財科学会, 115-115.
- 中村 純, 1980, 日本産花粉の標徴 I II(図版). 大阪市立自然史博物館収蔵資料目録 第12, 13集, 91p.
- 中山至大・井之口希秀・南谷忠志, 2000, 日本植物種子図鑑. 東北大学出版会, 642p.
- 農林省農林水産技術会議事務局監修, 1967, 新版標準土色帖.
- ペドロジスト懇談会, 1984, 野外土性の判定. ペドロジスト懇談会編 土壤調査ハンドブック, 博友社, 39-40.
- 佐伯秀治・升 秀夫・早川典之, 1998, 臨床検査シリーズ 寄生虫鑑別アトラス－オールカラー版－. 株式会社メディカルサイエンス社, 162P.
- 齊藤崇人・田中義文, 2007, 寄生虫卵殻の形態分類. 徳永重元博士献呈論集, パリノ・サーヴェイ株式会社, 407-416.
- 島倉巳三郎, 1973, 日本植物の花粉形態. 大阪市立自然科学博物館収蔵目録 第5集, 60p.
- 渡嘉敷義浩, 1993, 沖縄に分布する島尻マージおよびジャーガルの土壤特性. ペドロジスト, 37, 99-112.
- 氏家 宏・兼子尚知, 2006, 地域地質研究報告(5万分の1地質図幅) 那覇及び沖縄市南部地域の地質, 独立行政法人産業技術総合研究所 地質調査総合センター, 48P.



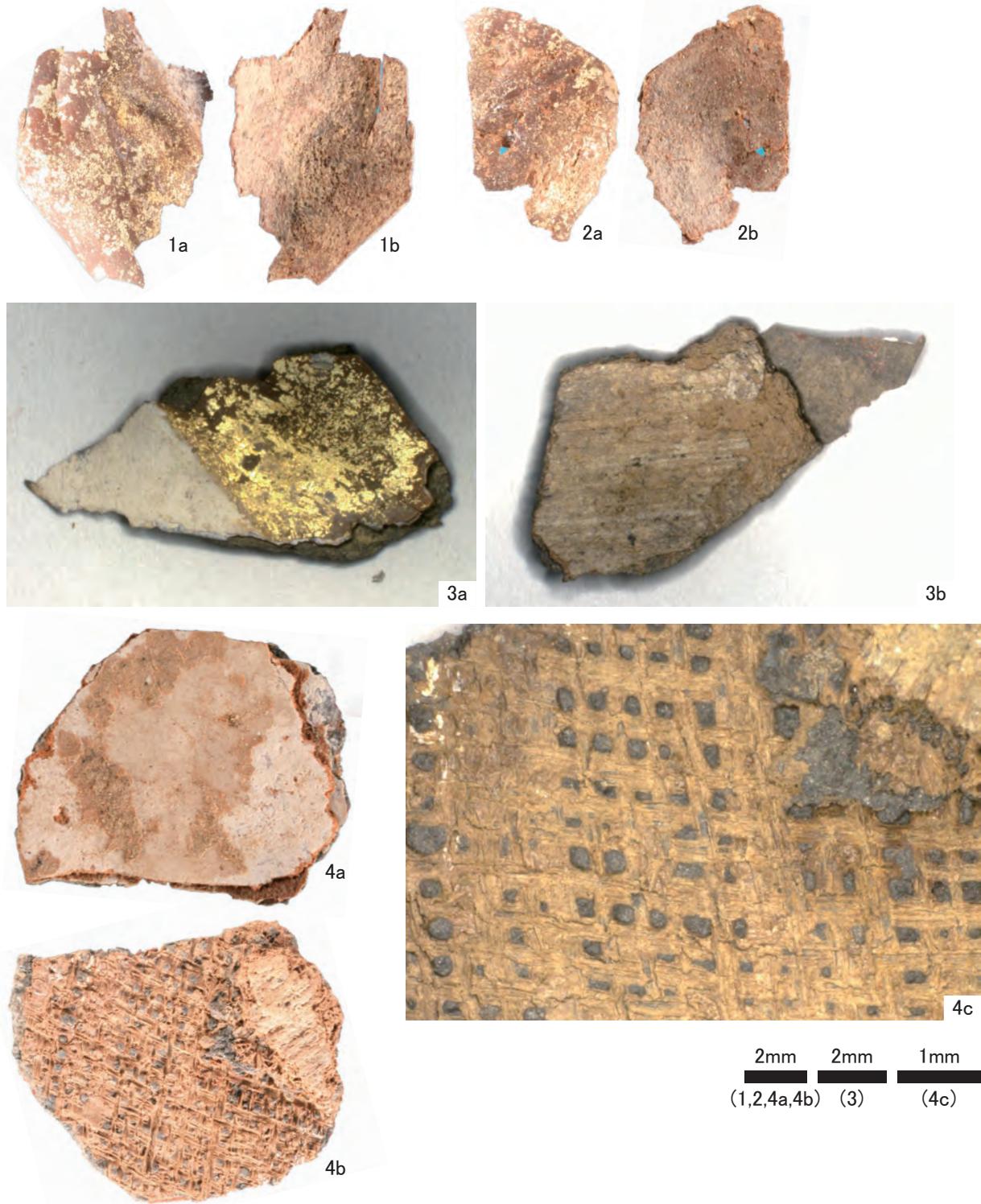
- 1 . 回虫卵(トレンチ7 石組み1;褐色土)  
 3 . マキ属(トレンチ7 石組み1;暗褐色土)  
 5 . シイ属(トレンチ7 石組み1;暗褐色土)  
 7 . カヤツリグサ科(トレンチ7 石組み1;瓦層)  
 9 . キク亜科(トレンチ7 石組み1;暗褐色土)  
 11 . アカメガシワ 種子(トレンチ7 石組み1;褐色土)  
 13 . カタバミ属 種子(トレンチ7 石組み1;瓦層)
- 2 . マツ属(トレンチ7 石組み1;暗褐色土)  
 4 . コナラ属アカガシ亜属(トレンチ7 石組み1;暗褐色土)  
 6 . イネ科(トレンチ7 石組み1;暗褐色土)  
 8 . アカザ科(トレンチ7 石組み1;暗褐色土)  
 10 . タンポポ亜科(トレンチ7 石組み1;暗褐色土)  
 12 . エノコログサ属 果実(トレンチ7 石組み1;暗褐色土)  
 14 . シヤジクモ科 卵胞子(トレンチ7 石組み1;III層一括)

図版88 寄生虫卵・花粉化石・種実遺体



1. 玉製品(トレンチ7 石組み1;褐色土)
2. 玉製品(トレンチ7 石組み1;褐色土)
3. 玉製品(トレンチ7 石組み1;褐色土)

図版89 玉製品



1 . 金箔製品(トレンチ7 石組み1;褐色土)  
3 . 金箔製品(トレンチ7 石組み1;褐色土)

2 . 金箔製品(トレンチ7 石組み1;褐色土)  
4 . 金箔製品(トレンチ7 石組み1;褐色土)

図版90 金箔製品

## 第6章 結語

### 1 はじめに

平成23年度の発掘調査では、中城御殿の敷地南側において7本のトレントを設定した。その結果、地表下30cm前後の高さから各種の遺構が検出された。これらの遺構の多くは明治3(1870)年に着工し、明治7(1874)年に完成した中城御殿の遺構であるが、中城御殿造営以前の遺構や、昭和20(1945)年の沖縄戦で破壊された後の遺構も存在する。

### 2 中城御殿以前（グスク時代以前）

中城御殿の土地の基盤層（地山）は、琉球石灰岩、泥岩（クチャ）、砂岩（ニービ）、赤土（マージ）であることがこれまでの調査で判明している。敷地南東側の石牆付近はクチャ、敷地南西側の石牆付近はニービである。また敷地北側の石牆付近はマージで、敷地西側の庭園周辺は琉球石灰岩である。敷地中央については、地山は確認されていない。

トレント1～4においては、標高97.6m以下で青灰色のクチャを確認し、北に向かうにつれて低くなることがわかった。トレント6においては標高96m以下で明黄褐色のニービを確認した。

先史時代の遺構は確認されていないが、石斧が1点出土している。搅乱層から出土しているので、敷地外から持ち込まれた可能性もあるが、先史時代に人が生活した可能性を示す資料である。

### 3 中城御殿以前（グスク時代～明治3年）

18世紀初頭の様子を示した首里古地図によると、中城御殿が造営される以前は、北谷御殿、本部按司、福地親雲上、侍易、阿嘉嶺筑登之などの屋敷があったことがわかる。これらの屋敷は線で区切られていることから、土地を区画する石垣のような施設があった可能性がある。また屋敷があったということは、地面は平坦にならされていたと考えられる。隣り合う屋敷の地面の高さが同じであったかどうかは不明であるが、阿嘉嶺筑登之の屋敷周辺をのぞいて高低差は小さかったと考えられる。

トレント1～4は北谷御殿、トレント5～7は本部按司の敷地の範囲内にあたり、石組み2・3や石積み2・5～8がこの時期に相当する遺構と考えられる。

### 4 中城御殿当時（明治3年～昭和20年）

大広間については、軒先のラインを示す溝（溝4）と石を確認できたが、明確な柱跡は確認できなかった。また大広間の南に広がる庭園については、大きく土地が削られていて当時の地形や灯籠などは残っていないかった。大広間一帯の地山はクチャであるため水はけが悪く、調査中に雨が降ると水抜きを行った。大広間の南には、正門近くの中門に伸びる道もあったが（第4図や図版3）、残されていないことがわかった。

御番所については、軒先の石畳（石敷き3）や珊瑚砂利を敷いた地面（トレント4の7層）を確認した。石敷き3の周辺には造成土と考えられる赤褐色土や明赤褐色土（トレント4の8・10層）が広がっており、その下に地山のクチャがある。

御取次之間については、建物の西端ラインを示す溝を確認した（溝3）。また御取次之間から南に伸びる瓦石垣の根石（石積み3）や中門の跡（溝2）を確認できた。これらは地山のクチャを掘り込んでいる。

取納座については、軒先の石畳（石敷き1）や珊瑚砂利を敷いた地面（トレント5の12層）、瓦石垣の跡（石積み4）を確認できた。

門番詰所（第5図では御供屋）については、明確な建物の痕跡を確認できなかった。ここには地山のニービに由来する黄褐色の造成土が厚く堆積している。

中城大親については、建物の規模や位置を直接示す遺構は確認できなかったが、建物の南側にあった石垣（石積み1・9）が見つかったことから、建物の大まかな位置を知ることが出来る。

### 5 中城御殿以後（昭和20年～現在）

昭和25（1950）年に首里市役所と首里市営バス営業所が中城御殿跡地に置かれる。古写真によると、西側に4棟の建物が設置されていたことがわかる。トレント5の北端周辺で確認されたコンクリートの基礎が、これらの建物の基礎であった可能性がある。トレント4の石敷き2とその南側において石灰岩の石粉を突き固めて平坦面をつくった部分（3・4層）も、この時期のものである可能性がある。

昭和41（1966）年に琉球政府立博物館が開館し、昭和47（1972）年の日本復帰に伴い沖縄県立博物館に改称された。その後に設置されたと考えられる掲示板の支柱跡が、トレント5の北側で検出された2基のコンクリート敷き土坑である。また駐車場と前庭を区切るコンクリートがトレント3～5で確認された。

### 引用・参考文献（第5章を除く）

- 井伊文子 1972『仏桑花燃ゆ』燈影舎  
井伊文子 1978『仏桑華の花ひらく』柏樹社  
沖縄県都市計画・モルール課 2010「中城御殿跡地整備検討委員会資料」沖縄県都市計画・モルール課  
沖縄県土木建築部 1994『首里城公園基本設計』沖縄県土木建築部  
沖縄県立博物館 1993『旧中城御殿-石牆工事地域にかかる第一次発掘調査-』沖縄県立博物館  
沖縄県立博物館 1994『旧中城御殿-旧中城御殿石垣工事にかかる第2次発掘調査-』沖縄県立博物館  
沖縄県立博物館 1995『旧中城御殿-旧中城御殿石垣工事にかかる第3次発掘調査-』沖縄県立博物館  
沖縄県立博物館 1996『沖縄県立博物館50年史』沖縄県立博物館  
沖縄県立博物館 1992『旧中城御殿関係資料集』沖縄県立博物館  
沖縄県立埋蔵文化財センター 2010『中城御殿跡-県営首里城公園 中城御殿発掘調査報告書（I）-』沖縄県立埋蔵文化財センター調査報告書 第53集 沖縄県立埋蔵文化財センター  
沖縄県立埋蔵文化財センター 2011『中城御殿跡-県営首里城公園 中城御殿跡発掘調査報告書（2）-』沖縄県立埋蔵文化財センター調査報告書 第58集 沖縄県立埋蔵文化財センター  
沖縄県立埋蔵文化財センター 2012『中城御殿跡-県営首里城公園 中城御殿跡発掘調査報告書（3）-』沖縄県立埋蔵文化財センター調査報告書 第63集 沖縄県立埋蔵文化財センター  
嘉手納宗徳 1970『首里古地図』沖縄風土記刊行会  
海洋博記念公園管理財団 2010『首里城尚家関係者ヒアリング調査業務報告書』海洋博記念公園管理財団  
鎌倉芳太郎 1982『沖縄文化の遺宝』岩波書店  
球陽研究会編 1974『球陽 読み下し編』沖縄文化史料集成5 角川書店  
月刊沖縄社 1965『おきなわ今と昔』月刊沖縄社（沖縄県立図書館所蔵）  
首里城公園基本計画調査委員会 1993『首里城公園基本計画調査報告書』首里城公園基本計画調査委員会  
田辺泰編 1972『琉球建築』座右宝刊行会  
津軽照子 1942『うら紙草紙』河北書房  
都築昌子 2005「龍のひそむ島-近世琉球の風水-」『沖縄県史各論編第4巻 近世』沖縄県教育委員会  
仲宗根源和（編） 1933『沖縄縣人物風景写真帳』沖縄縣人物風景写真帳刊行會（沖縄県立図書館所蔵）  
平凡社地方資料センター 2002『沖縄県の地名 日本歴史地名体系48巻』平凡社  
真栄平房敬 2009「中城御殿の思い出と復元促進にむけて」『蘇る首里城 首里城復元期成会35年の歩み』首里城復元期成会

## 報告書抄録

ふりがな	なかぐすぐうどうんあと									
書名	中城御殿跡									
副書名	県営首里城公園中城御殿発掘調査報告書(4)									
卷次	一									
シリーズ名	沖縄県立埋蔵文化財センター調査報告書									
シリーズ番号	第67集									
編著者名	羽方誠、株式会社パリノ・サーヴェイ									
編集機関	沖縄県立埋蔵文化財センター									
所在地	〒903-0125 沖縄県中頭郡西原町字上原193-7 TEL 098-835-8752									
発行年月日	平成25(2013)年3月29日									
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 ° ′ ″	東経 ° ′ ″	調査期間	調査面積	調査原因		
なかぐすぐうどうんあと 中城御殿跡	おきなわけん な は じ 沖縄県那覇市 しゅり おおなかちょう 首里大中町	市町村	遺跡番号	26° 13' 15"	127° 43' 05"	2011.08.01～ 2012.01.19	311m <sup>2</sup>	県営首里城公園 整備事業		
所収遺跡名	種別	主な時代		主な遺構		主な遺物		特記事項		
中城御殿跡	屋敷跡	近世～現代		溝 石積み 石組み 石敷き 造成層	中国産陶磁器 タイ産褐釉陶器 本土産陶磁器 沖縄産陶器 陶質土器、瓦質土器 土器 円盤状製品、碁石 金属製品、錢貨 煙管 貝製品、骨製品 ガラス製品 石器、石製品 瓦、博 貝類・脊椎動物遺体					
要約	中城御殿は国王の世子が暮らした邸宅跡で、1870年から1945年まで存在していた。戦後は県立博物館が建てられるが、老朽化により撤去される。調査は遺構の残存状況を確認する目的で7本のトレシチを設けてを行い、石畳や石積み・地面・造成層などの遺構が良好な状態で検出された。									

---

---

沖縄県立埋蔵文化財センター調査報告書 第67集

# 中城御殿跡

—県営首里城公園 中城御殿跡発掘調査報告書(4)—

発行日 平成25(2013)年3月29日

発行・編集 沖縄県立埋蔵文化財センター  
〒903-0125 沖縄県中頭郡西原町字上原193番地の7  
TEL:098-835-8751・8752

印 刷 合資会社 精印堂印刷  
〒902-0072 沖縄県那覇市字真地399-3

---

---

# 首里古地図

康熙39(1700)年に作製されたものである。これより2年前に江戸幕府から全国各藩に対して、  
地図を作製提出するよう指令が出ておるので、この地図もその一環であろう。

ところが、この地図も時代が経つにつれて、沿辺はなはだしく、成形のはじめごろには開くことさえ  
出来ず、まったく使用にたえない状態になっていた。秋姓家譜によると、九世紫俊(さいしゅん)が  
絵図書調方筆者として、この地図を再調製したことがみえている。当時、原図は使用できないので、  
星敷図帳、山東図長を参考し、各当事者にきたりして、この仕事を完成し、褒賞を賜っている。

この地図の原図は6畳敷大の大きさで、研究に不便になるため、  
よく観察して書きあらためたものである。(嘉手納宗徳)

